

第 49 図 2A区IV層礫群

2A249・2A252・2A366・2A381・2A384・2A407・2A409・2A414・2B308・3B491・3B522。接合関係は第47図2B区で南北にジグザグに結んだ部分である。

第50図2と第51図1は接合する同一資料群（2A381・2A384・2A409・2A414他）の一部である。2は二つの剥片が接合。長さ7.7cm・幅6.3cm・厚さ3.0cm・重さ106.2g。1は長さ7.0cm・幅4.5cm・厚さ1.6cm・重さ35.8g。

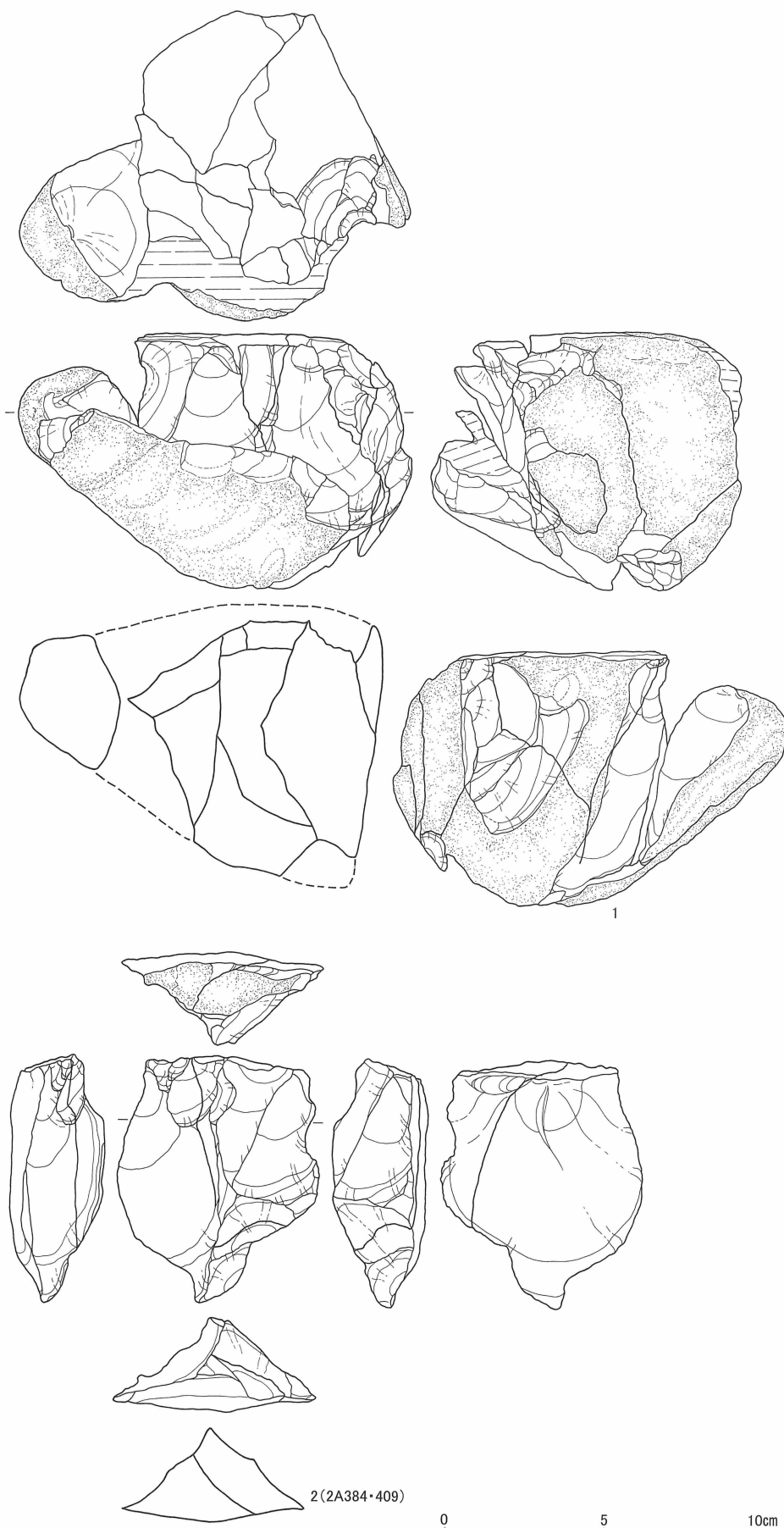
第51図2・3はIV層から出土し接合する。接合状態を第56図1に示した。2は長さ5.1cm・幅4.1cm・厚さ0.8cm・重さ12.6gである。3は長さ2.8cm・幅5.3cm・厚さcm・重さ8.1gである。

第51図4（2A342）は2A区のIV層、5（2B971）は2B区のIV層から出土し接合する。接合状態（第56図4）は5が先に剥がされているが剥片の上半分は折れて存在しない。4は長さ6.5cm・幅2.9cm・厚さ3.2cm・重さ47.4g。

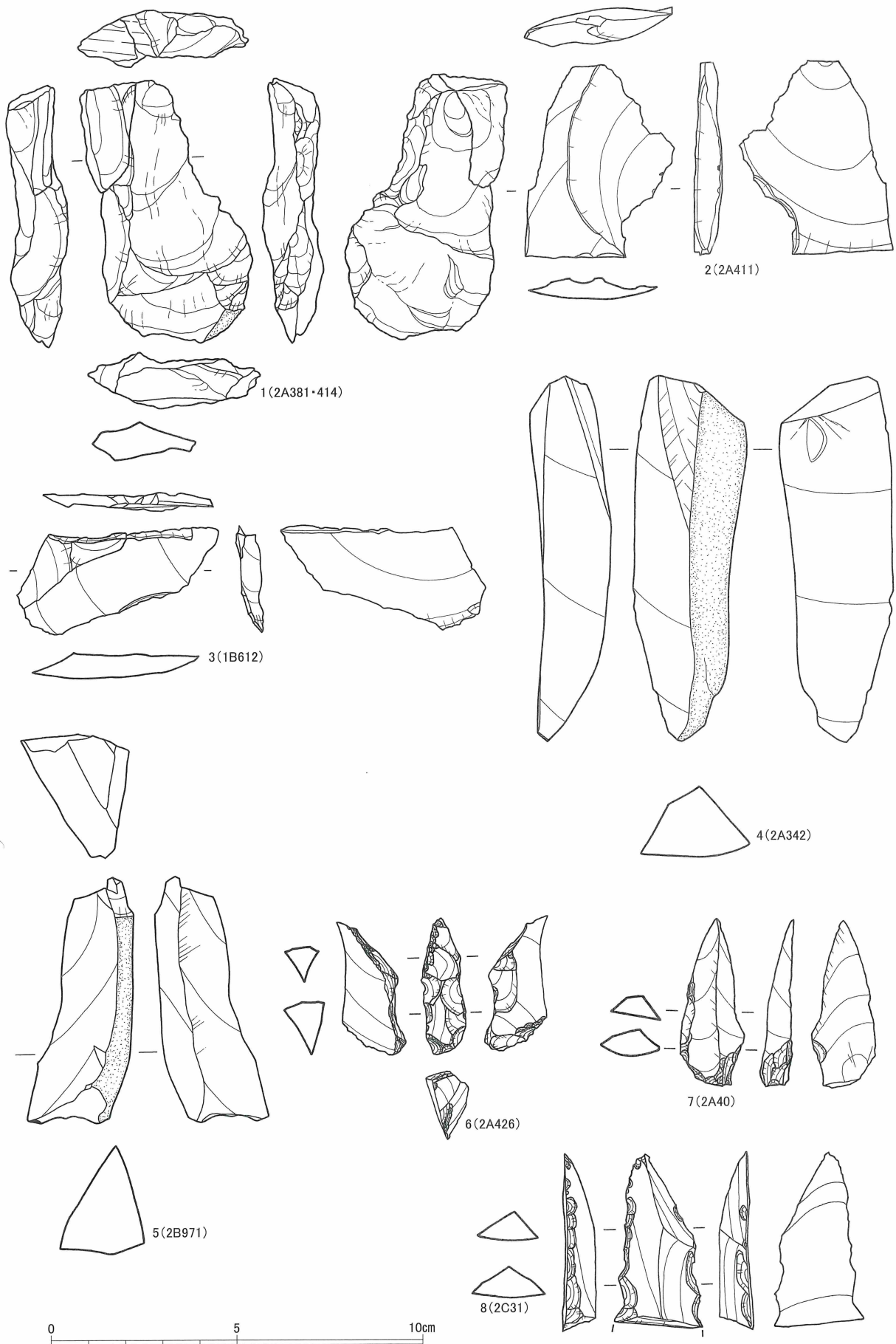
5は長さ9.7cm・幅23.0cm・厚さ2cm・重さ52.8g。

第51図6（2A426）は2A区のIV層上部から出土した。剥片の上下を大きく取り払ったナイフ形石器で、二次加工剥離は表裏両面方向からなされている。長さ3.6cm・幅1.7cm・厚さ1.6cm・重さ5.0g。

第51図7（2A40）は2A区のIII層から出土したナイフ形石器である。先端が尖る剥片を素材にし、整形加工



第 50 图 2A区IV層出土石器接合图

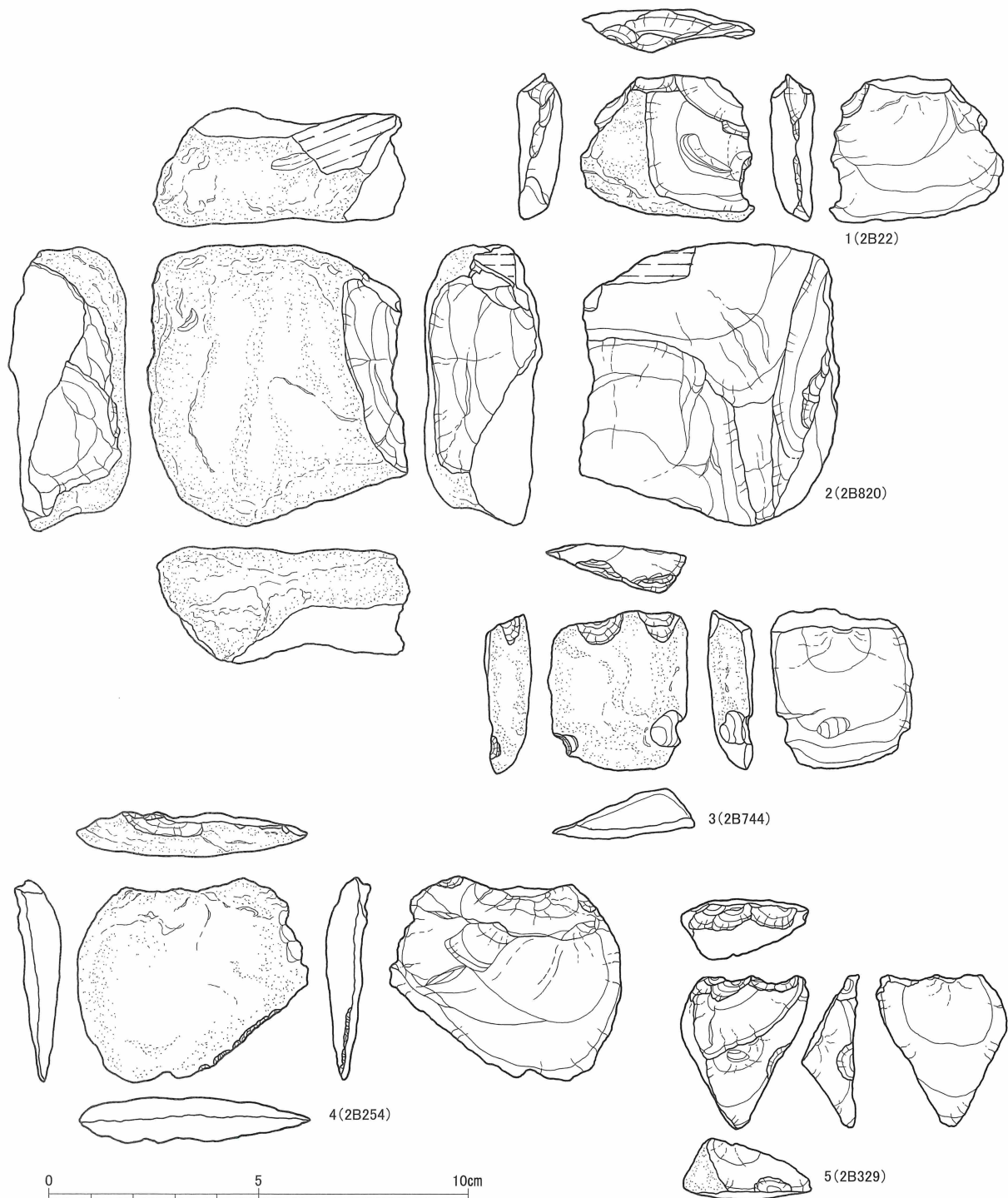


第 51 图 2A区Ⅲ·Ⅳ层出土石器

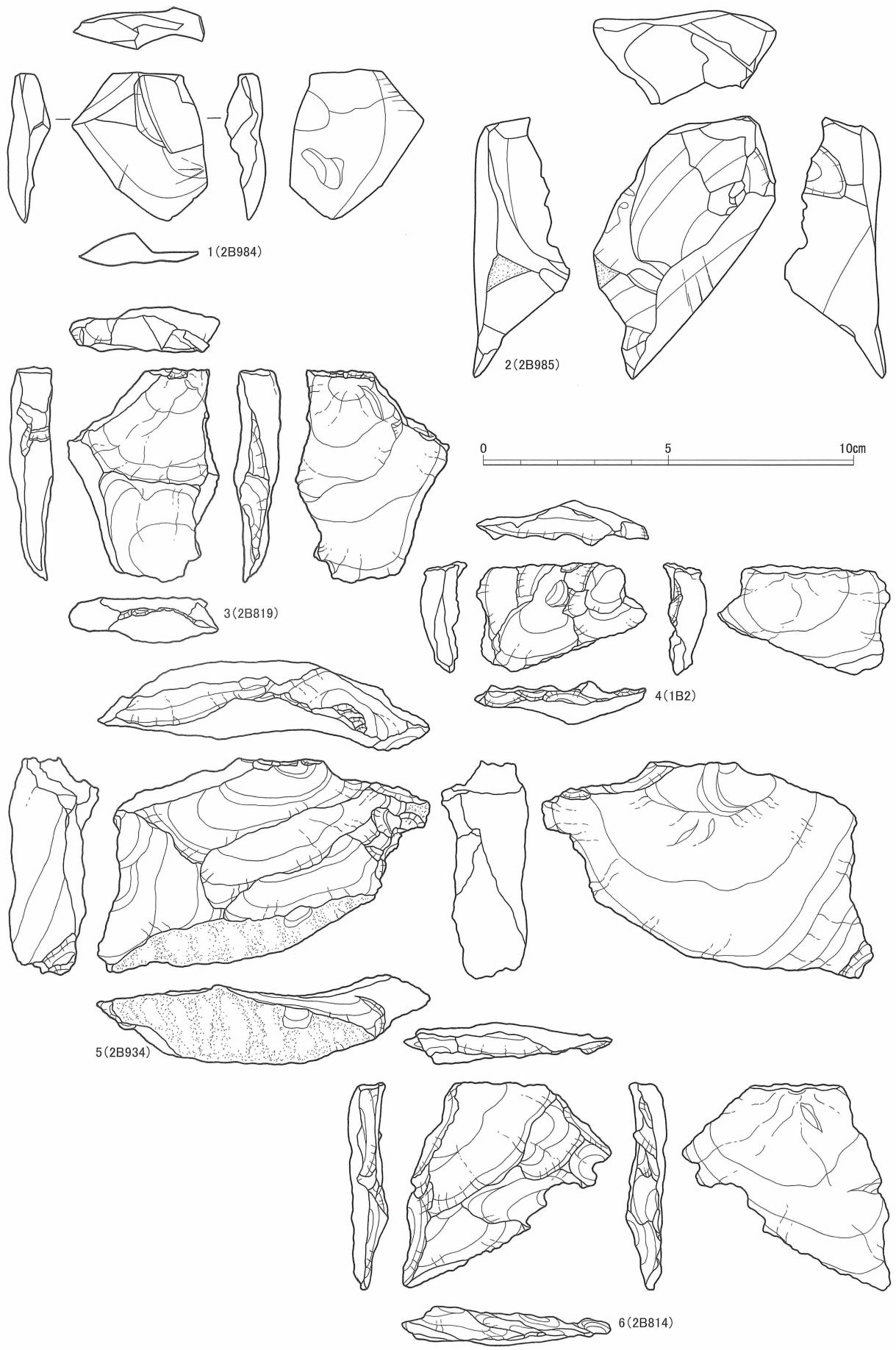
は剥片の打面付近だけに行う。長さ4.5cm・幅1.7cm・厚さ0.8cm・重さ4.1g。片島型ナイフ形石器である。

第51図8 (2C31) は2C区のⅢ層から出土した。縦長の剥片打点側を基部としたナイフ形石器で、基部側を欠く。整形のための剥離は先端の片側以外で行われている。幅が広いので剥片尖頭器である可能性もある。長さ4.6cm・幅2.4cm・厚さ0.9cm・重さ8.5g。

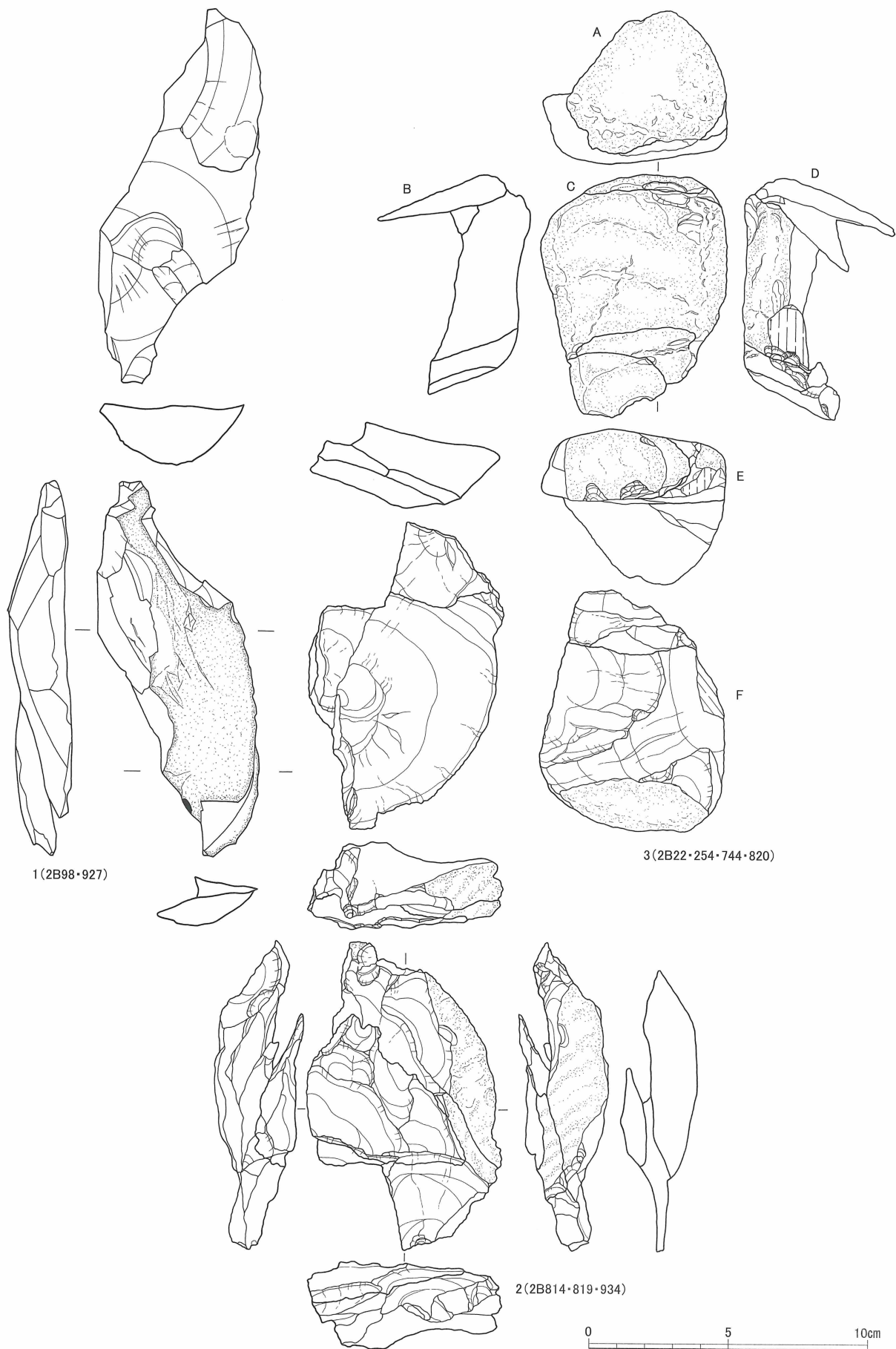
第52図1～5は2B区のⅢ・Ⅳ層から出土した接合資料である (2B22・2B254・2B329・2B7442B820)。その接合状態を第54図3に示す。接合図で説明する。Bの断面図は上から4・5・2・1・3である。2の分厚い剥片は石核となり、3・1が剥ぎ取られている。接合状態では長さ6.7cm・幅8.6cm・厚さ5.5cm・重さ79.5gである。



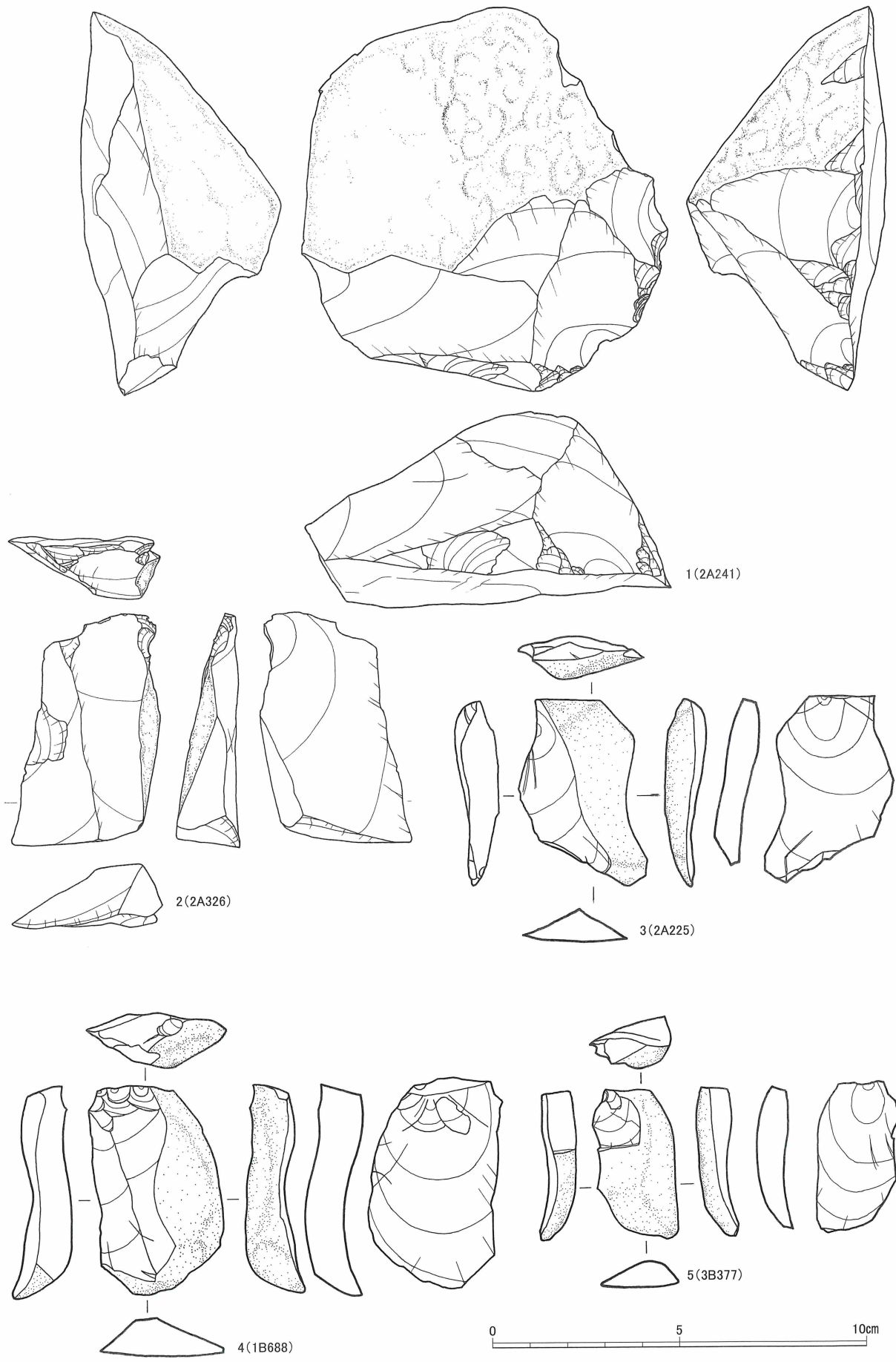
第52図 2B区Ⅲ・Ⅳ層出土接合資料



第 53 图 2B区Ⅲ·Ⅳ層出土接合資料



第 54 图 2B区Ⅲ·Ⅳ层出土石器接合图

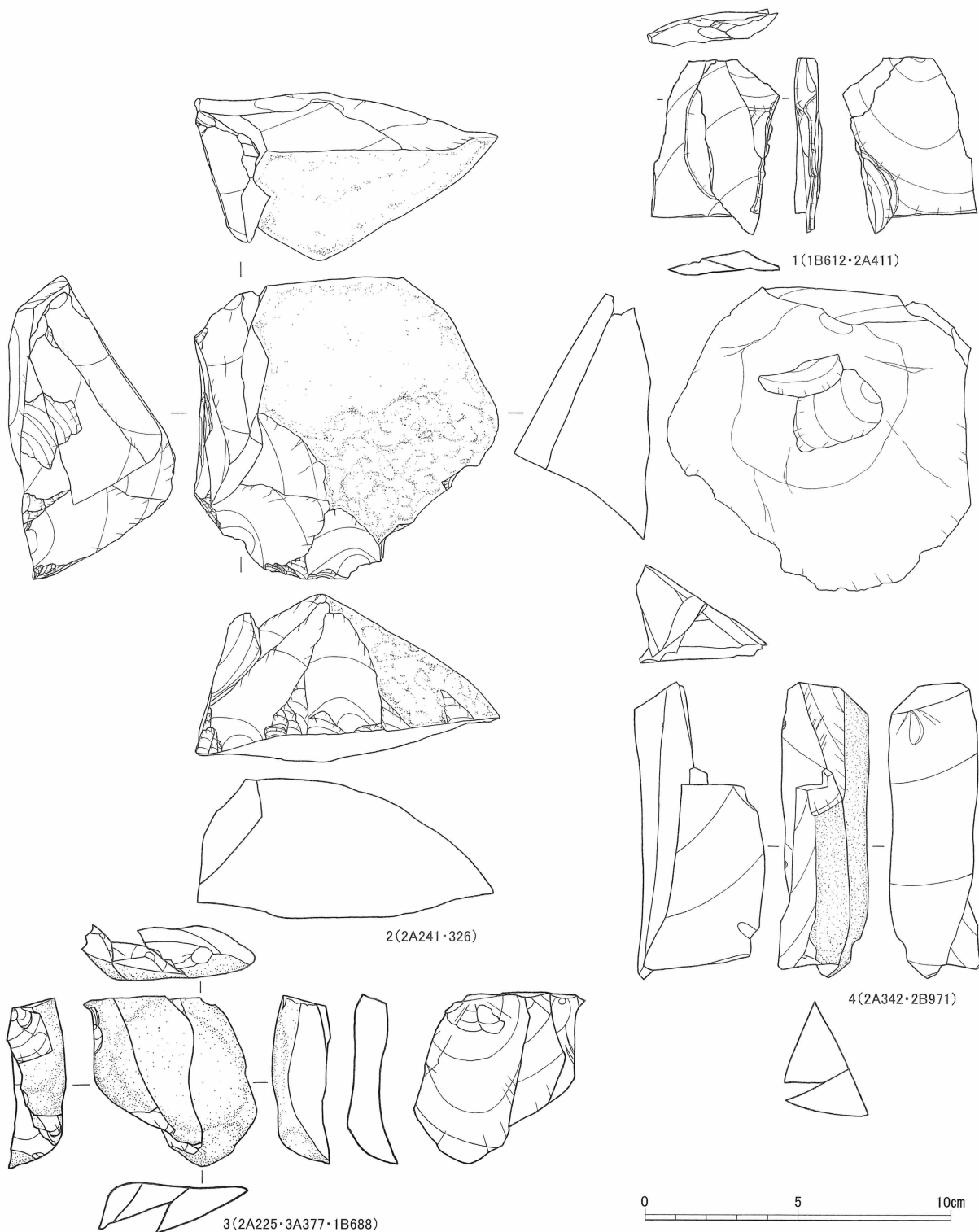


第 55 图 2A区他Ⅲ·Ⅳ層出土接合資料

第53図 1・2は2B区の北部の接近した位置のIV層から出土した(2B984・2B985)。その接合状態を第59図3に示す。1は長さ3.9cm・幅3.7cm・厚さ1.0cm・重さ11.8g。2は長さ7.0cm・幅4.9cm・厚さ2.6cm・重さ47.8g。二つの剥離順は不明。

第53図 3～6は1B区のⅢ層(4)と2B区のIV層(3・5・6)から出土し、接合する剥片である(1B2・2B814・2B819・2B934)。2B区の3点は区の北西隅に分布し、1B区の接合資料もそのそばに分布した。

第54図 1は2B区Ⅲ層(2B98)とIV層(2B927)から出土した剥片の接合図である。

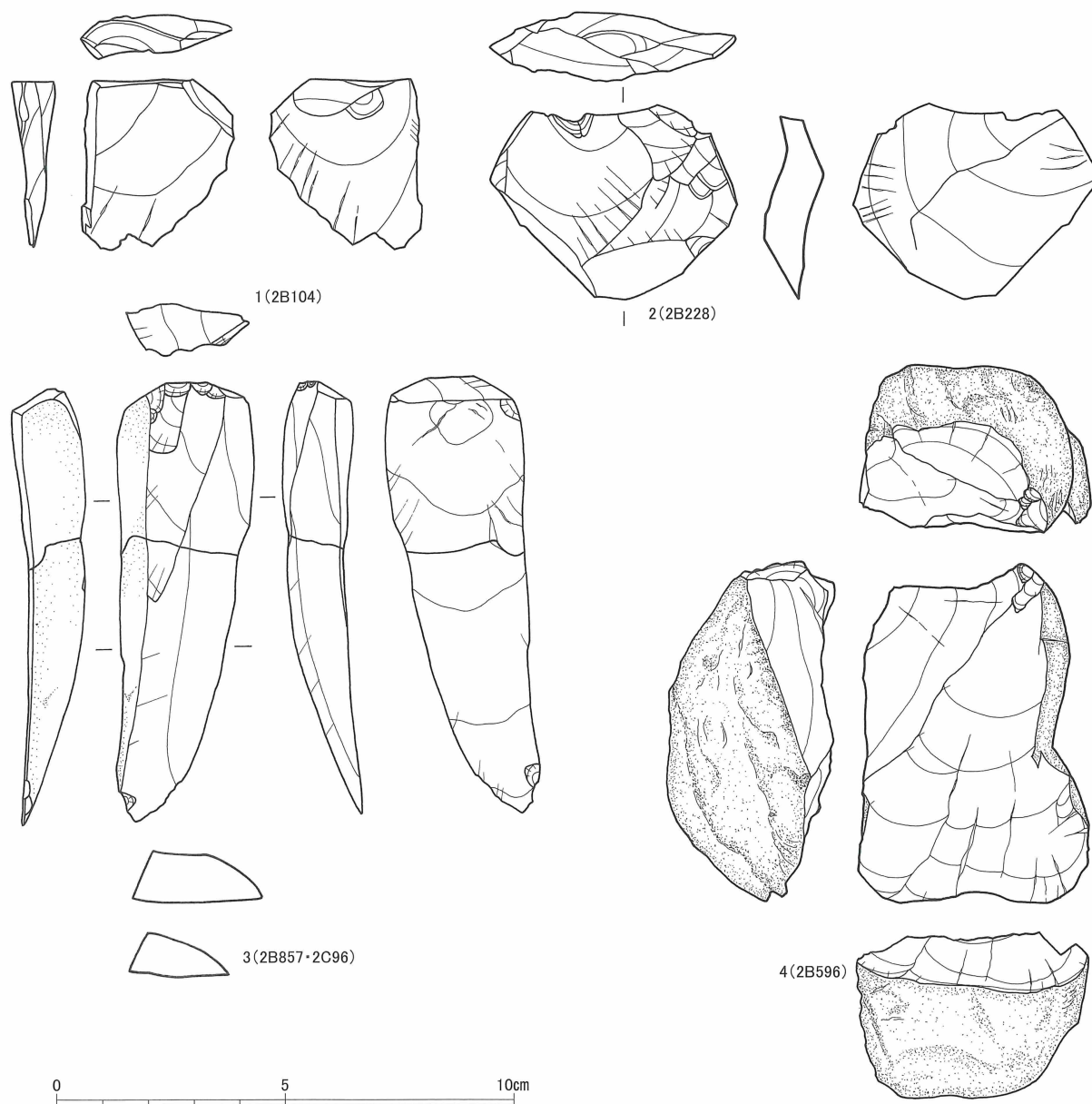


第56図 2A区Ⅲ・IV層出土石器接合図

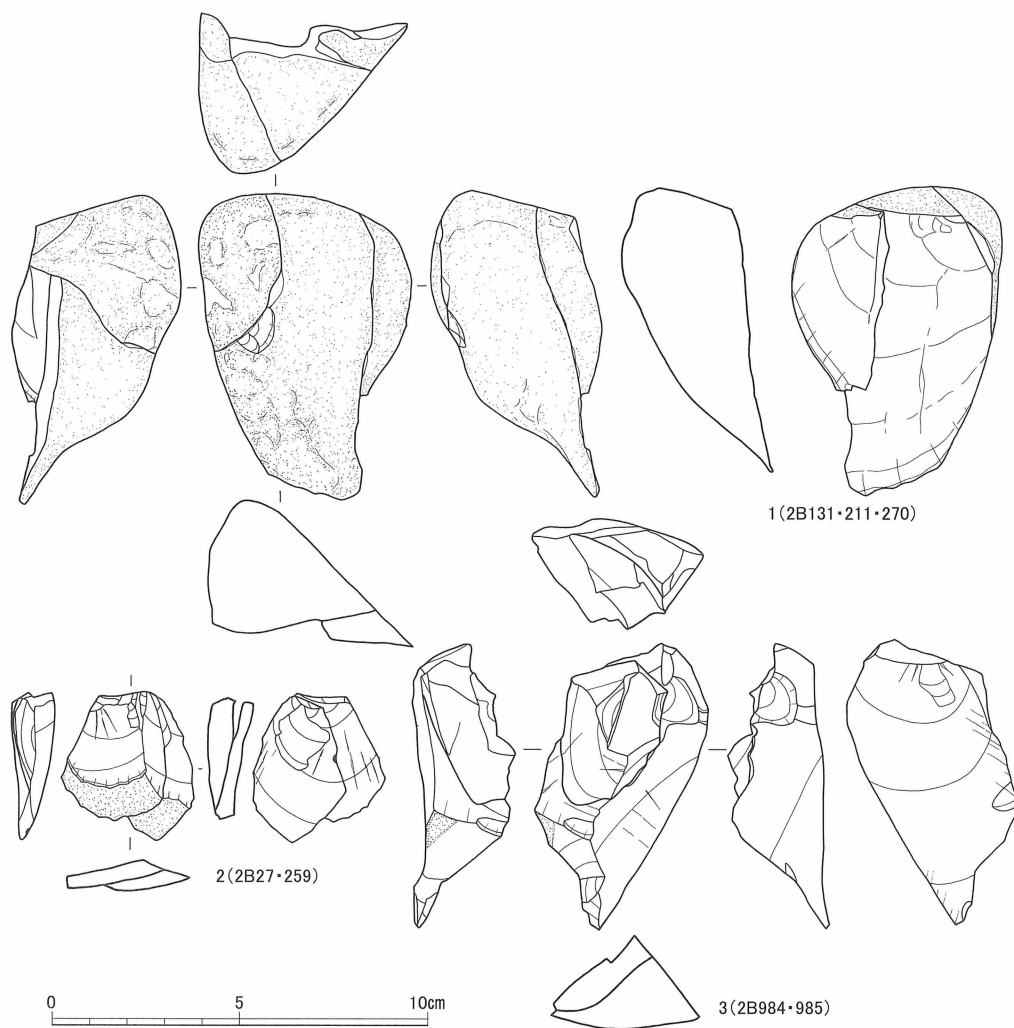
第55図 1・2は2A区のⅢ層から出土した接合資料(2A241・2A326)で、接合状態を第54図3に示した。1は長さ9.8cm・幅10.2cm・厚さ5.3cm・重さ471.3g。2は長さ6.1cm・幅4.0cm・厚さ1.7cm・重さ33.5g。1が石核から剥がされてから2は剥離されている。この石核は片面に自然面を残す厚手の剥片を素材としており、主要剥離面を打面として、先の尖った剥片を複数枚剥離している。

第55図 3～5は接合する剥片で、3は2A区Ⅲ層から(2A225)、4は1A区Ⅲ層から(1B688)、5は3A区Ⅲ層(3B377)から出土した。4が最も遠い6B区との接合である。4(6B8)は6B区の南西隅に出土し、3(2A225)までは19.3m離れていた。これらは第56図3に示すように接合し、打面は同じ平面である。

第56図 1は1B区のⅢ層から出土した第40図3(1B357)・4(1B725)が接合(1B612・2A411)した状態である。3は打点部分を欠いているが、4と同じくらいの位置から打撃・剥離されたとみられる。3は長さ5.7cm・幅3.8cm・厚さ0.8cm・重さ15.1gである。4は長さ6.3cm・幅4.4cm・厚さ2.4cm・重さ55.9gである。この石核は第57図1()・2は2B区のⅡ層(1)、Ⅲ層(2)から出土した接合する剥片である。その接合状態を第100-1図2に示す。1は長さ3.7cm・幅3.3cm・厚さ1.0cm・重さ9.7gである。2は長さ4.2cm・幅5.4cm・厚さ1.5cm・重さ23.9gである。



第57図 2B区Ⅲ・Ⅳ層出土接合資料他



第 59 図 2B区Ⅲ・Ⅳ層出土石器接合図

第57図 3は2B区・2C区のⅢ層から出土した。先端の尖った縦長の剥片が上下に二分したものである。長さ9.6cm・幅3.0cm・厚さ1.5cm・重さ39.9gである。

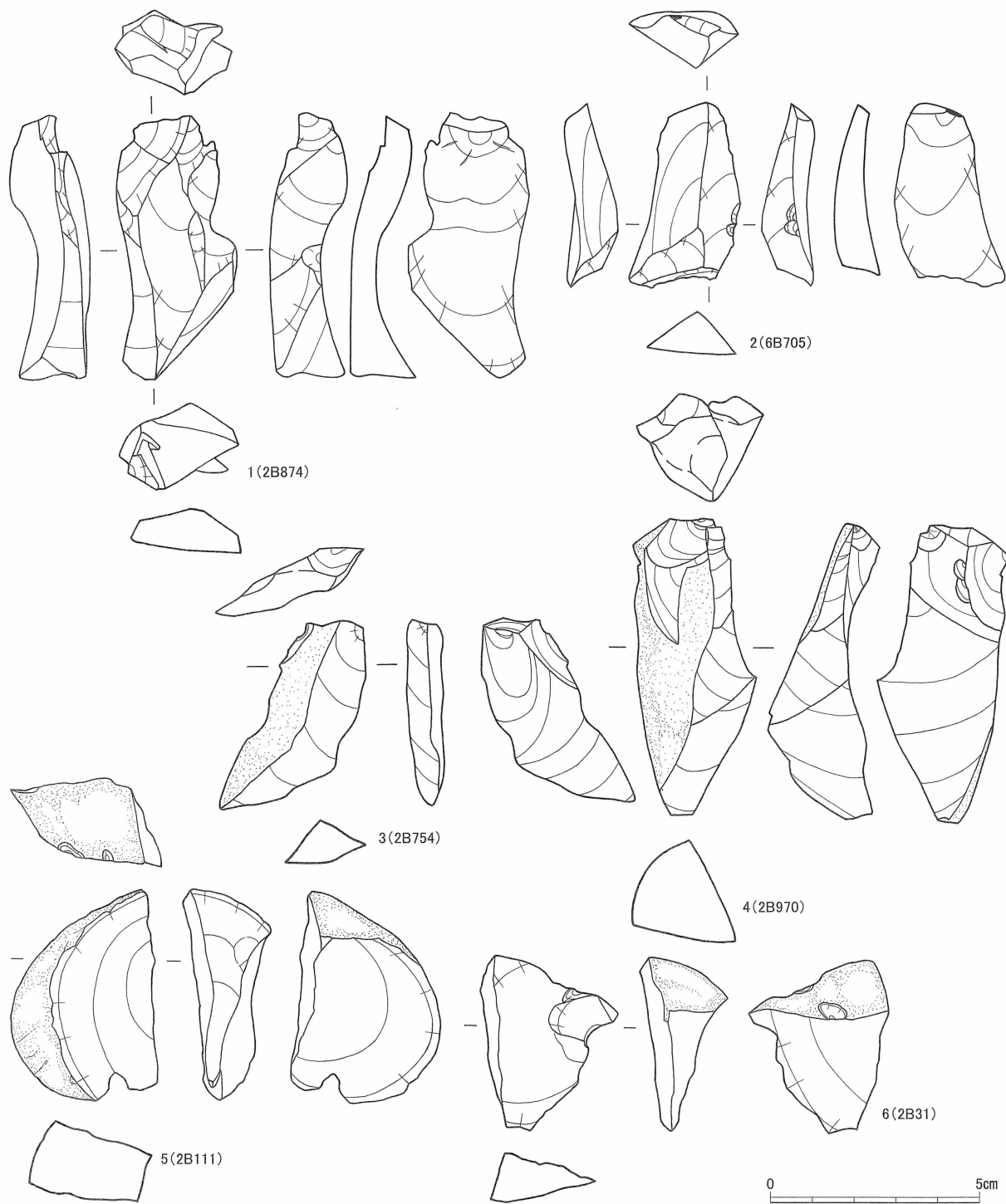
1B区ではⅣ層から未加工の流紋岩の転礫が2点出土した。これらは復元した接合資料から推定できる石器材料の原石が直径9～14cm程度であると同程度の大きさである。

第59図 1は第62図 1 (2B270)・2 (2B131)・3 (2B211) が接合した状態である。この接合例は2B区南東部に分布していた。接合状態では長さ8.1cm・幅6.0cm・厚さ3.2cm・重さ114gであり全体の規模は分からないが、この資料は礫の末端である。自然面を打撃して2→1→3の順に剥離している。これらの作業後の面を打面として目的の剥片を作出したのかどうかは分からない。

第60図 1 (2B874)・2 (6B705) は接合する剥片である。1は2B区北東部のⅣ層から、2は6B区北西部のⅤ層から出土し、距離は14.8m離れて接合した。剥離は1が先に剥離されている。1は長さ6.3cm・幅2.9cm・厚さ1.9cm・重さ24.4gで、2は長さ4.3cm・幅2.7cm・厚さ1.2cm・重さ9.4gである。

第60図 3 (2B754) と4 (2B970) は第61図 2のように接合する。2B区の南部中央のⅣ層から相互に約60cm離れて出土した。

第60図 5 (2B111)・6 (2B31) は2B区Ⅱ層から剥片が半分に割れて出土し、接合したものである。2B区の中央部分の南北に2.1m離れて接合した。5は長さ4.7cm・幅3.4cm・厚さ2.1cm・重さ27.0gである。6は長さ4.0cm・幅3.2cm・厚さ2.1cm・重さ12.7gである。



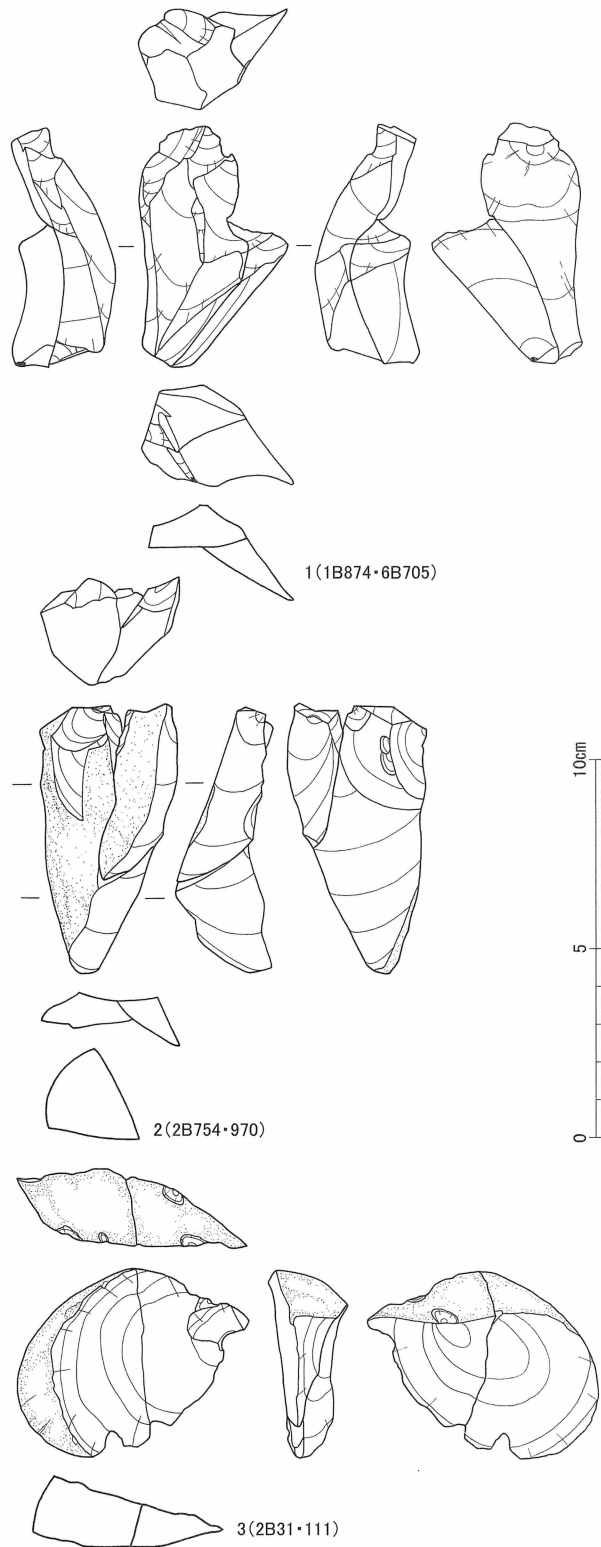
第 60 図 2B区Ⅲ・Ⅳ層出土接合資料

第62図6は4B区のⅢ層、7は2B区のⅣ層から出土し接合する剥片である。その接合状態を第64図2に示す。二つは同じ打撃面の一部を打撃し剥片を作っている。

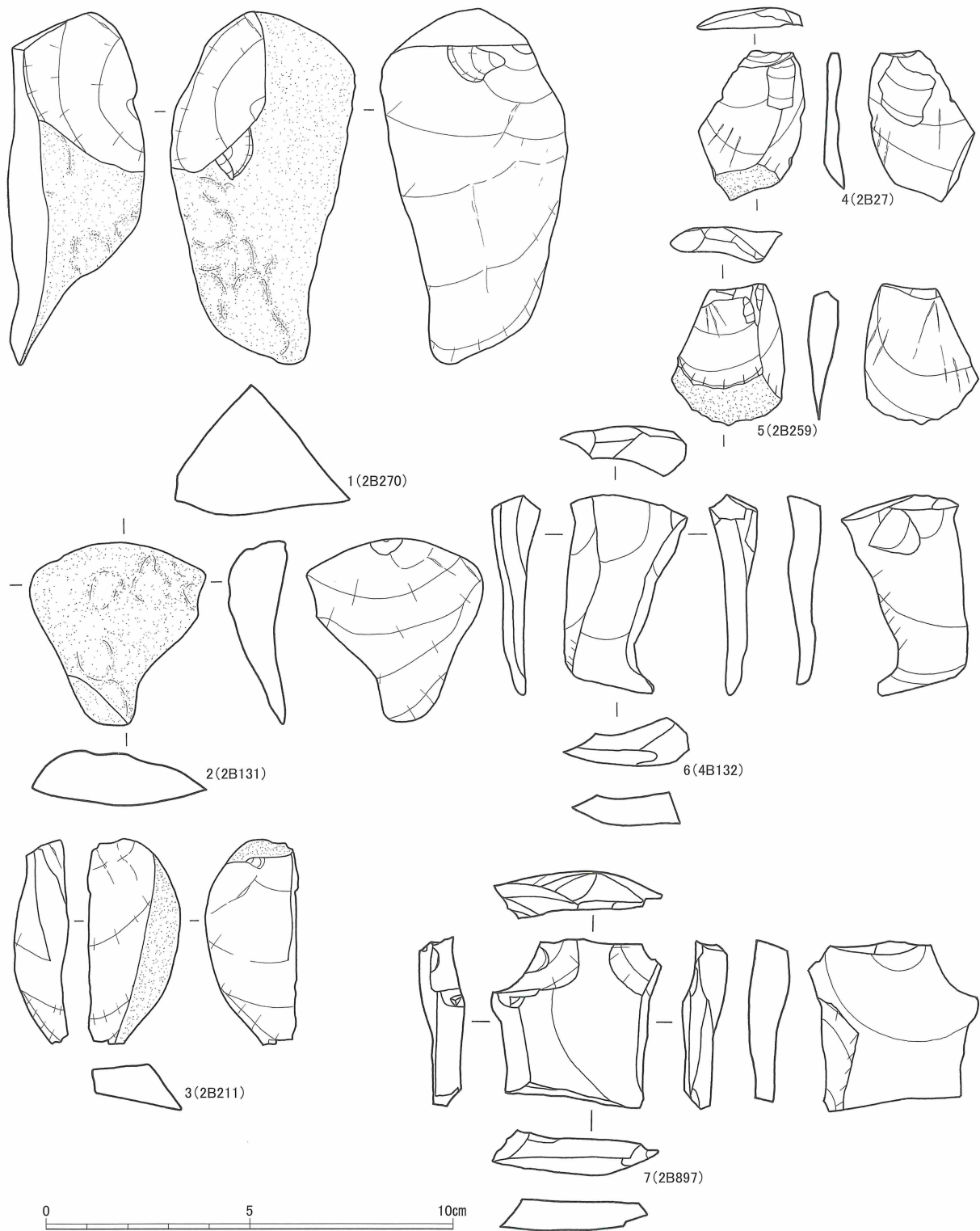
6は長さ4.1cm・幅3.9cm・厚さ1.0cm・重さ17.7g。7は長さ4.8cm・幅3.1cm・厚さ1.2cm・重さ10.7g。

第63図1(2B550)と2(2B732)は2B区のⅣ層から出土し接合する石核・剥片である。2B区の中央部やや北側で出土し、1.9mほど離れて接合した。接合状態を第64図3に示す。

1は長さ7.4cm・幅6.8cm・厚さ4.1cm・重さ178.4g。円礫を打ち割り、できた面を打面とし自然面の多い側に打面調整剥離をしている。2は長さ5.2cm・幅5.2cm・厚さ3.1cm・重さ50.1g。打面側の上部を欠損しており、もともとは1の上部にある面から剥離されたものである。また、第64図3のC図の接合状態からみて2を剥ぎ取る直前に左側で剥片剥離を行い、2の右側で剥片を剥離している。左→右に順次作業したのである。



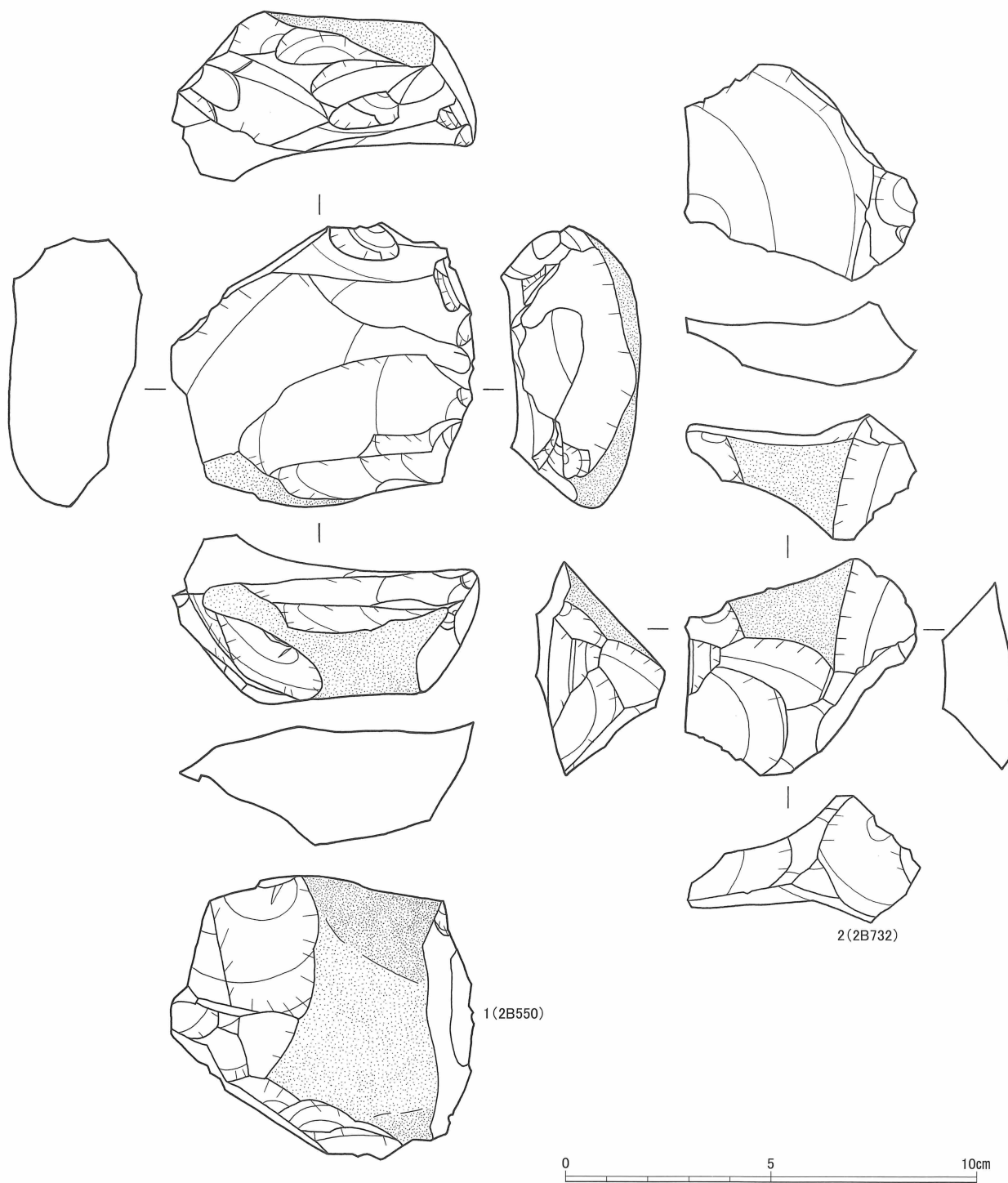
第 61 図 2B区他Ⅲ・Ⅳ層出土石器接合図



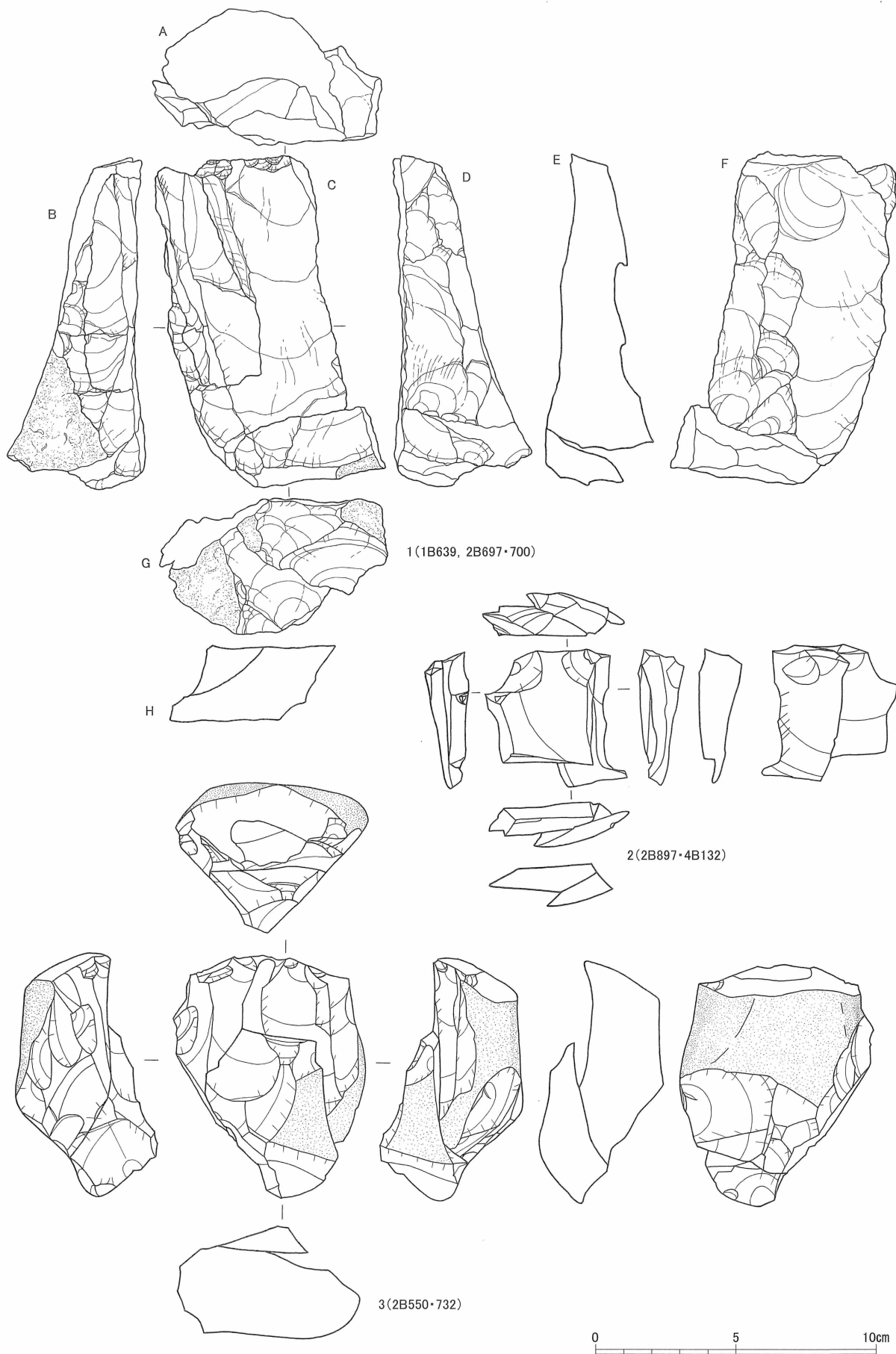
第 62 図 2B区他Ⅲ・Ⅳ層出土接合資料

第64図 1 は 2B区のⅣ層から出土した剥片（第65図1~3）の接合状態である（1B639・2B697・2B700）。出土した位置は1点が1B区の南東部と2B区が北西部である。接合図の説明をする。E図の下部は3、上部は1である。H図の左上は2、下は1である。3は他の剥片とは直交しかつ表皮側にある。3の除去後の面を使い1が縦長剥片を打ち剥いでいる。全体の大きさは、接合状態では長さ311.7cm・幅8.1cm・厚さ4.9cm・重さ339g。

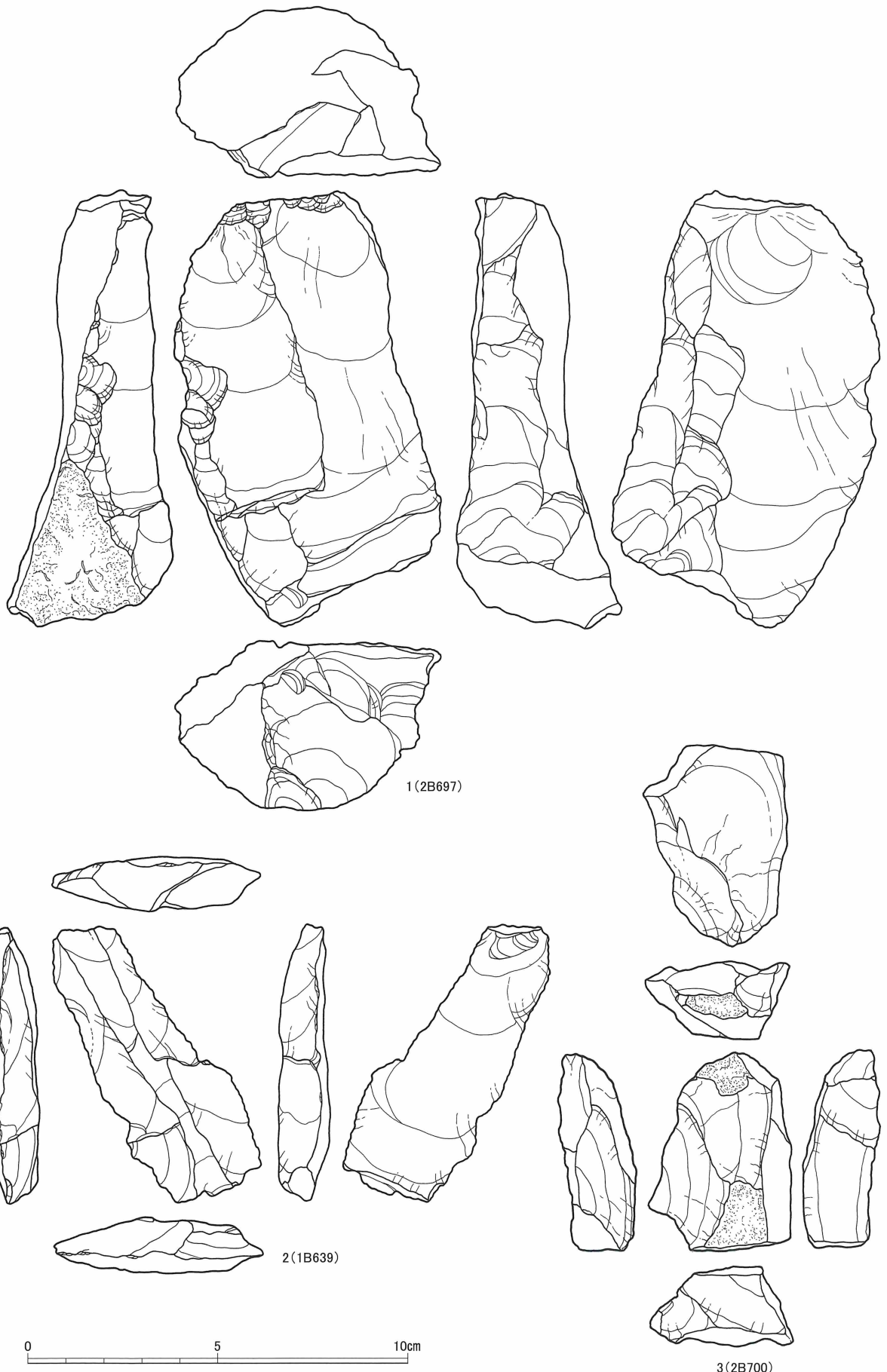
第66図 1 (2B57) は2B区Ⅲ層出土のナイフ形石器である。打面側を基部にし、剥片の片側半分以上の鋭利な辺を残し他は二次加工している。長さ4.7cm・幅1.8cm・厚さ1.3cm・重さ6.8g。



第 63 図 2B区他Ⅳ層出土接合資料



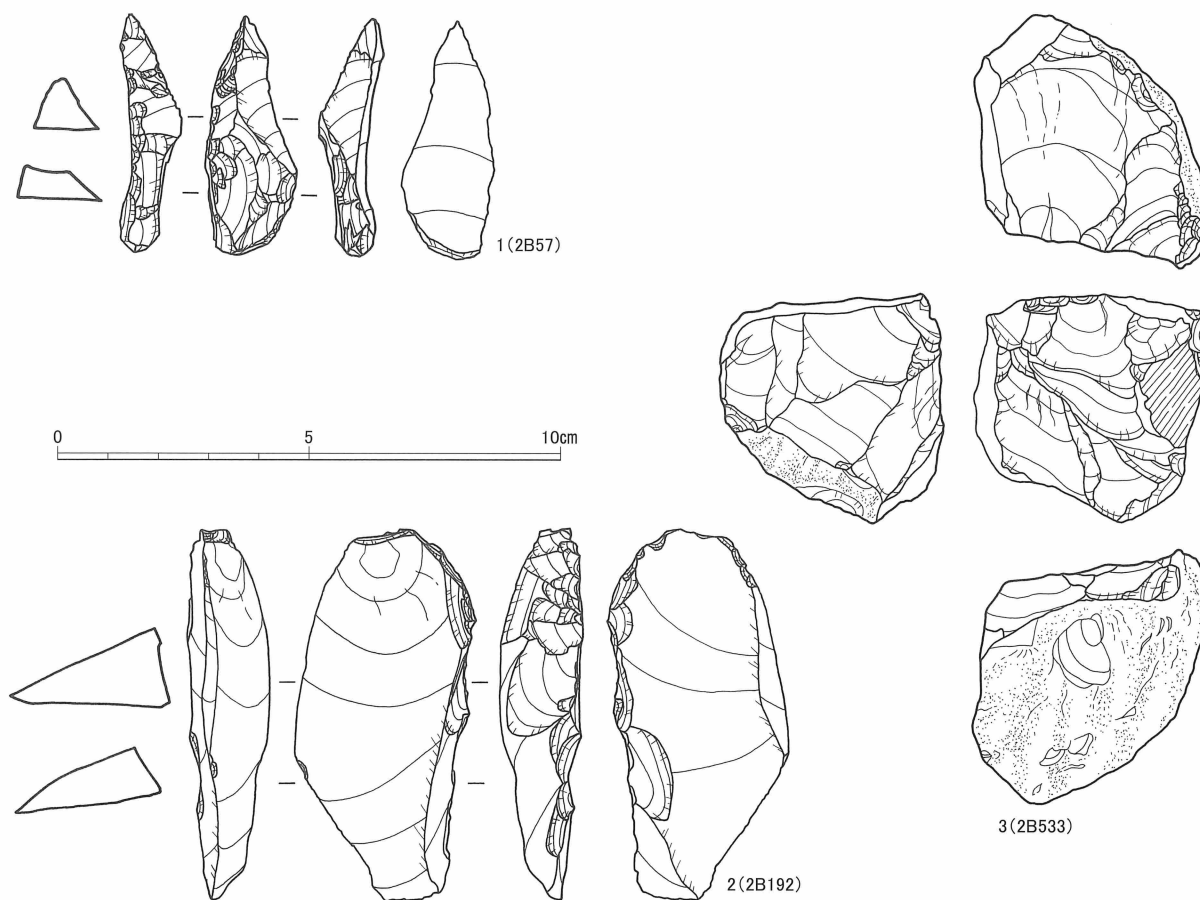
第 64 图 1B·2B区Ⅲ·Ⅳ層出土石器接合图



第 65 图 2B区IV層出土接合資料

第66図3 (2B533) は三方向から剥離を繰り返した石核である。自然面の円弧から推定すると本来は直径10cm以上はあったとみられる。長さ4.4cm・幅4.5cm・厚さ4.4cm・重さ121.7g。

第67-1図1は第67-2図・第67-3図の接合状態である(2B513・2B660・2B664・3B73・3B331・3B559)。2B区の剥片はIV層、3B区のはIII層で採り上げたが標高44.3m～44.7m付近に包含され、平面的には2B区南西部から3B区北西部に分布していた。接合状態の説明をする。G図は上から第67-2図2(2B660)・第67-3図1(2B513)・第67-3図3(3B331)・第67-2図1(3B559)・第67-3図2(打点側が3B664、末端が3B73)の順であり、この順に剥離作業が進行した。出土した5点全ての打面は共通の面を使って打撃している。その際、打面調整の剥離を行った形跡は認められない。空白状態の観察からさらに2B513の剥離の後、3枚程度同様の剥片が剥離され、3B331の後も1枚小さい剥片が剥離されている。

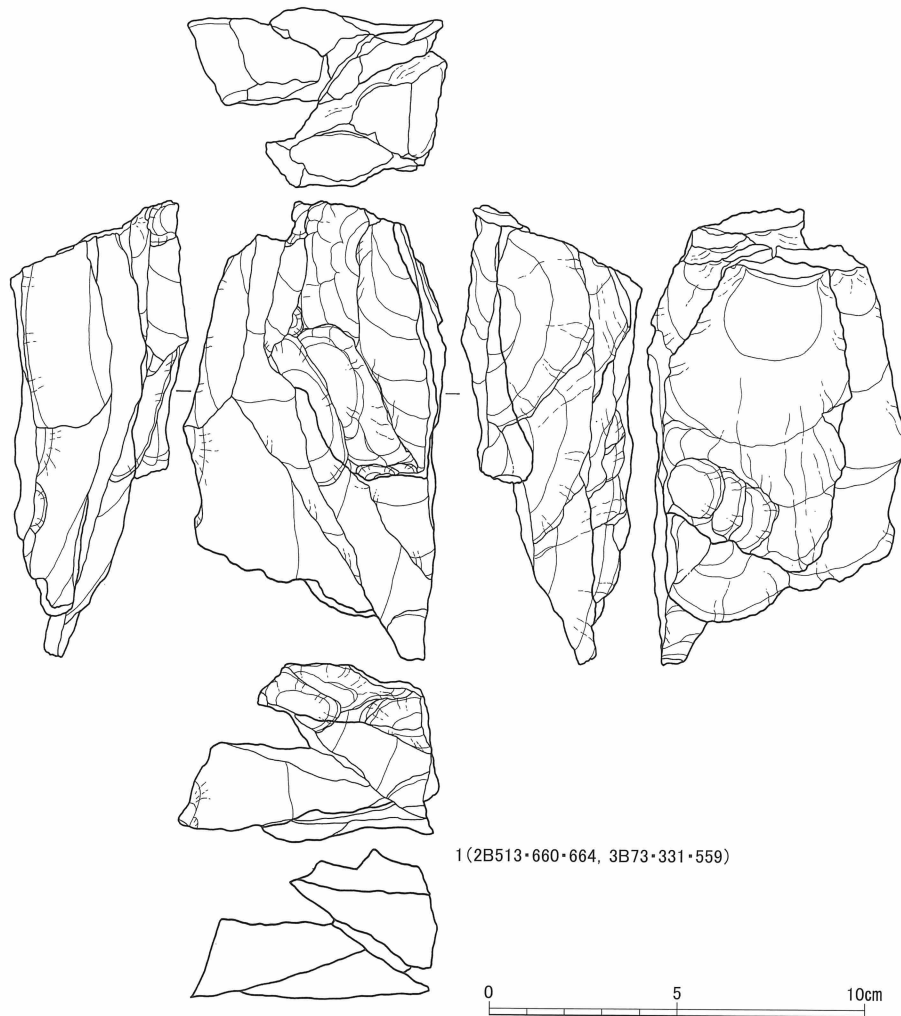


第66図 2B区Ⅲ・Ⅳ層出土石器

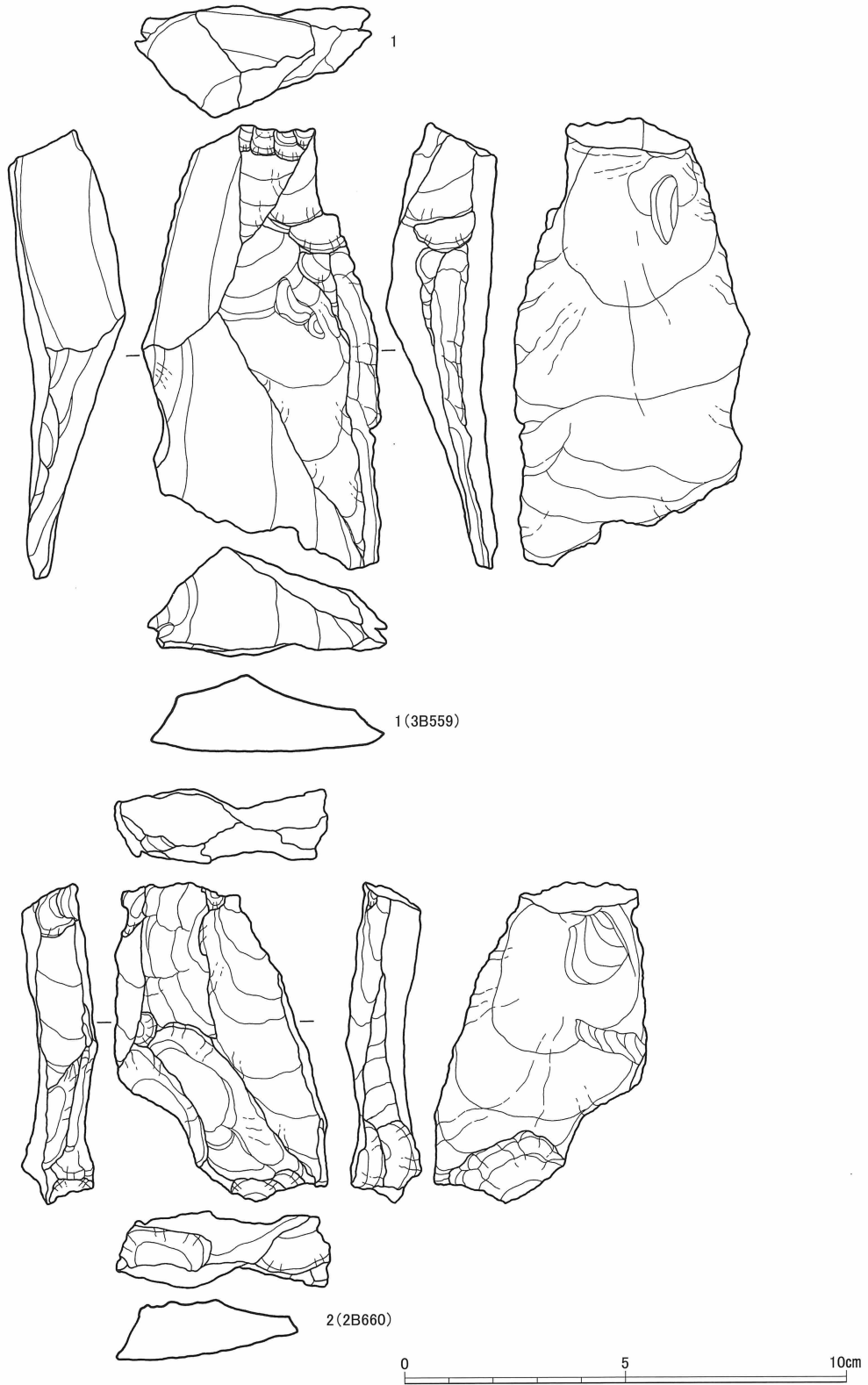
第68図1 (2B755) は2B区IV層から出土した剥片尖頭器である。2B区の南部中央付近で出土した。縦長剥片の打点両側、先端周囲の狭い範囲に二次加工剥離を加えている。長さ8.1cm・幅2.9cm・厚さ1.4cm・重さ26.6g。

第68図2 (2B948) は2B区北西部のIV層から出土した。三稜尖頭器の一部である。縦7.7cm・横2.6cm・厚さ2.0cm・重さ33.8gで基部を欠く。元は幅広の剥片らしく剥片打面を尖頭器の基部にし、主に剥片剥離面の片方側からと生じた稜線側から二次加工を行っている。主要剥離面には全く二次加工がなく、他の一面も最大幅の部分の小範囲に二次加工が行われているだけである。

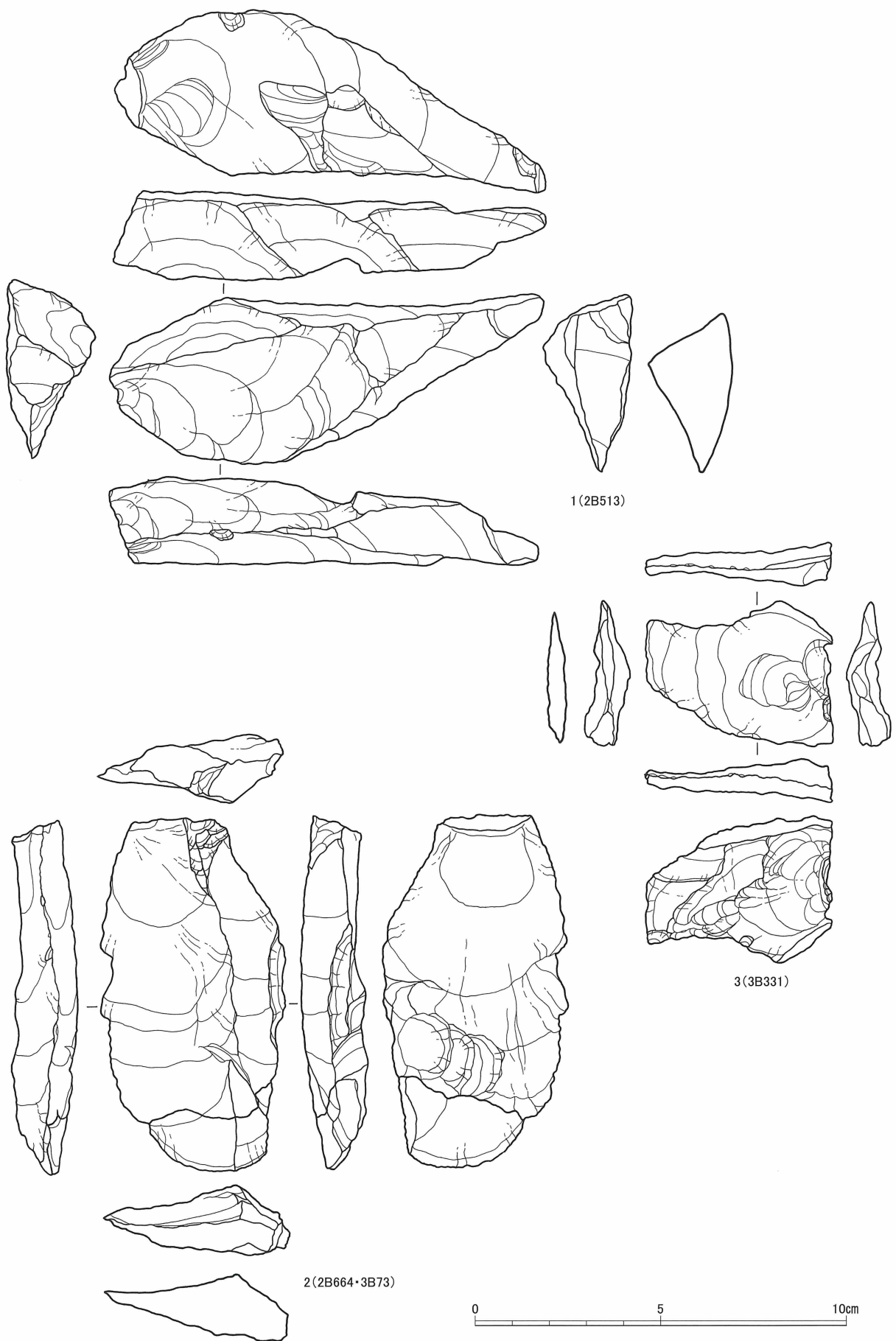
第69図 (2B631・2B730) は三稜尖頭器が2B区の南西部と北東部から2.2mほど離れた位置で出土し接合したものである。標高差は25cmあった。2点とも2B区IV層出土。素材となった剥片の基部を尖頭器の基部にしたとするなら先端を欠損していることになる。現状の規模は長さ13.8cm・幅2.2cm・厚さ2.3cm・重さ58.6gである。整形のための二次加工は主に主要剥離面以外の二面に対し行われ、主要剥離面からと生じた稜線側から、さらに両端付近では主要剥離面に対しても剥離作業を行い尖らせている。中央部分は背面が飛び出しており、稜線側からの剥離も行われているが薄くするためにはまだ十分ではない。二つに折れた部分の背面側にある稜線側からの剥離が折れた原因のようである。



第 67-1 図 2B・3B区Ⅲ・Ⅳ層出土石器接合図



第 67-2 图 2B·3B区Ⅲ·Ⅳ層出土接合資料



第 67-3 图 2B区Ⅲ·Ⅳ層出土接合資料

第70図1 (2B208) は2B区南東部のIV層出土の石核である。表面に自然面が残らないので元は大きな礫であり、分割した厚い剥片を素材にしている。長さ4.2cm・幅8.3cm・厚さ4.2cm・重さ272.6gである。

第70図2 (2B451) は2B区南部中央付近のIV層上部出土の石核で、もともと直径7cm強の円礫らしい。剥片を剥ぎ取る面に対し四方から打撃している。長さ5.2cm・幅7.0cm・厚さ4.9cm・重さ273.5g。2B区では石器実測図を示していない接合例がいくつかある。以下に概要を記す。巻末の写真図版に掲載した。

○主にIV層から出土した2B88・2B97・2B103・2B163・2B187・2B219・2B336・2B366・2B377・2B447・2B629・2B852の接合例がある。2B区の中央から南東部に分布した。

○2B193・2B234・2B480・2B837・2B845が2B区の西部に分布した。

○また、2B196・2B220・2B476・3B357の接合例はⅢ層・IV層から出土した。

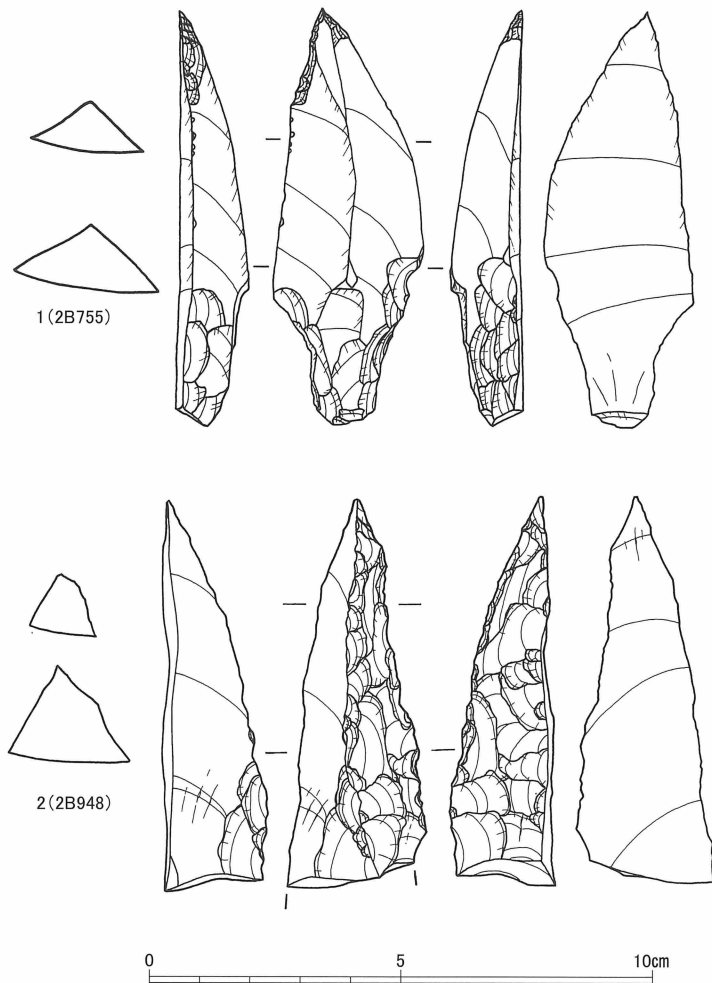
○さらに、2A213・2A329・2B33・2B165・2B209・2B503・2B547・2B685の主にIV層から出土した一群がある。

○2B609・2B667・2B827・2B830の一群がIV層から出土している。

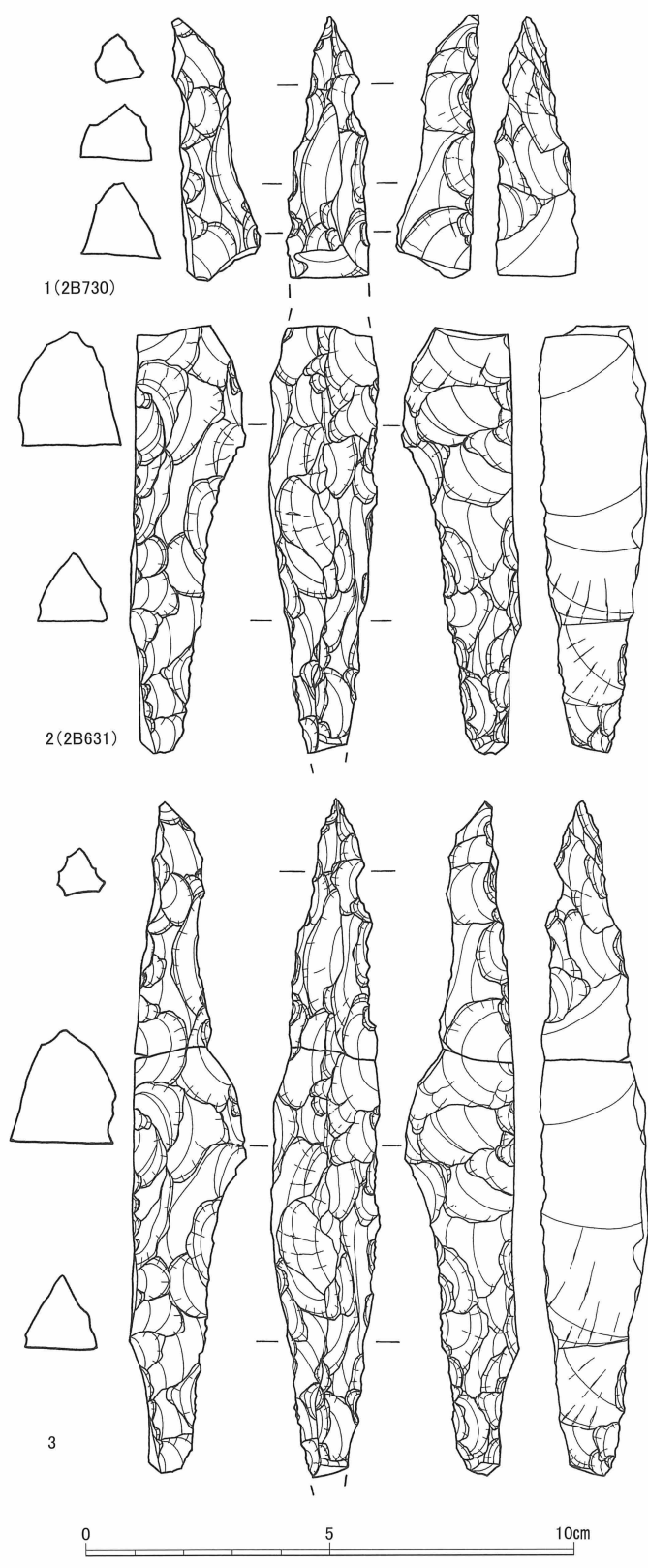
○2B661・2B826・3B272・3B401・3C75・3C137はⅢ層・IV層から出土した剥片の接合例である。

○IV層の2B974とⅢ層の3C134は剥片同士の接合例である。

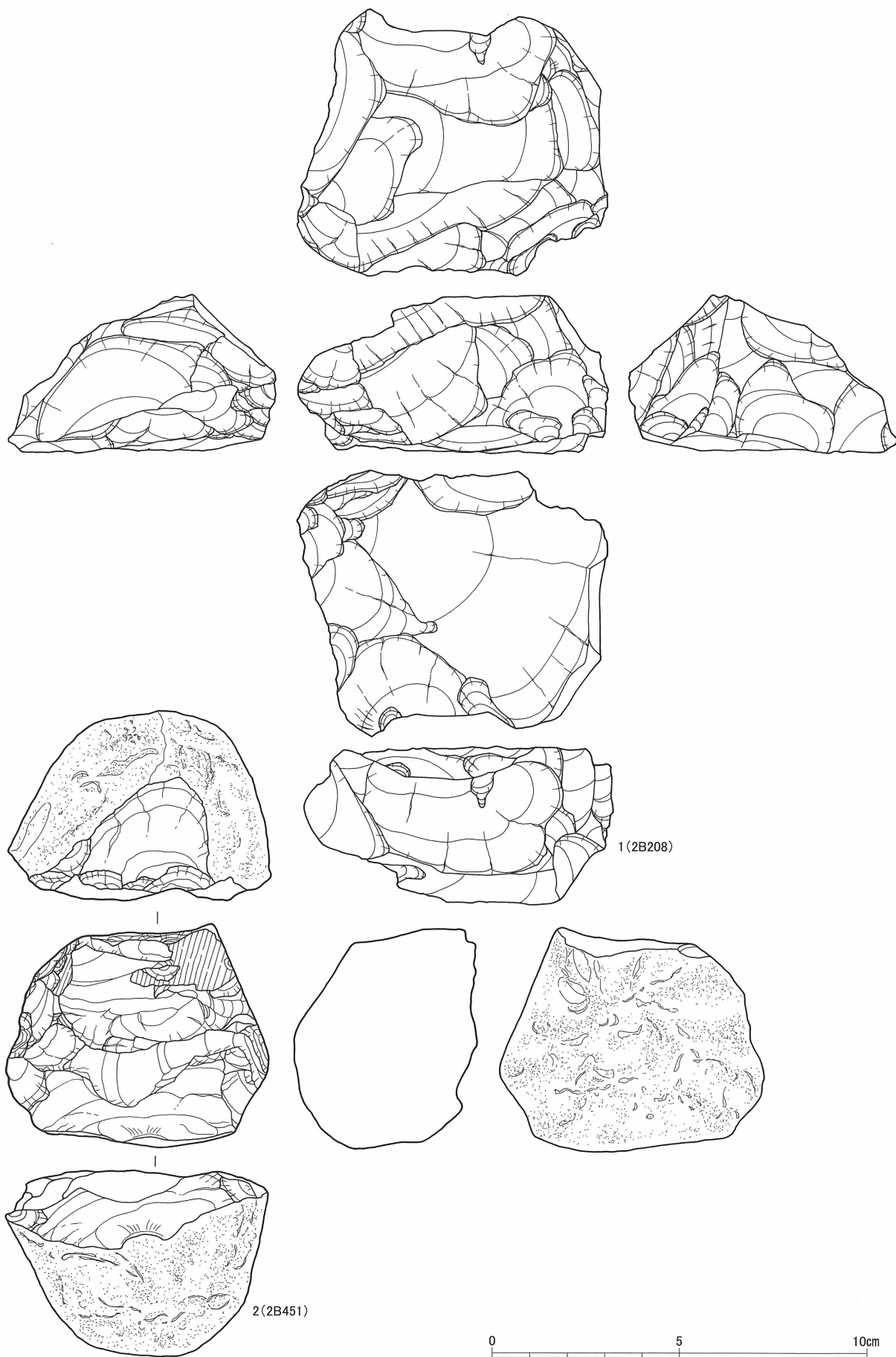
○2B137・2B661・2B826・3B272・3B401・3C75。



第68図 2B区IV層出土石器



第 69 图 2B区IV层出土石器



第 70 图 2B区Ⅲ·Ⅳ層出土石器

この他、2B区接合例Bとして一覧表に記した一群がある。

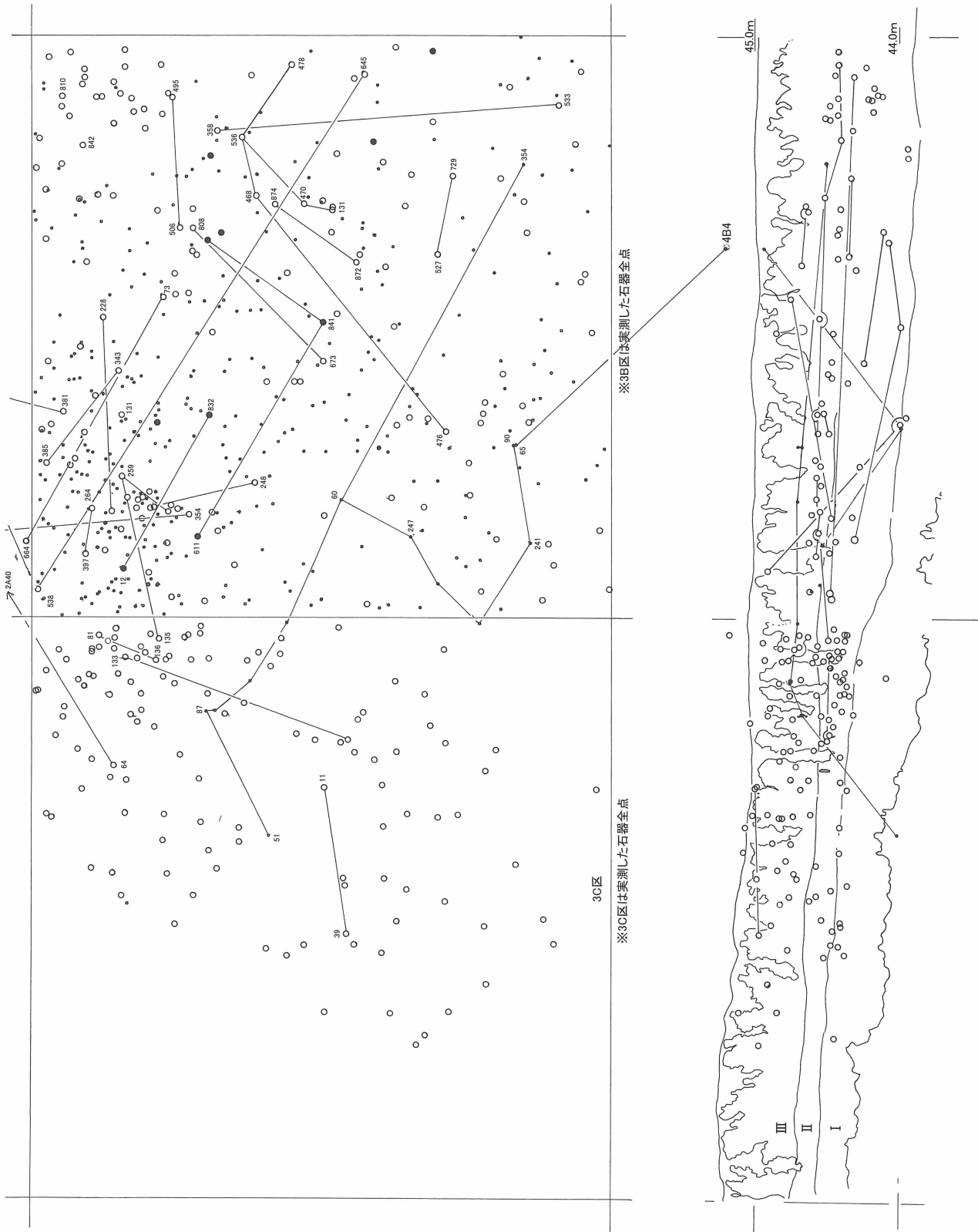
○2A185・2A293・2A321・2B27・2B28・2B222・2B230・2B251・2B271・2B275・2B276・2B347・
2B362・2B369・2B370・2B395・2B462・2B502・2B510・2B534・2B599・2B638・2B650・2B714・
2B759・2B769・3B51・3B57・3B125・3B284・3B309・3B558である。Ⅲ層・Ⅳ層から出土した。

2区の石器について

2区から出土した定形的な石器はナイフ形石器（第51図6・7：6はⅣ層、7はⅢ層。第66図1：Ⅲ層、2：Ⅳ層）・剥片尖頭器（第51図8：Ⅳ層。第68図1：Ⅳ層、第73図1：Ⅳ層・2：Ⅳ層）・三稜尖頭器（第68図2：Ⅳ層、第69図3：Ⅳ層）がある。

3区の調査

3区はB区が4m四方、C区がその3/4ほどの面積である。2区がそうであったように、地形は東側に緩やかに傾斜しごく微妙に低下している。最も深く岩盤まで調査したのはB区北西部で、東西2m・南北1mの範囲である。



第72図 3B・C区出土石器分布図

3区の石器

3区から出土した石器の分布図が第72図である。

接合する石器が3B区北西部を中心に分布するのは2区の石器分布と連続的である。出土層位をみてみよう。Ⅲ層上部の遺物は小さい点で平面位置を落としているが、見とおし図では混乱するので示さなかった。Ⅲ層下部からⅣ層、3B区ではⅣ層上部に投影できる状態である。

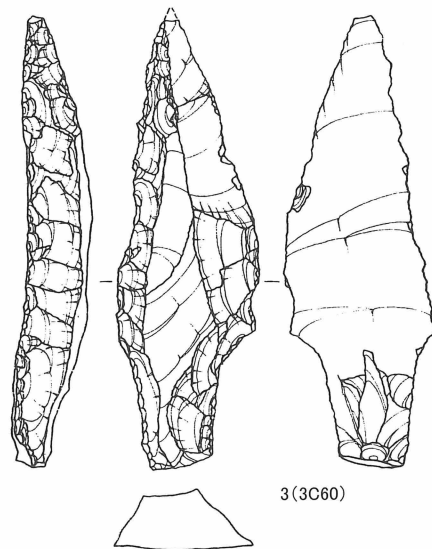
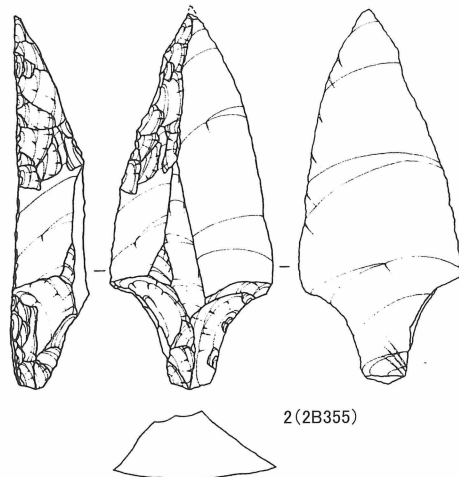
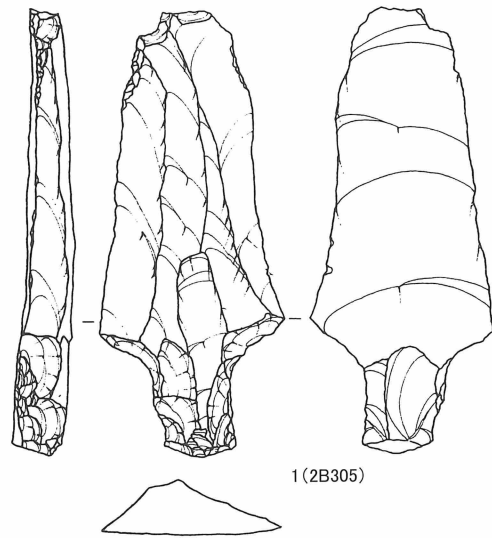
3区の礫の分布

第96図に3区出土の礫の分布状況を示す。図中、小さい点はⅢ層の礫であり、白丸はⅣ層、見にくい横線を入れた白丸はⅣ層下部（Ⅳ層は東に向かって層厚を増し、ここでは上下に分層した）から出土した礫である。

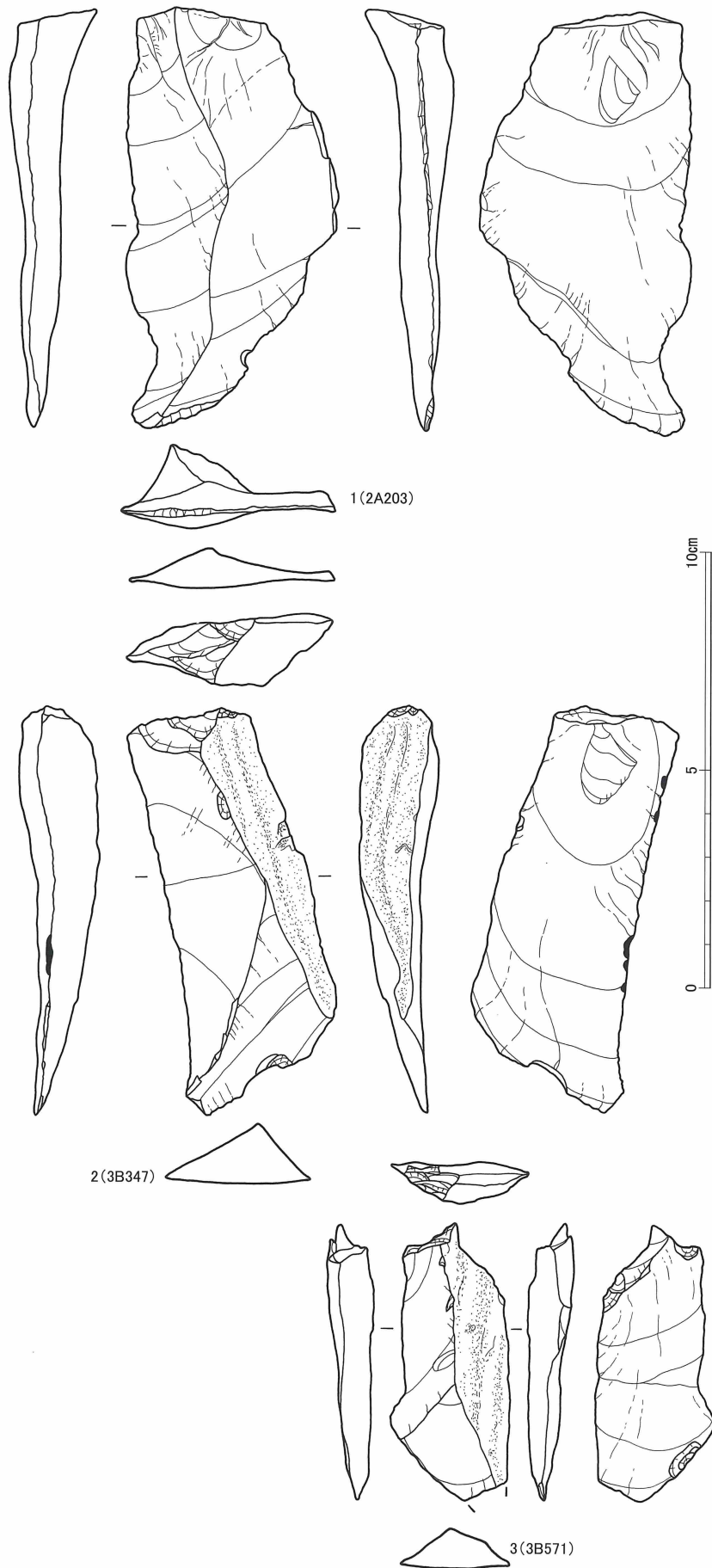
3区では3B区全体にⅢ層・Ⅳ層とも礫がやや沢山分布し、3C区には東半分に比較的少ない量が分布していた。Ⅲ層の礫はB区では下部に多い傾向が見られ、上部は少ない。

白丸で示したⅣ層の礫は特にある平面にまとまるという傾向は見取れない。

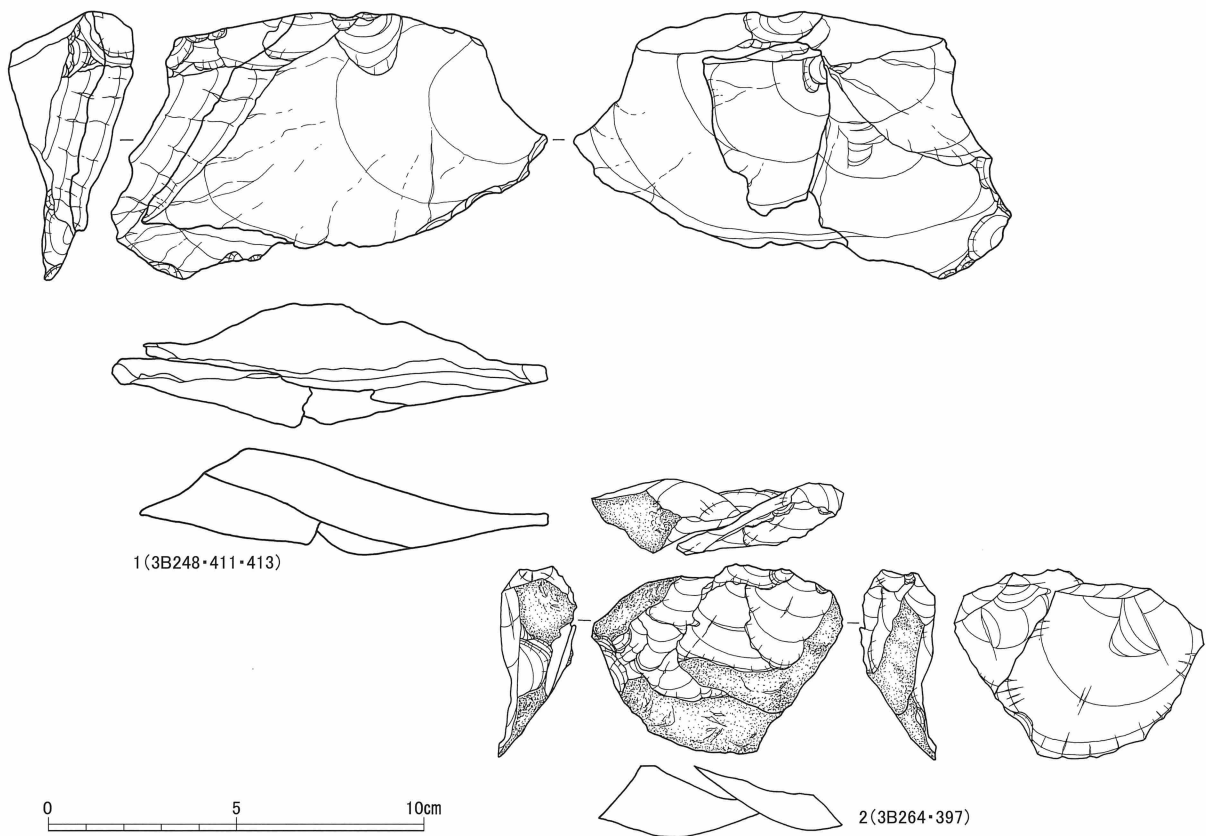
V層とした層は3C区の西端にはなく、途中から現れ、全ての層と同じように東に向かい下がってゆく。3B区中央から西部ではV層に礫が若干含まれていた。



第73図 2B・3C区Ⅲ・Ⅳ層出土石器 (2/3)



第 74 图 3B区Ⅲ·Ⅳ層出土接合資料



第75図 3B区Ⅲ・Ⅳ層出土石器接合図

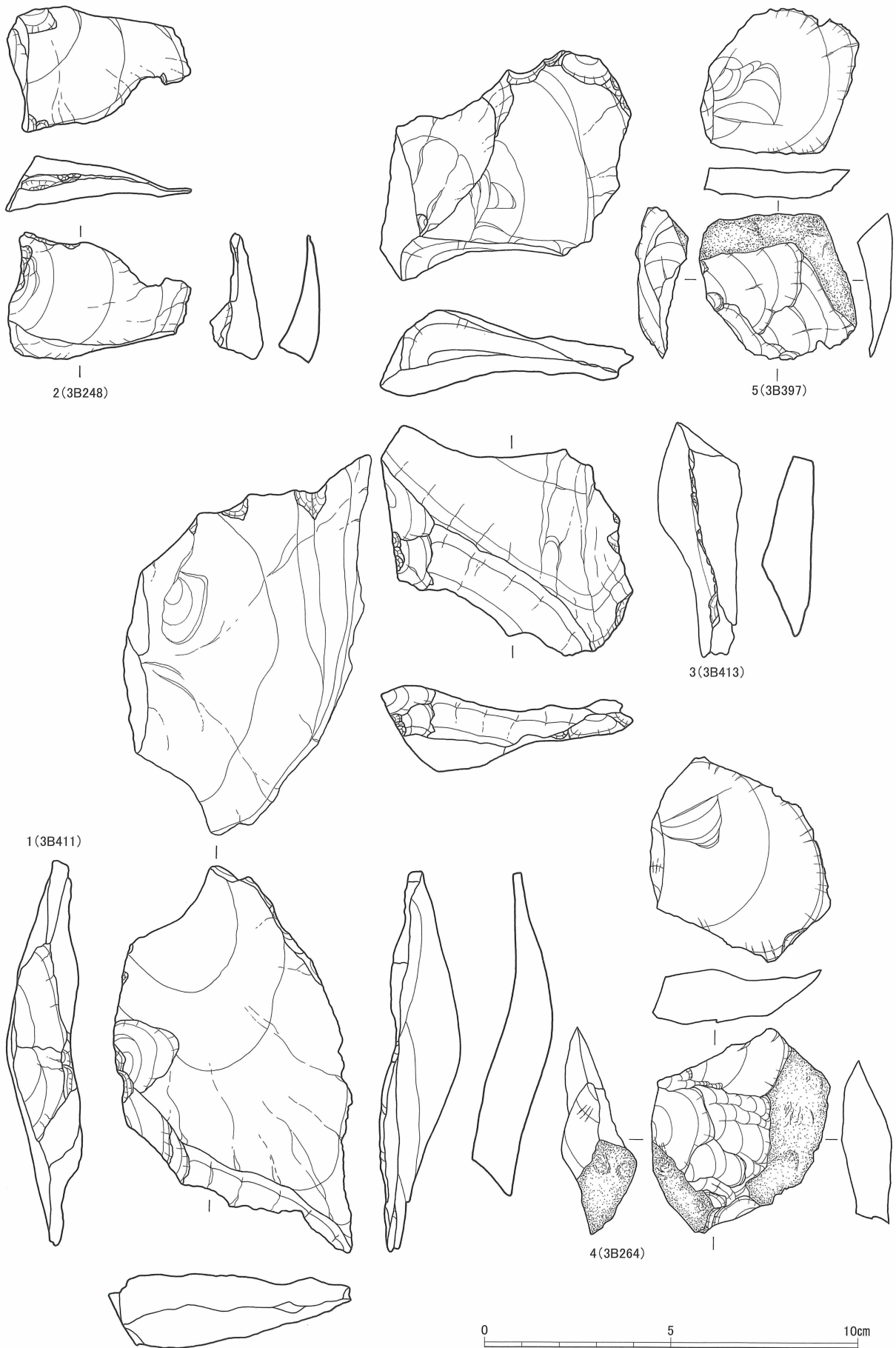
3区出土石器

第74図1 (2A203)・2 (3B347)・3 (3B571) はⅢ層下部出土の接合資料で、接合状態を第82図2に示した。出土位置は3B区の北部中央に2点、2A区の南東部に1点である。巻末の接合関係図では3点が一直線に並び、一見2点の接合に見える状態である。これらの剥離は2→1→2で1・2は同じ打撃面から剥離されている。3は剥片の上半部が欠損している。1は長さ9.4cm・幅4.6cm・厚さ1.4cm・重さ43.5g。2は長さ9.2cm・幅3.5cm・厚さ1.4cm・重さ50.3g。3は長さ6.3cm・幅2.8cm・厚さ0.9cm・重さ16.9g。

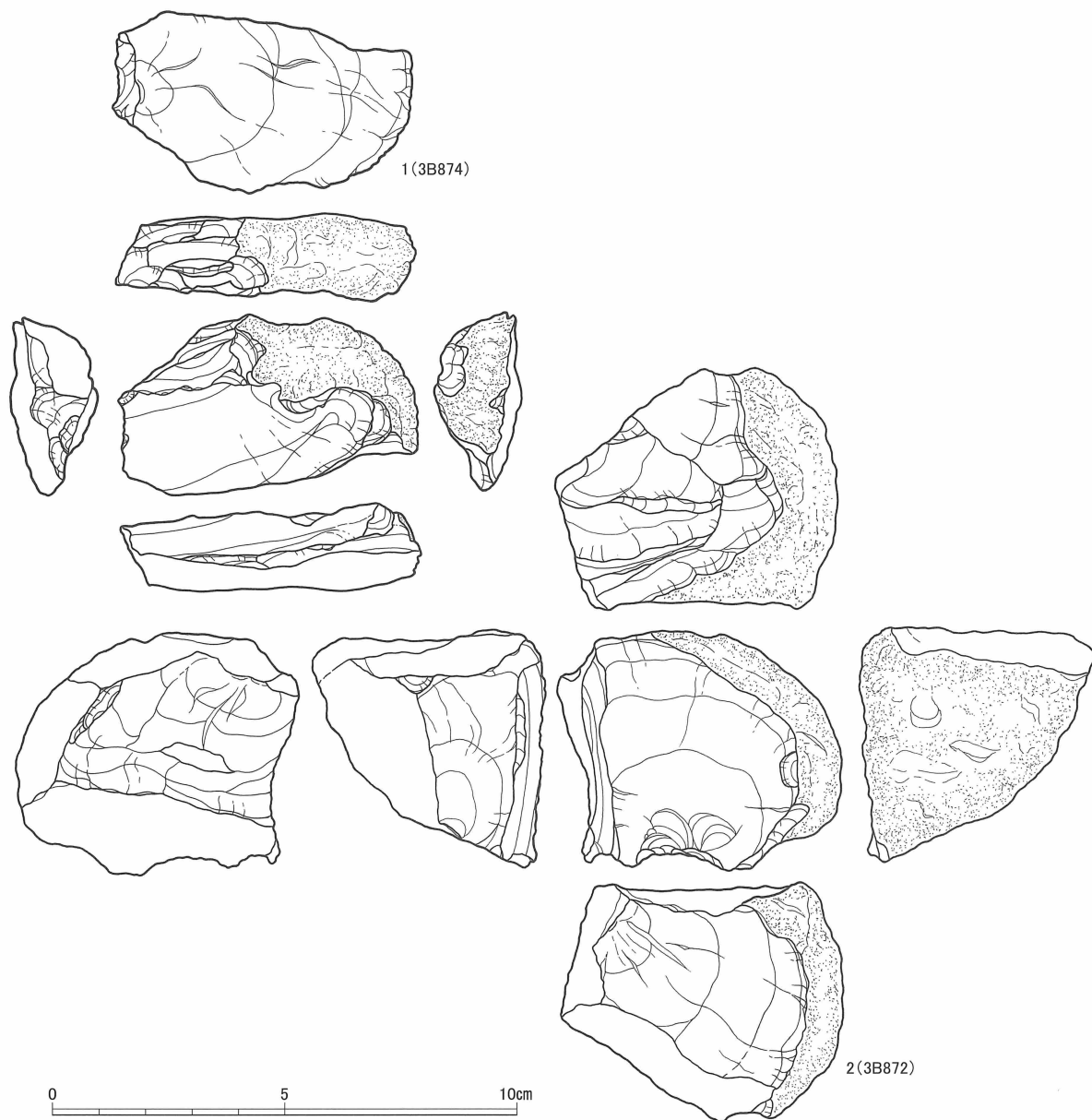
第76図1 (3B411)・2 (3B248)・3 (3B413) はⅣ層上部付近出土の接合する剥片で、分布したのは3B区の北西部である。第75図1に接合状態を示した。全体の剥離順序は1→2・3であり、2・3は同時に剥離している。3点とも同じ剥離面を打面として剥離されてれている。

個別剥片1は長さ0.04cm・幅6.1cm・厚さ8.6cm・重さ1.3cm・重さ104.0g。2は長さ4.8cm・幅3.3cm・厚さ1.3cm・重さ14.0g。3は長さ6.3cm・幅5.5cm・厚さ2.3cm・重さ57.6g。

第76図4 (3B264)・5 (3B397) はⅢ層出土の接合する剥片で、その接合状態を第75図2に示した。5→□→4の順に同じ打撃面側から剥離している。4は長さ4.8cm・幅5.5cm・厚さ2.0cm・重さ35.1gで、5は長さ4.2cm・幅3.9cm・厚さ1.4cm・重さ15.4gである。



第 76 图 3B区Ⅲ·Ⅳ層出土接合資料



第 77 図 3B区Ⅲ・Ⅳ層出土接合資料

第77図2 (3B872) は3B区のⅥ層から出土した石核である。礫面を残す背面を除いた5面で剥片剥離を行っている。長さ5.1cm・幅6.1cm・厚さ5.1cm・重さ168.0gである。これに同じくⅥ層出土の第77図1 (3B874) が接合する。出土位置は60cmほど離れた場所である。接合状態を第78図2に示した。小さい方の剥片は第78-2図で言えば左図の下部にあたる。左図の右側からの打撃により剥離されており、その後大きい方に今できた剥離面を打面として大きい方から剥片が直交方向に剥離されている。

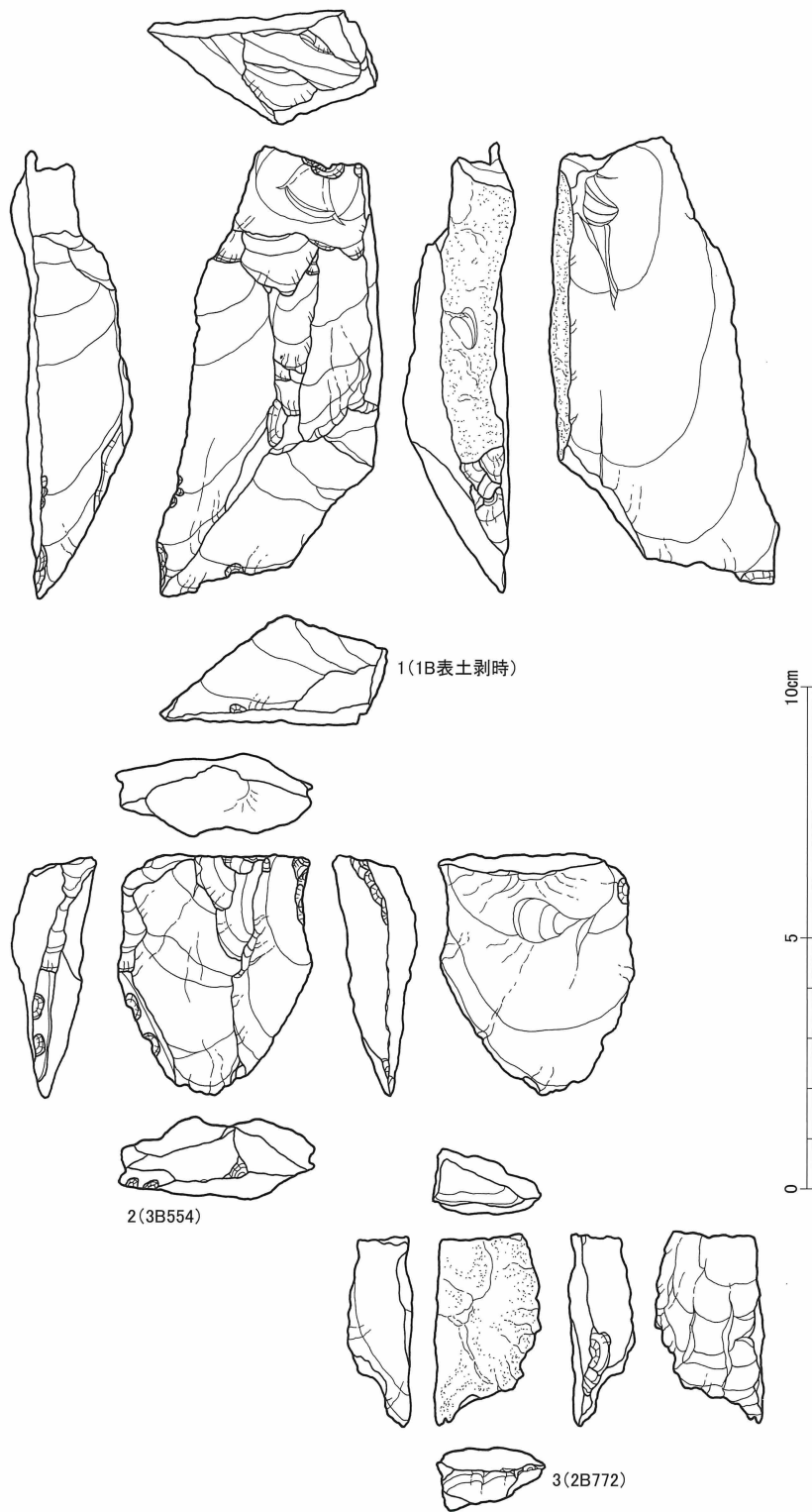
第78-1図 1 (1B区表土)・
 2 (3B554)・3 (2B772)
 はⅢ層・Ⅳ層出土し接合する
 剥片で、第78-2図に接合状態
 を示した。巻末の接合関係図
 では2B区北西部と3B区北
 西部を結ぶ線で表している。
 3点のうち3は上部が欠損し、
 本来は1と打面を共有
 していたとみられる。

これらの剥離順序は3→1
 →2である。

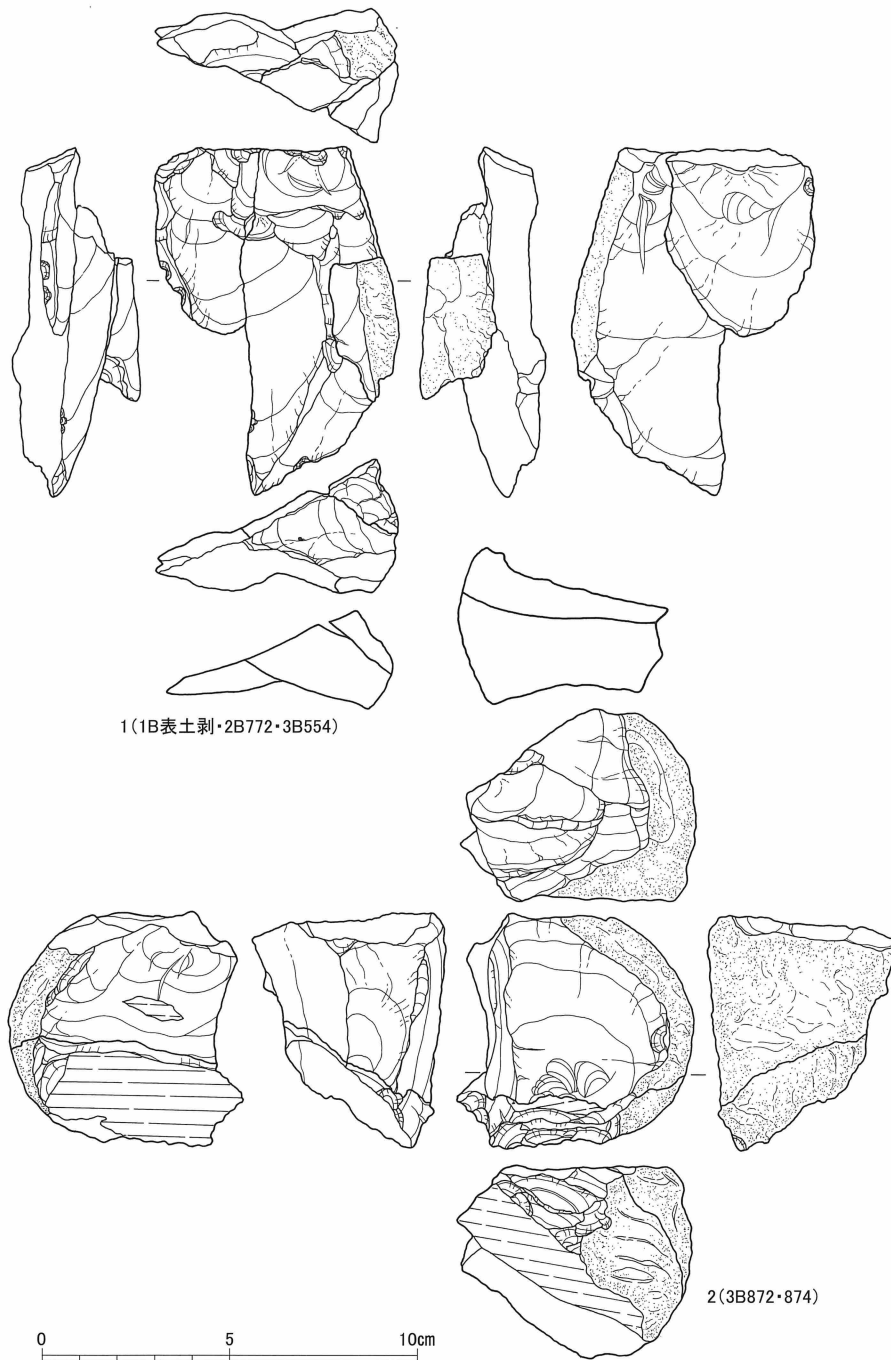
1は長さ4.6cm・幅8.9cm・
 厚さ2.3cm・重さ68.gである。

2は長さ4.8cm・幅3.9cm・
 厚さ1.7cm・重さ27.6gであ
 る。縁辺部には刃こぼれがあ
 る。

3は長さ3.8cm・幅2.2cm・
 厚さ1.3cm・重さ10.5gであ
 る。



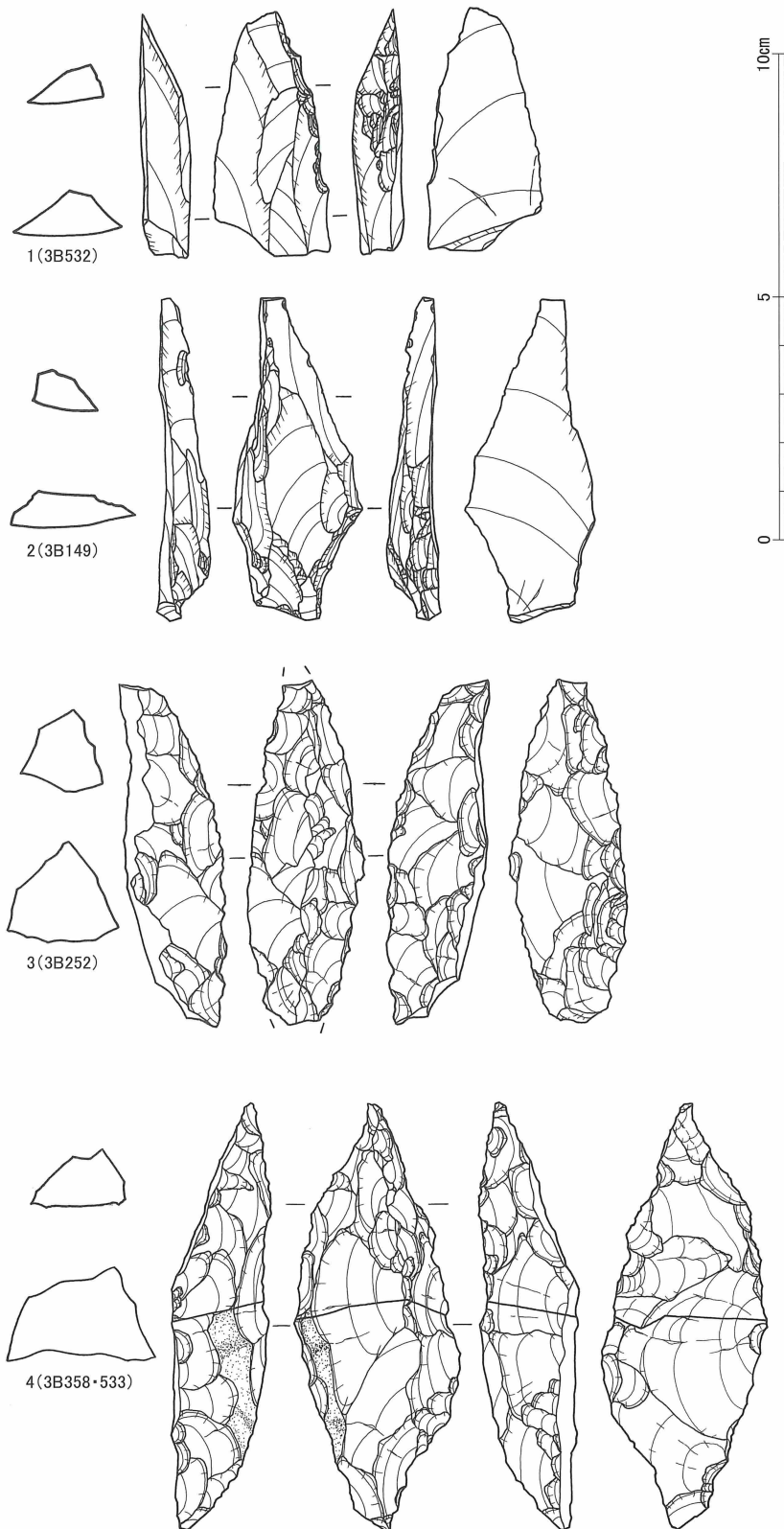
第78-1 図 1～3区Ⅲ・Ⅳ層出土接合資料



第 78-2 図 1～3B区Ⅲ・Ⅳ層出土石器接合図

第79図 1 (3B532) は 3B区のⅢ層から出土したナイフ形石器片である。出土位置は 3B区の南東隅であり、すぐ北西の30cm弱離れた位置で第79図 4 の片方が出土している。両者の出土した高低差は 1 が 4cm弱低い。素材は縦長剥片であるが剥片の基部側を欠く。この剥片に残る剥離面は全て基部側から剥離されている。先端の片側に二次調整剥離を加えている。他の辺は素材の鋭利さを生かしそのままにしている。長さ5.1cm・幅2.4cm・厚さ1.0cm・重さ11.5g。

第79図 2 (3B区149) は 3B区北西部のⅢ層から出土した剥片尖頭器である。剥片打撃面の両側を狭く加工して茎とし、飛び出た側辺を剥離して整形している。先端が鋭利さを欠くのは欠損か未調整か不明。長さ6.6cm・幅2.6cm・厚さ1.1cm・重さ13.8g。



第79図 3B区Ⅲ・Ⅳ層出土石器

第79図3 (3B252) は三稜尖頭器である。右図の面が素材となった剥片の主要剥離面であるが、二次加工がその面にも広く及んでいるため主要剥離面は少しだけ残り横長の剥片を素材としたことが分かる。側面観では先端部が曲がっておりこの尖頭器は未製品段階で放棄されたのであろう。長さ7.0cm・幅2.4cm・厚さ2.05cmである。

完成した場合の長さは8 cm程度である。

第79図4 (3B358・3B533) は両面加工の尖頭器あるいは三稜尖頭器の未製品である。二つに分かれており2.4mほど離れてⅢ層から出土した。3B358は3B区の中央東部、3B533は南東隅に位置した。素材となった剥片は横長である。この尖頭器は二次加工が周辺部に止まっており、まだ幅広い状態であり主要剥離面の反対側の面には元の剥離面や原礫面が残る。長さ8.7cm・幅3.2cm・厚さ2.0cm・重さ49.5gである。

第80図1 (3B621) はⅢ層出土の石核である。接合しないので分布図には示していないが3B区の南西部から出土した。素材の主要剥離が残る程度の剥片剥離作業が行われている。長さ7.5cm・幅9.3cm・厚さ5.5cm・重さ515.6gである。

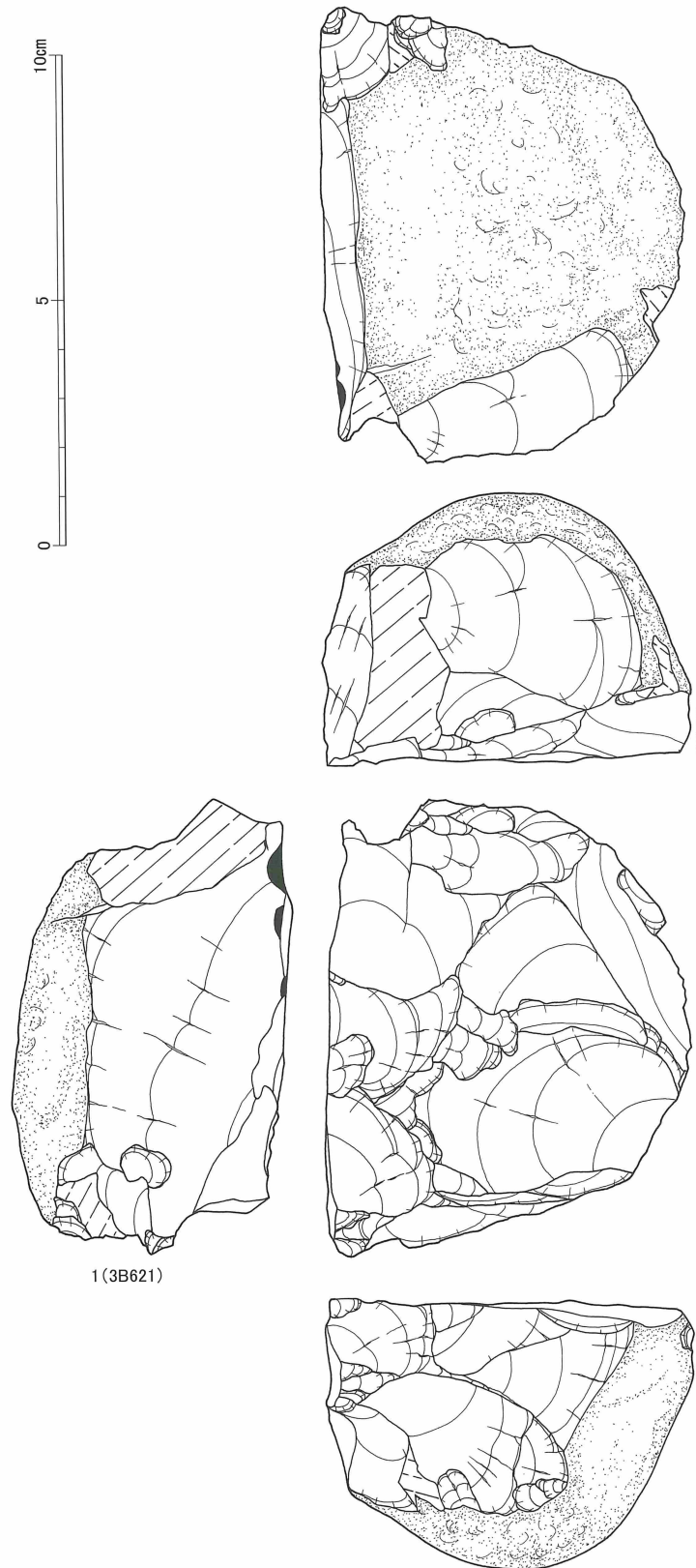
第81図1～3、第88図1はⅢ・Ⅳ層出土の剥片で、第82図1がその接合状態である。4点の剥片が接合した。これらは第81図2→第81図1→第88図1→第81図3の順に剥離されている。

それぞれの剥片は第81図1 (3C135) は長さ6.7cm・幅6.9cm・厚さ3.6cm・重さ109.3g。片側に大きく自然面を残し、打面は3と同じ剥離面を利用している。

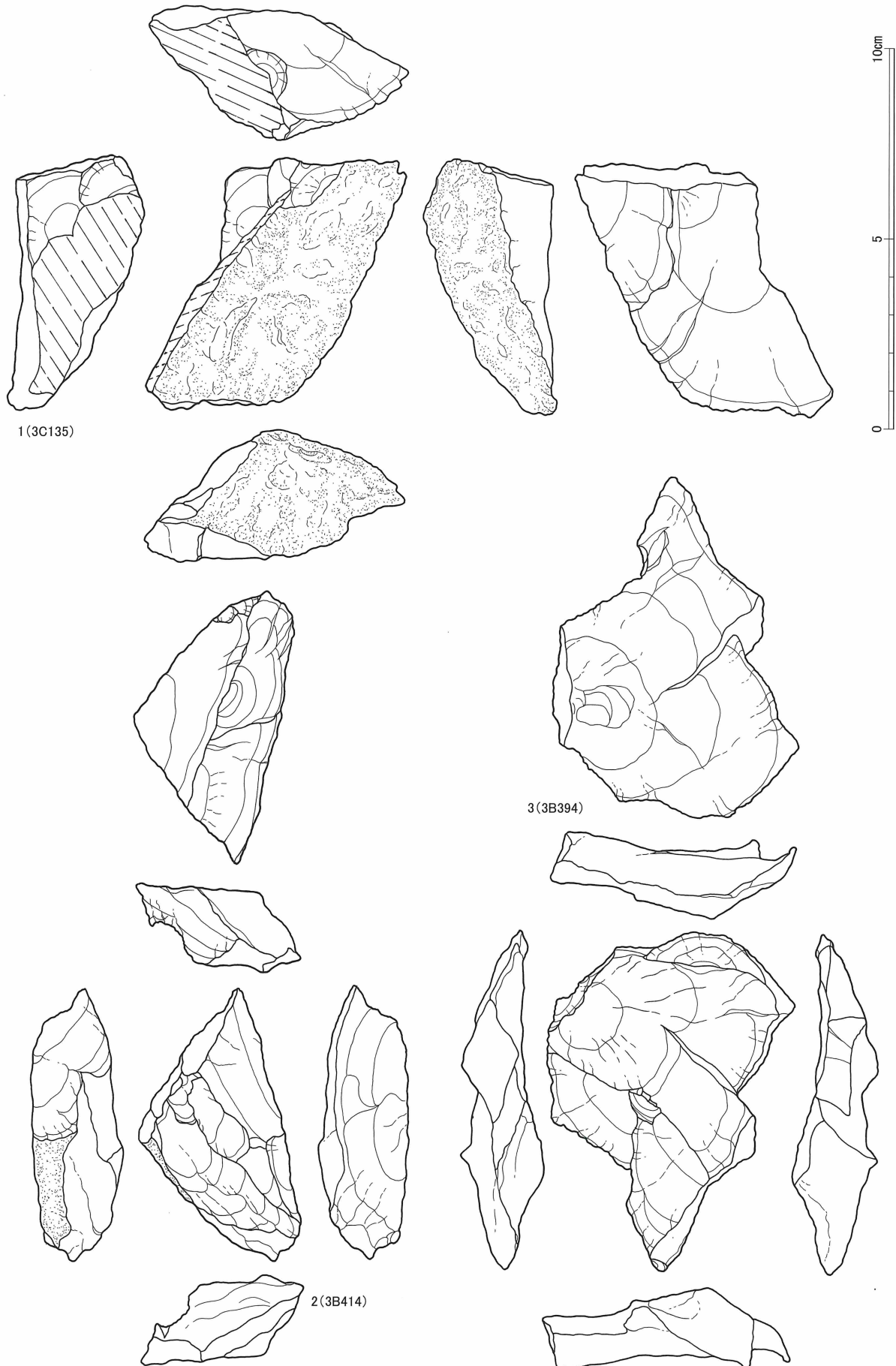
第81図2 (3B414) は長さ4.7cm・幅7.2cm・厚さ2.4cm・重さ2.1g。2はこの一群の中で最初に分かれた部分である。分離後、剥片の主要剥離面を打面として細長い剥片が二枚剥離された状態を残している。

第81図3 (3B394) は長さ6.6cm・幅8.9cm・厚さ2.2cm・重さ3.0g。2の分離後にできた面を打面として剥離された不定形の剥片である。

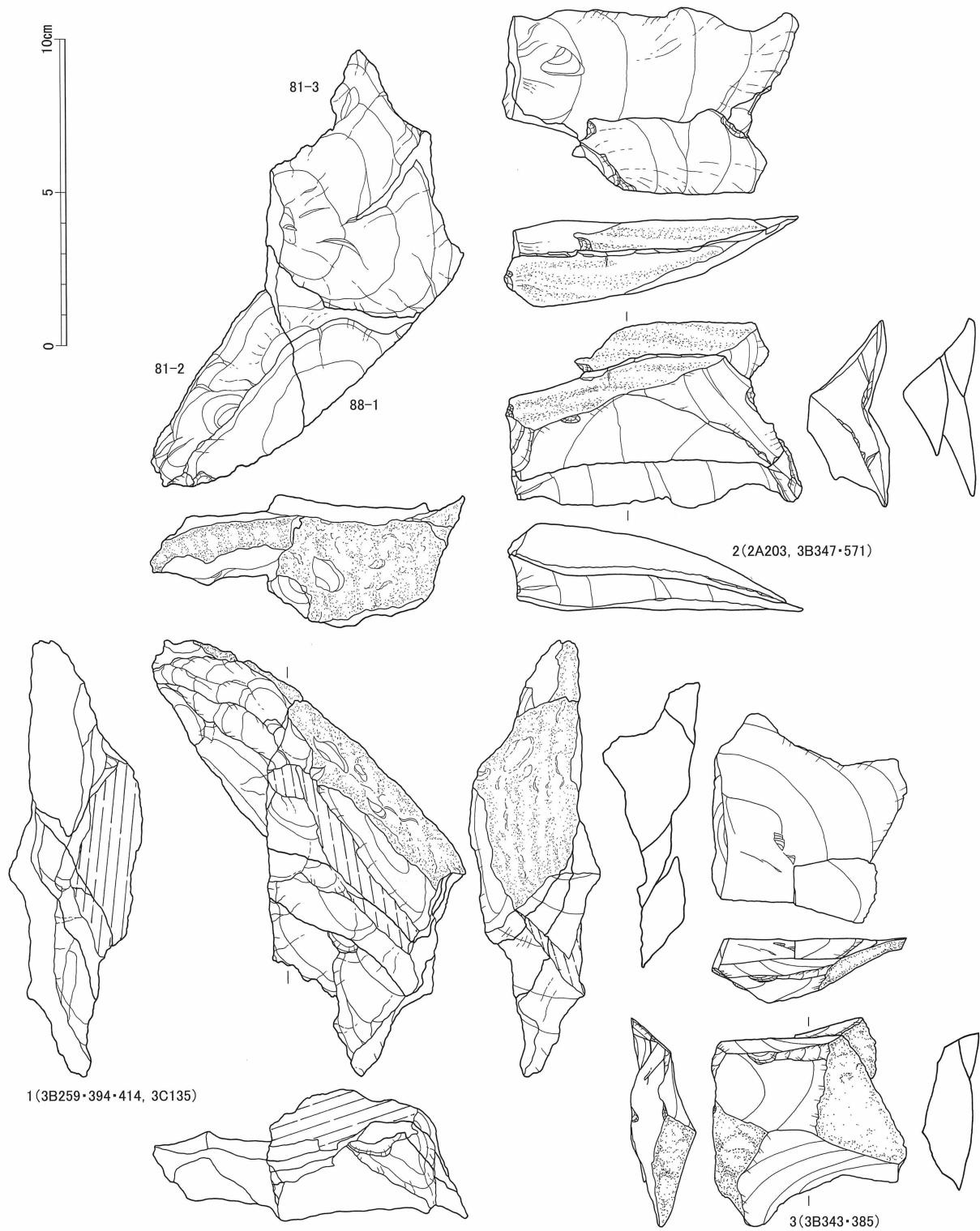
第88図1 (3B259) は長さ6.2cm・幅5.8cm・厚さ2.0cm・重さ34.8g。



第80図 3B区Ⅲ・Ⅳ層出土石器



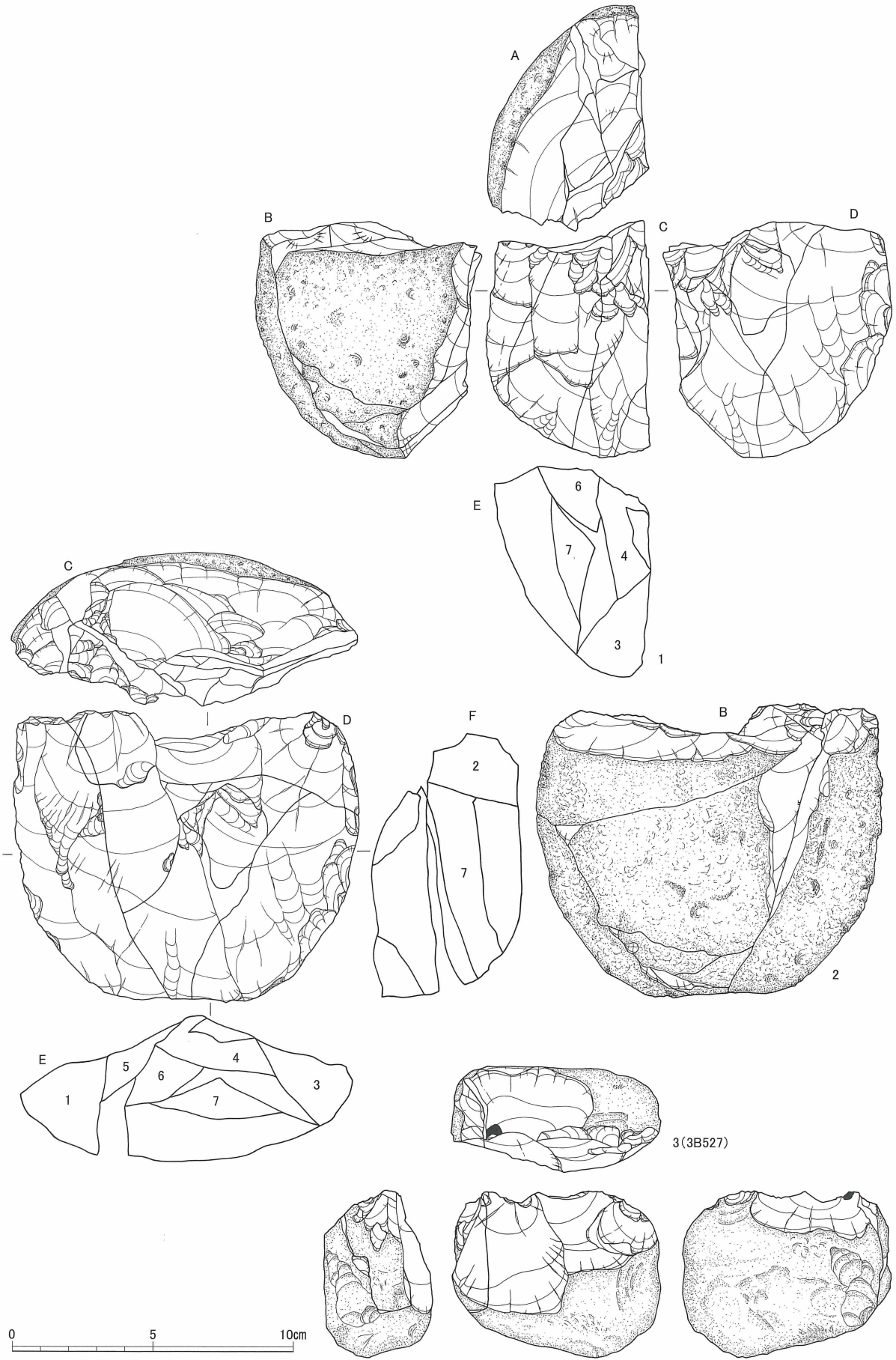
第 81 图 3B区Ⅲ·Ⅳ層出土接合資料



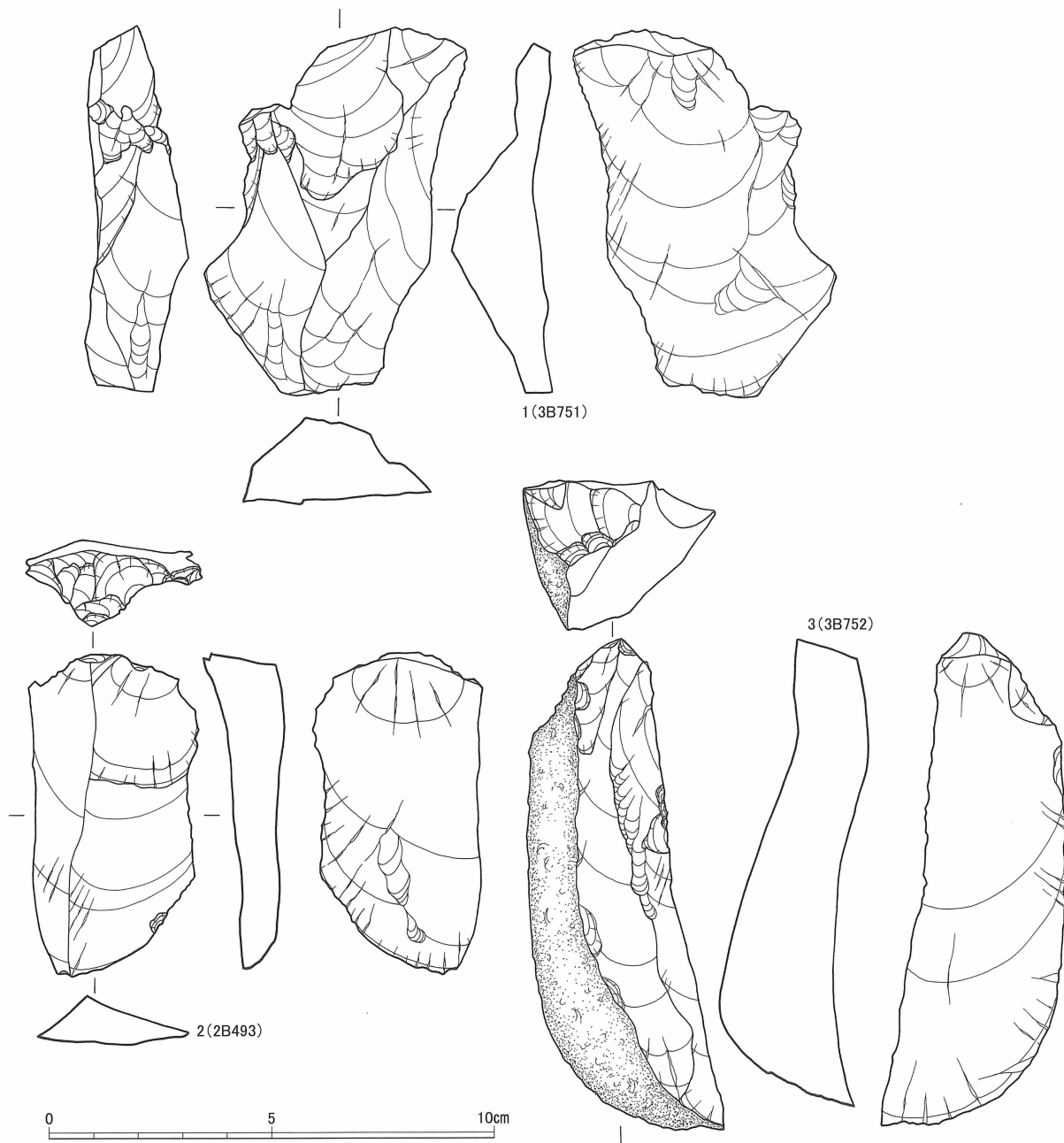
第 82 図 3B区Ⅲ・Ⅳ層出土石器接合図

第83図は第83図1・第84・85図・第86図1(3B753)・2(3B489)の接合状態。出土したのは3B区の北東隅でⅣ層からである。巻末の分布図ではW字状に表されているのがこの一群である。本来の円礫が3/4位剥離が進行した段階に残された剥片群である。円礫が半割されさらに半割された剥片の一面を打撃面とするた打面を調整する目的では剥片を剥いている(第84図3)。その後新たな面を打撃面として剥離している。

第83図で説明したい。この残された接合例の中で最初に剥離されたのはD図左端の第84図3である。打面調



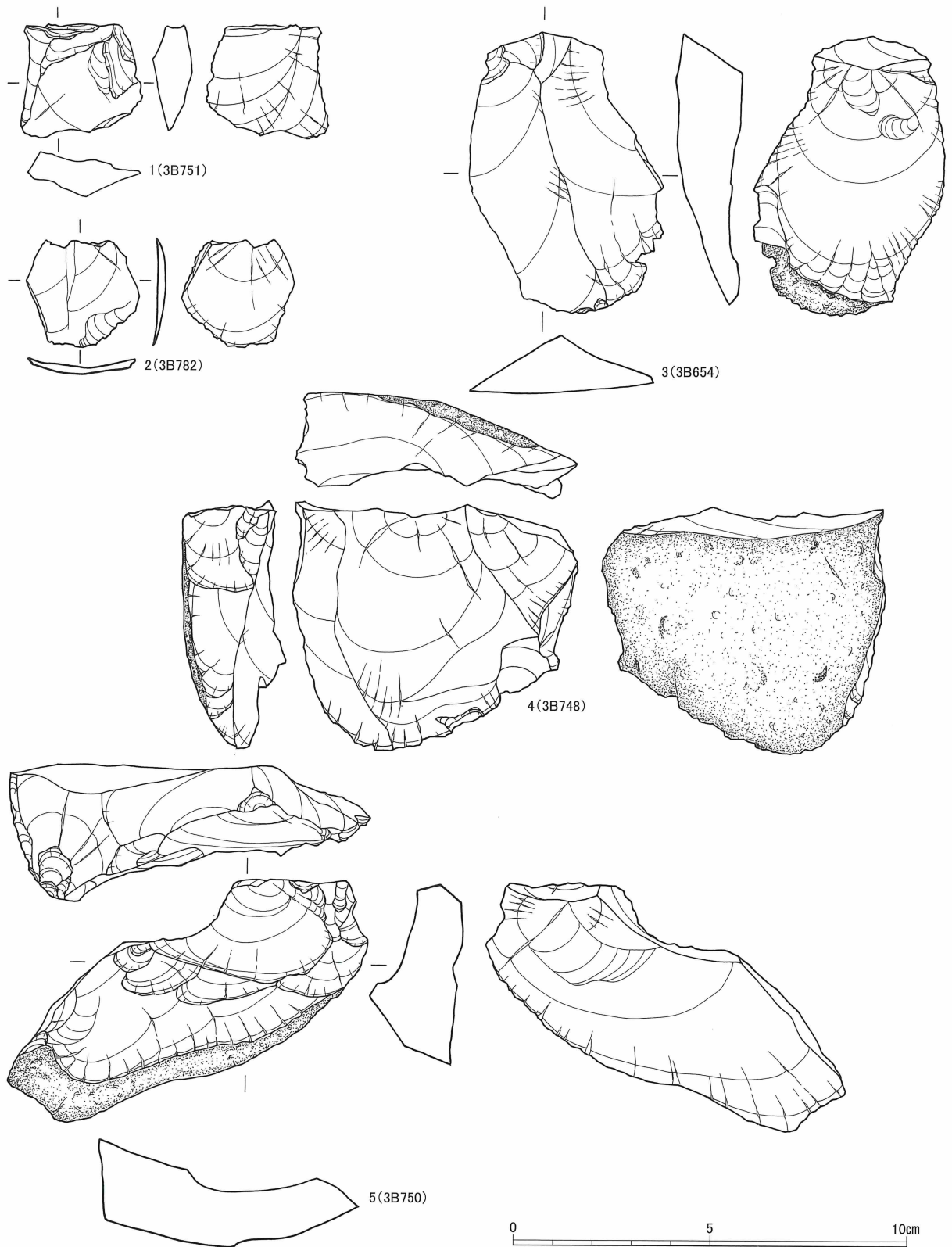
第 83 图 3B区Ⅲ·Ⅳ层出土石器接合图



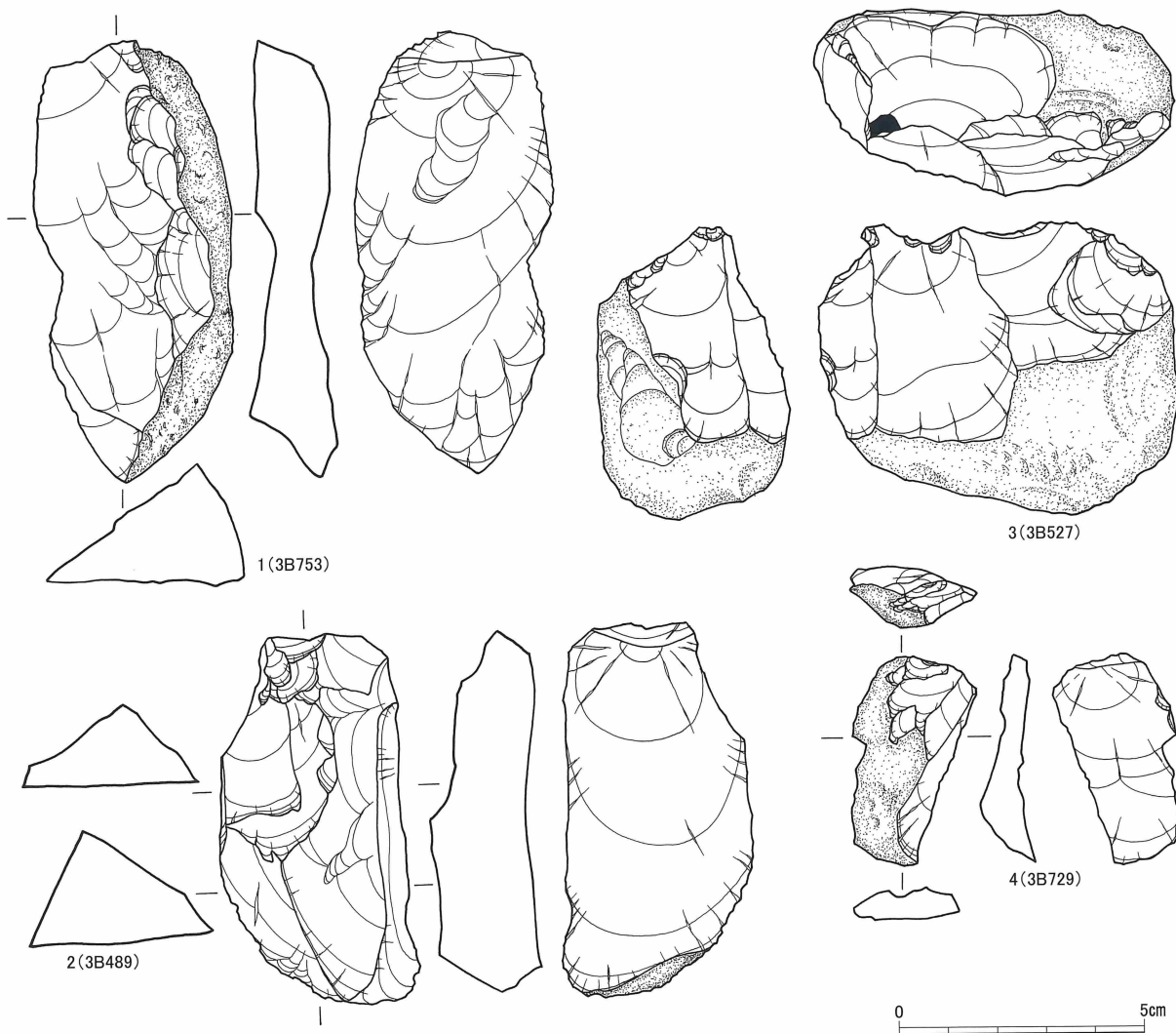
第 84 図 3B区Ⅲ・Ⅳ層出土接合資料

整のための剥離が見られる。次の剥離では先ほどのD図の剥離場所の右で第84図2の剥片が剥がされた。この剥片の打面も調整されてから打撃されている。この二つと同じ面を打面として剥片が剥離されているのが残された面から分かる。2の剥離後、さらに右に移動し同様方向の剥離が行われている。次に剥離されたのは最後の打撃で出来た剥離面を利用し、これまでとは直交する方向の剥離である（第85図5に痕跡が残る）。次に第85図5（3B750）が剥がされている。次は出土していないがBの右部分に空白としてある剥片が第85図5で出来た剥離面を打面として剥がされている。

さらにこれで出来た剥離面を打面として第86図1（3B753）が剥離され、第86図2（3B489）→第85図3（3B527）と続く。最後に剥離されたのは第85図3（3B654）である。結局この剥離工程は打面再生とそれに直交する縦長剥片の剥取りを繰り返してはでないが、適度に織り交ぜながら進んだのである。



第 85 图 3B区Ⅲ·Ⅳ層出土接合資料



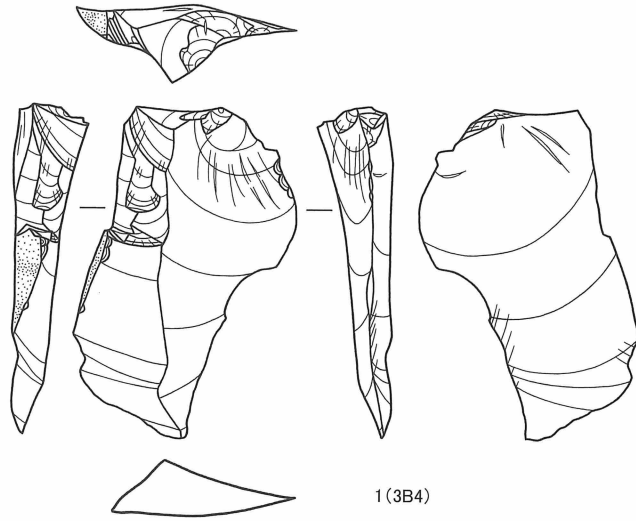
第 86 図 3B区Ⅲ・Ⅳ層出土接合資料

第86図3 (3B527)・4 (3B729) はⅢ層出土で接合する。3の石核は円礫の一側辺に対し表裏から打撃を加えている。第83図3が接合状態である。第83図3の幅広の面で説明すると向かって右から左に剥離作業を繰り返して、最後に右端の小さい剥片を剥ぎ取っている。接合状態で長さ5.9cm・幅7.4cm・厚さ3.9cm・重さ208.2gである。

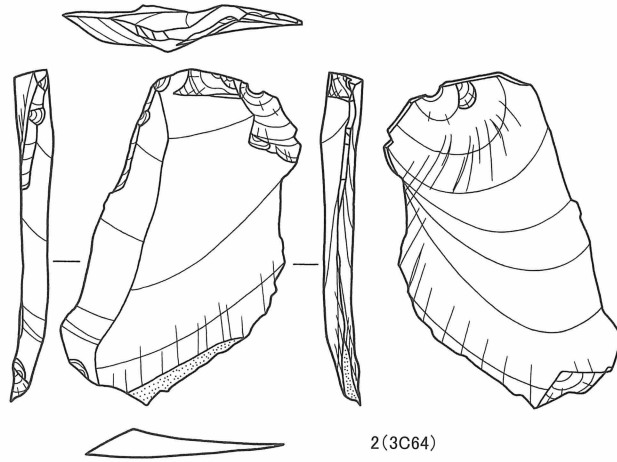
第87図1 (3B4)・2 (3C64) は3B区・3C区のⅢ層から出土し、3の状態と接合する。共通の打撃面から剥離し、表裏の剥離面にみられる剥離方向はすべて一方向からの打撃が繰り返されたことを表している。1は長さ6.5cm・幅4.5cm・厚さ1.5cm・重さ23.2gである。2は長さ6.6cm・幅4.8cm・厚さ0.9cm・重さ16.9gである。

第88図2 (2B817)・3 (1B560) が接合したのが第90図1である。2は2B区Ⅳ層出土で、長さ5.0cm・幅2.4cm・厚さ1.3cm・重さ13.4g。3は1B区のⅣ層出土で長さ4.6cm・幅3.0cm・厚さ1.2cm・重さ14.7g。ふたつは打撃面を共有する。出土位置は5.5m離れていた。

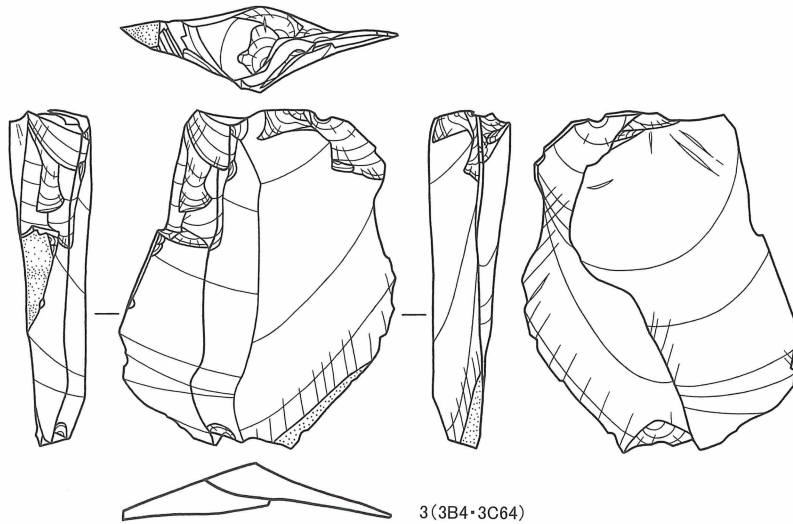
第88図4 (3B385)・5 (3B343) は3B区のⅢ層から出土した接合する剥片で、その接合状況は第82図3に示した。4は長さ6.3cm・幅6.2cm・厚さ2.1cm・重さ62.1g。5は4が剥取された後に数段階の剥離作業を経て打面の位置が数段階下がってから剥離されたものである。長さ2.8cm・幅2.2cm・厚さ0.7cm・重さ4.0g。



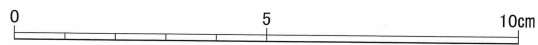
1(3B4)



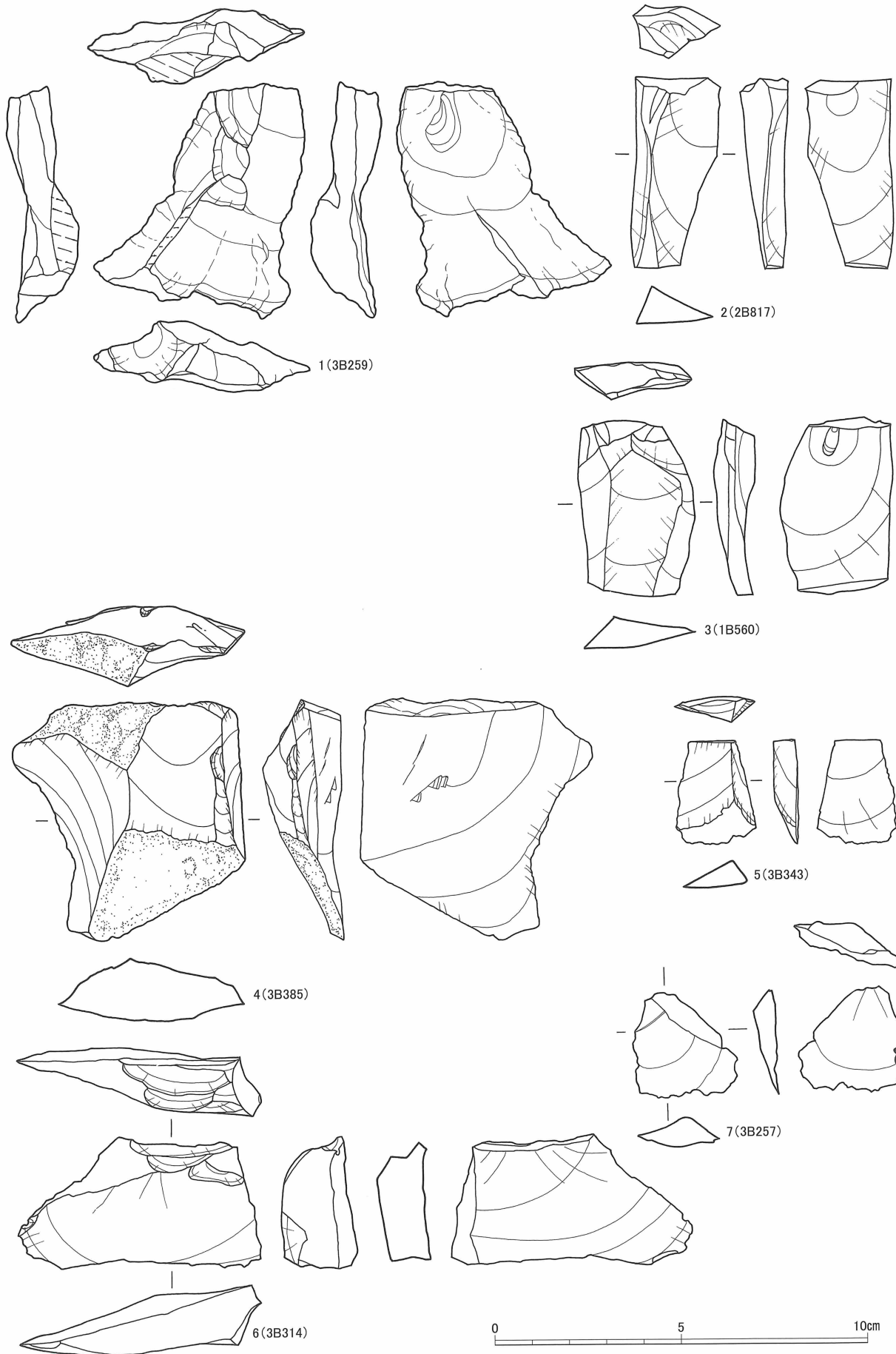
2(3C64)



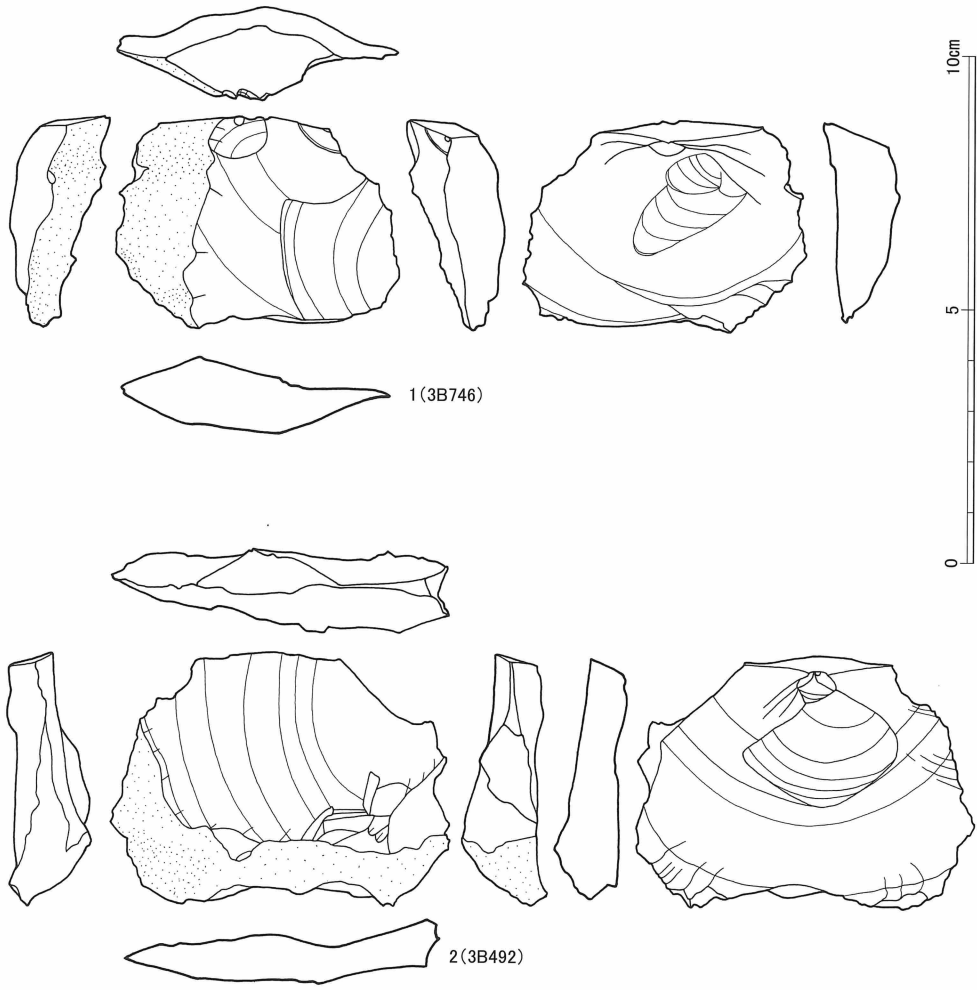
3(3B4-3C64)



第 87 图 3B·C区Ⅲ層接合資料

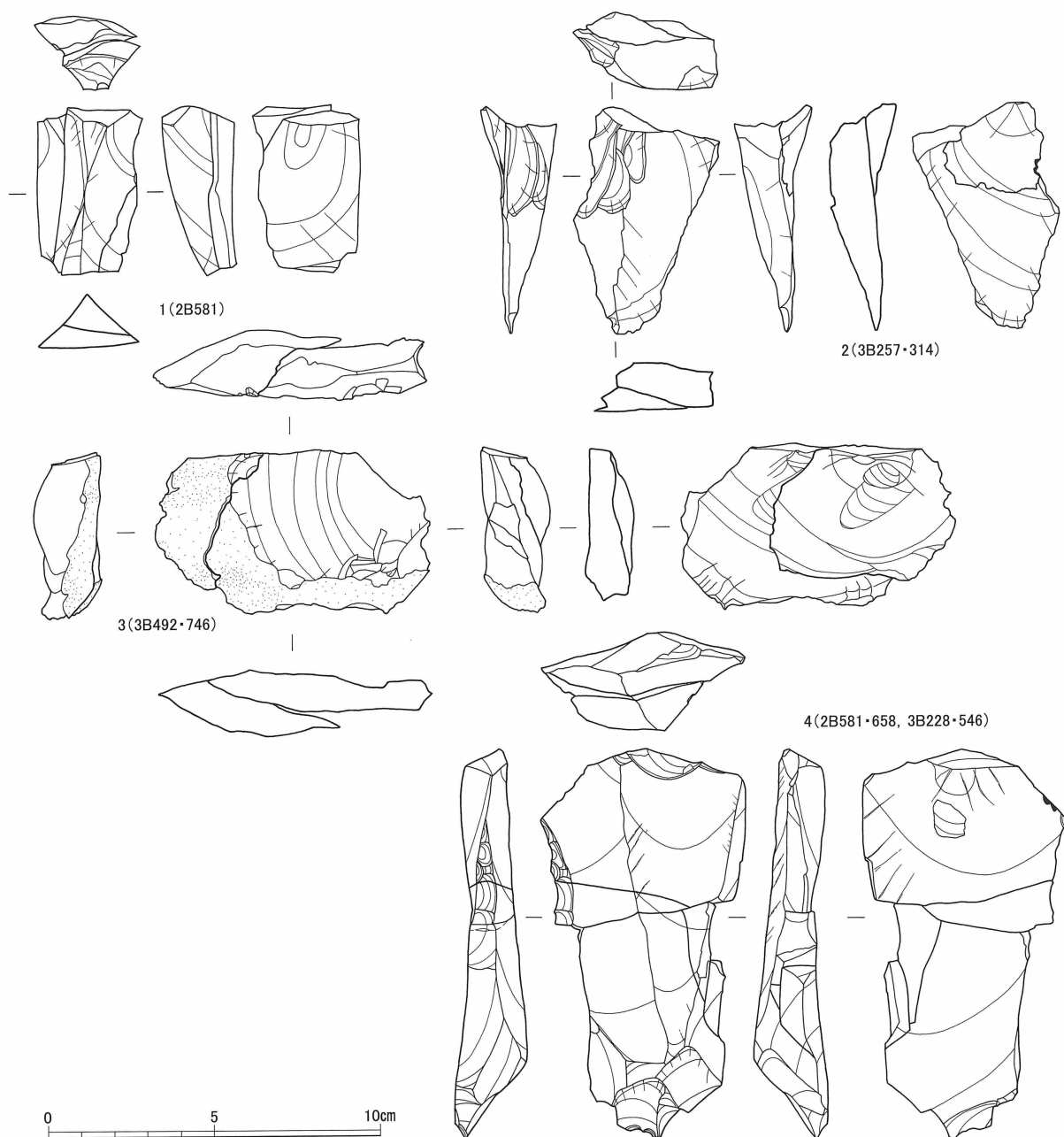


第 88 图 3B区Ⅲ·Ⅳ層接合資料



第 89 図 3B区Ⅲ・Ⅳ層出土接合資料

第88図6（3B314）・7（3B257）の剥片は第90図2のように接合する。6は横長の剥片で長さ35cm・幅6.5cm・厚さ2.1cm・重さ37.1gである。7は長さ2.8cm・幅2.8cm・厚さ1.0cm・重さ4.2gである。

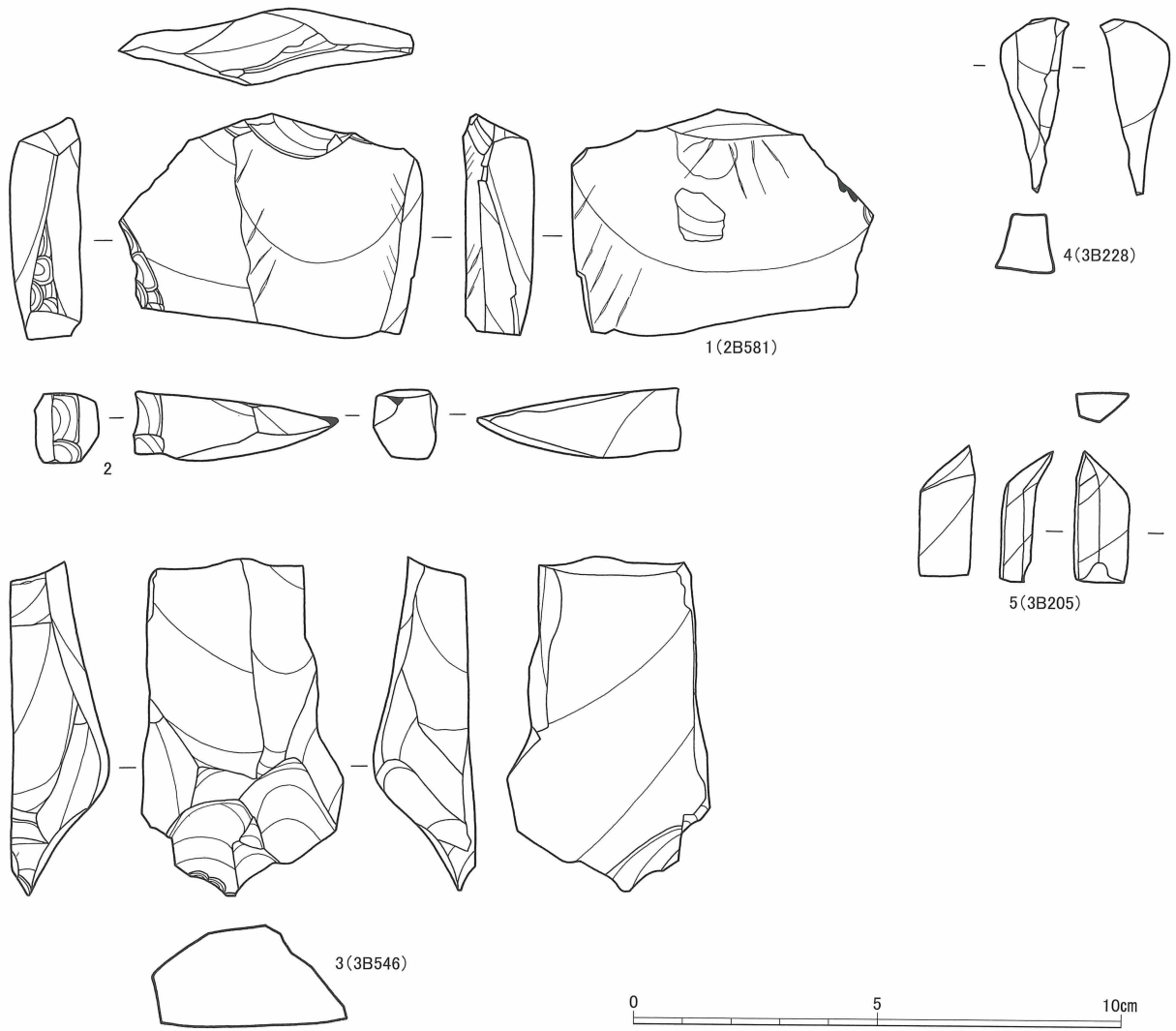


第90図 2B・3B区Ⅲ・Ⅳ層出土石器接合図

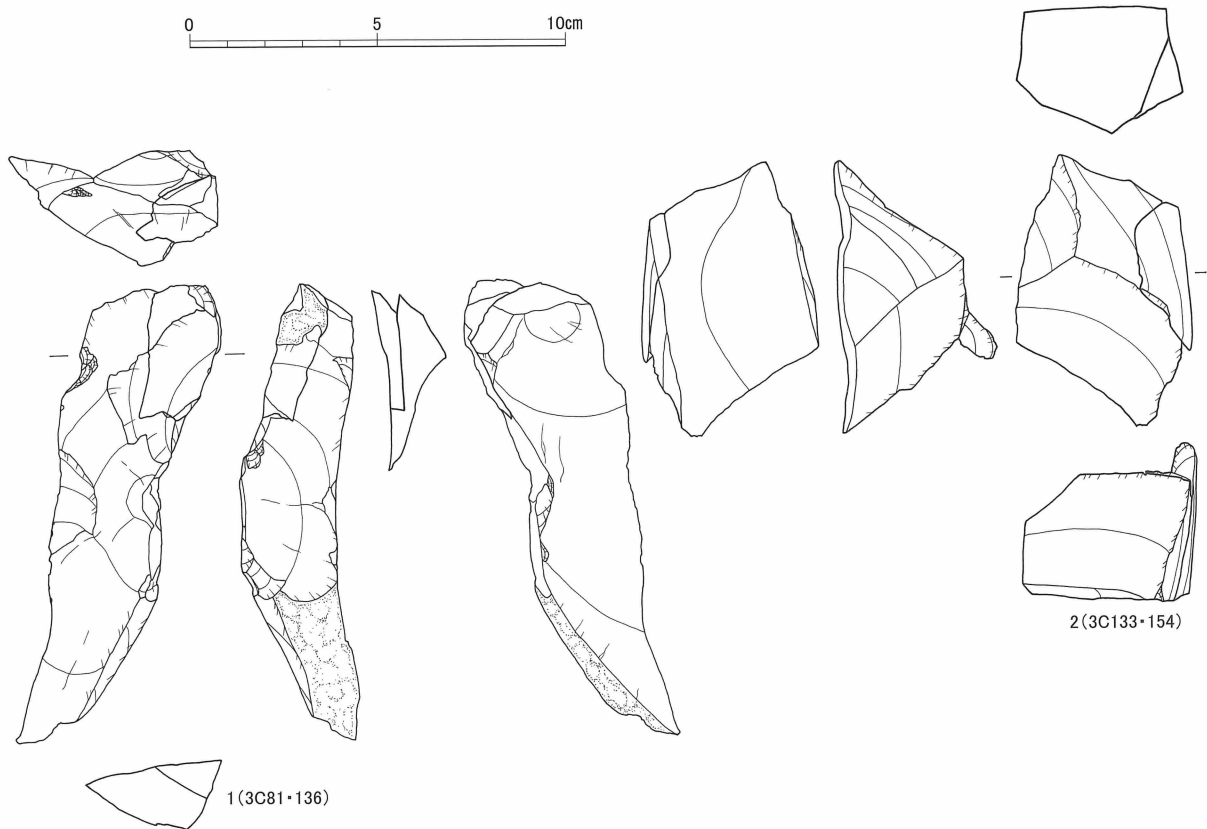
第91図1～5はⅢ層（3～5）・Ⅳ層（1・2）から出土した接合資料である。それぞれの採上げ番号を記すと次のとおりである。1（2B581）・2（2B658）・3（3B564）・4（3B228）・5（3B205）。第90図4に接合状況を示した。

第90図4にあるように接合状況を見るとこれらはひとつの縦長剥片である。剥片作出後、さらに打撃を加えて分割したのではなく、故意に中央で折ったのかも知れない。1は一側辺に二次加工が見られる。これに続く部分は欠損していて分からないが、二次加工を続けている途中で剥片が割れた可能性も考えられる。剥片が分離したうち、打点側がⅣ層出土、末端側がⅢ層でありさらに細かく割れている。不明の分を含めると6片位には細分したらしい。

本来の縦長剥片として接合した形で長さ11.6cm・幅6.2cm・厚さ2.2cm・重さ126.4gである。



第 91 图 2B·3B区Ⅲ·Ⅳ層出土接合資料



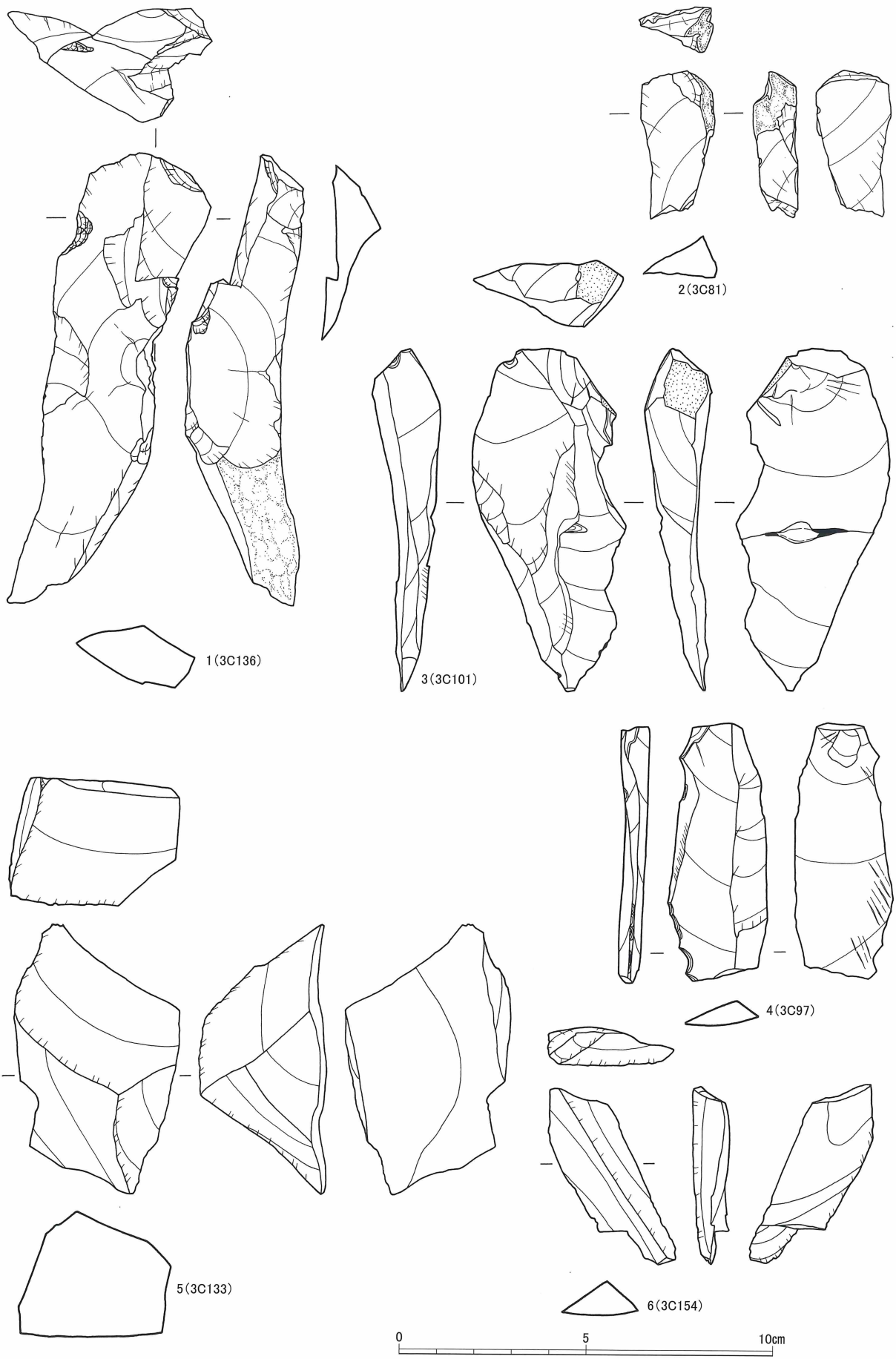
第92図 3C区Ⅲ層出土石器接合図

第92図2は3C区のⅢ層から出土した第93図5（3C133）・6（3C154）の接合状態図である。小さい方の6は5が剥取される前に剥離された剥片である。5は長さ7.2cm・幅4.4cm・厚さ3.9cm・重さ089gである。6は長さ4.7cm・幅3.5cm・厚さ1.0cm・重さ8.6gである。

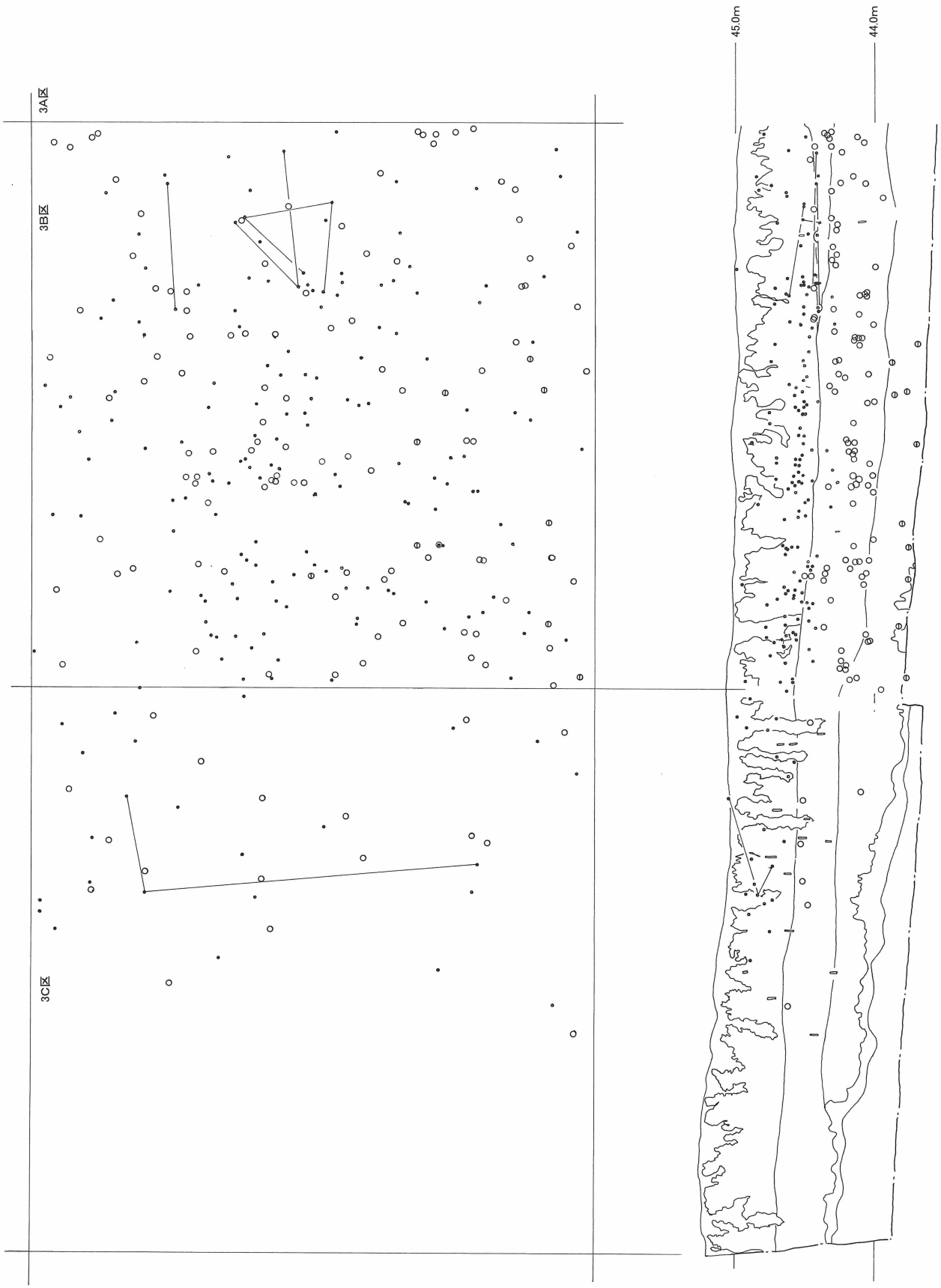
第93図1（3C136）・2（3C81）は3C区のⅢ層から出土した。第92図1はその接合状態である。1は長さ12.5cm・幅3.5cm・厚さ3.0cm・重さ95.7g。2は長さ3.9cm・幅2.0cm・厚さ1.2cm・重さ8.2g。

第93図3（3C101）は3C区のⅢ層から出土した。打面のとなりに自然面がある。長さ19.1cm・幅4.0cm・厚さ1.7cm。

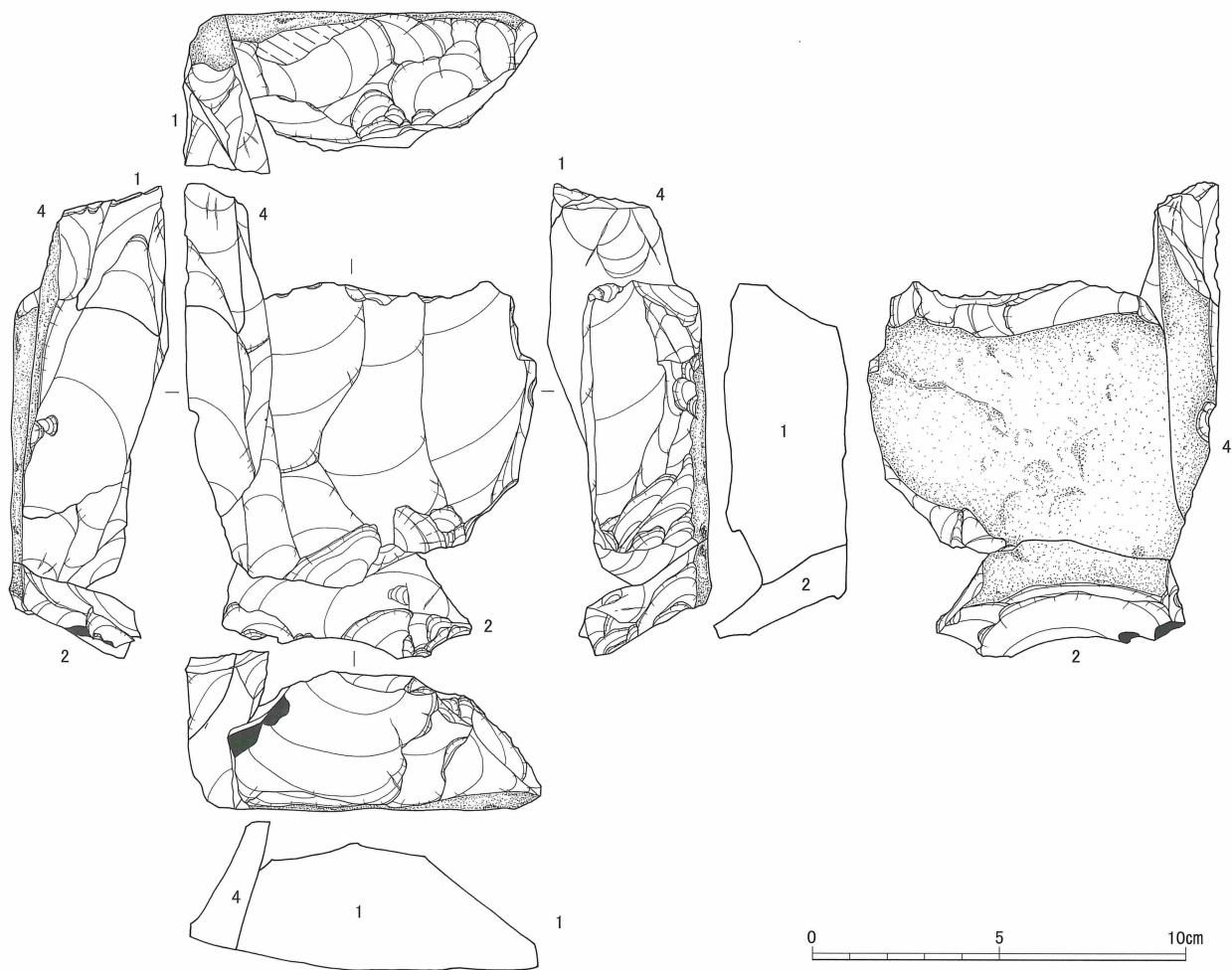
第93図4（3C97）はⅢ層から出土した。表裏の剥離はすべて同じ方向からなされている典型的な縦長剥片である。一側辺に二次加工か、刃こぼれが認められる。長さ6.8cm・幅2.6cm・厚さ0.6cm・重さ13.2gである。



第 93 图 3C区出土石器



第 96 图 3区礫分布图



第98図 2B区IV層出土石器接合図

第99図1 (2B943)・2 (2B941)・3 (2B789)・4 (2B867) が接合した状態が第98図である。これらはIV層から出土した。1→4の順に剥離が進められ、やがて第98図では下底の剥片が取られ、石核の中心部となる1は図上部でも打面再生剥離が行われてそこから縦長剥片が連続的に剥がれている。各破片は1が長さ8.2cm・幅8.4cm・厚さ3.4cm・重さ327.0g、2が長さ5.2cm・幅5.6cm・厚さ1.6cm・重さ49.0g、3が長さ4.2cm・幅3.1cm・厚さ1.2cm・重さ8.3g、4が長さ8.1cm・幅4.7cm・厚さ1.6cm・重さ51.7gである。

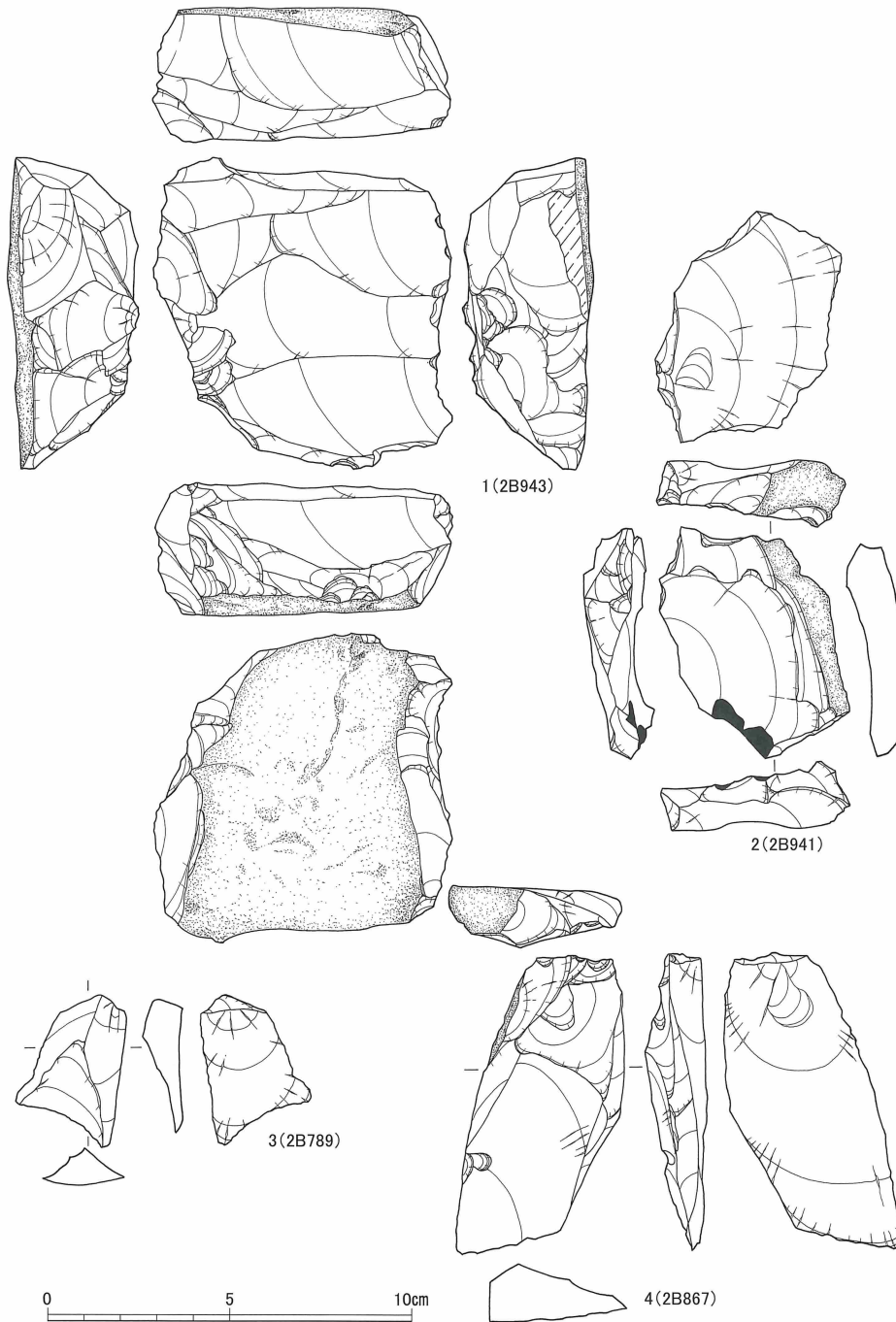
第100-2図1～3はⅢ層出土の剥片で、それらの接合状態が第100-1図1である。

第100-2図1 (3B381) は平坦部がめぐる一側面に自然面を残し、縁辺が鋭い他の縁辺部は剥片の打面付近から下端まで二次加工の小剥離や刃こぼれが認められる。長さ11.4cm・幅7.4cm・厚さ1.8cm・重さ88.9g。

第100-2図2 (2C42)・3 (2B145) は剥片上部に打撃部が残っている。接合状態は1を剥離した後、接合した小剥片の打面に至るまでには幅があるので数回の打撃を繰り返したことになる。全体の剥離は1→2→1の順に行われている。2は長さ6.5cm・幅1.7cm・厚さ1.5cm・重さ10.3

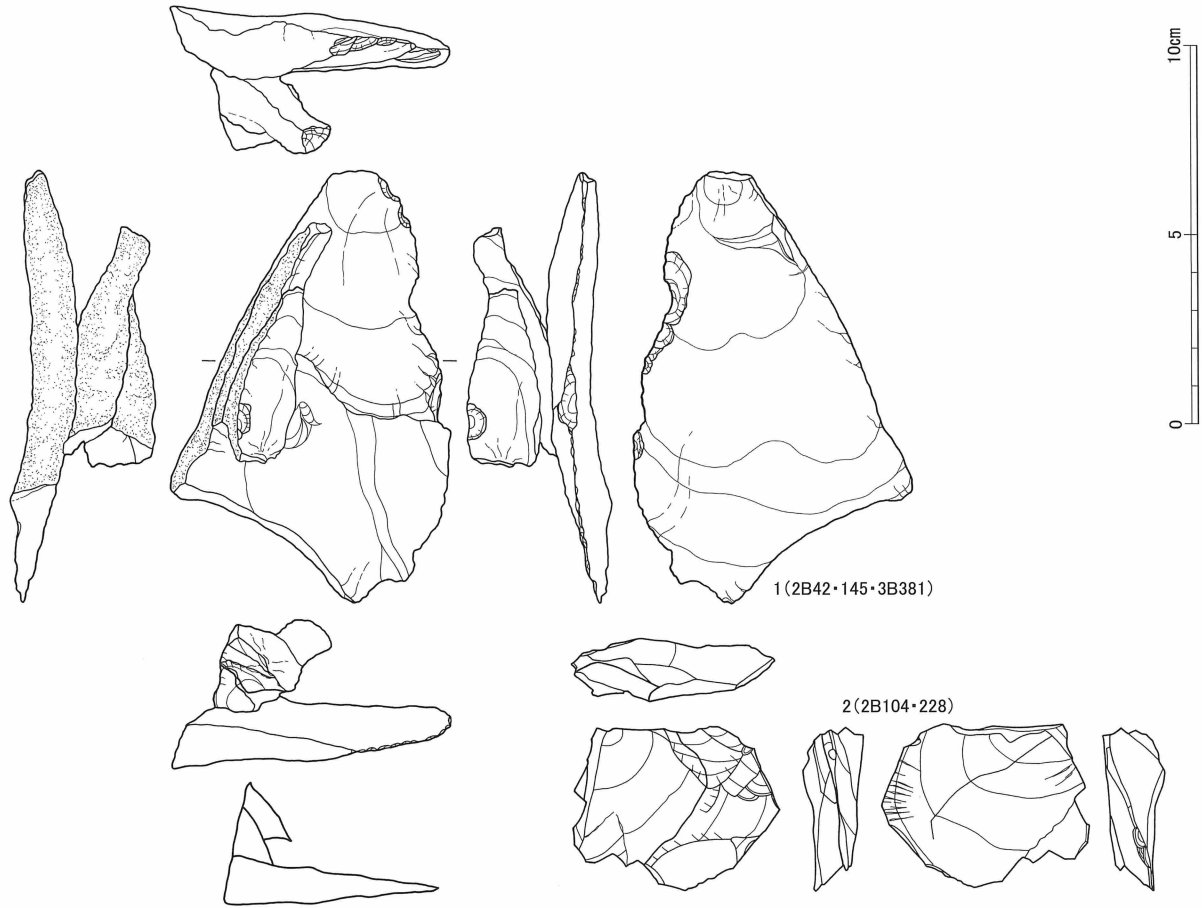
第104-2図は3B区IV層中部、標高44.2m前後に14点の剥片類が平面的まとまりを示して出土した状態である。番号は3B区の遺物採上げ番号である。

第105図1 (3B519) は円礫の一側辺に対し片側からだけ剥離を繰り返した石核である。図の下部側から上側に向かって順次5回程度の剥離を行っている。斜線部は摂理面で平たく割れた部分である。長さ7.6cm・幅9.5cm・厚さ4.8cm・重さ435.3gである。



第 99 図 2B区IV層出土石器

第105図 2 はひとつの剥片が二つに割れ (3B538・3B645)、3B区のⅢ層から出土した。長さ7.7cm・幅3.3cm・厚さ1.5cm・重さ39.3g。3は長さ4.7cm・幅2.4cm・厚さ1cm・重さ11.3g。



第 100-1 図 2B・3B区Ⅲ層出土石器接合図

第105図3 (3B633) はⅣ層から出土した石核である。片側に自然面を残す。長さ6.9cm・幅6.0cm・厚さ3.0cm・重さ144.4g。

第106図1 (3C130) はⅢ層出土の横長剥片を利用した石核である。長軸の片側が尖頭器状に尖る。先端付近には細かな剥離が加わるので意図的に尖らせたようである。長さ10.4cm・幅8.7cm・厚さ4.2cm・重さ317.4g。

第106図2 (3C11・3C39) は3C区Ⅲ層から出土した。本来ひとつの剥片が二つに割れて出土したもの。長さ6.2cm・幅5.2cm・厚さ0.8cm・重さ16.8gである。

第106図3 (3C82) は3C区のⅢ層から出土した縦長剥片である。剥離の方向は表裏とも同じである。長さ8.1cm・幅3.5cm・厚さ1.1cm・重さ32.1gである。

この他遺物実測図を示さないが、以下の石器接合例がある。

○3B51・3B60・3B65・3B90・3B167・3B241・3B245・3B247・3B301・3B354・3C76・3C77・3C80・3C87・4B4・4B155である。出土した層はⅢ層で、3B区を中心に3C区と4B区にも分布する。

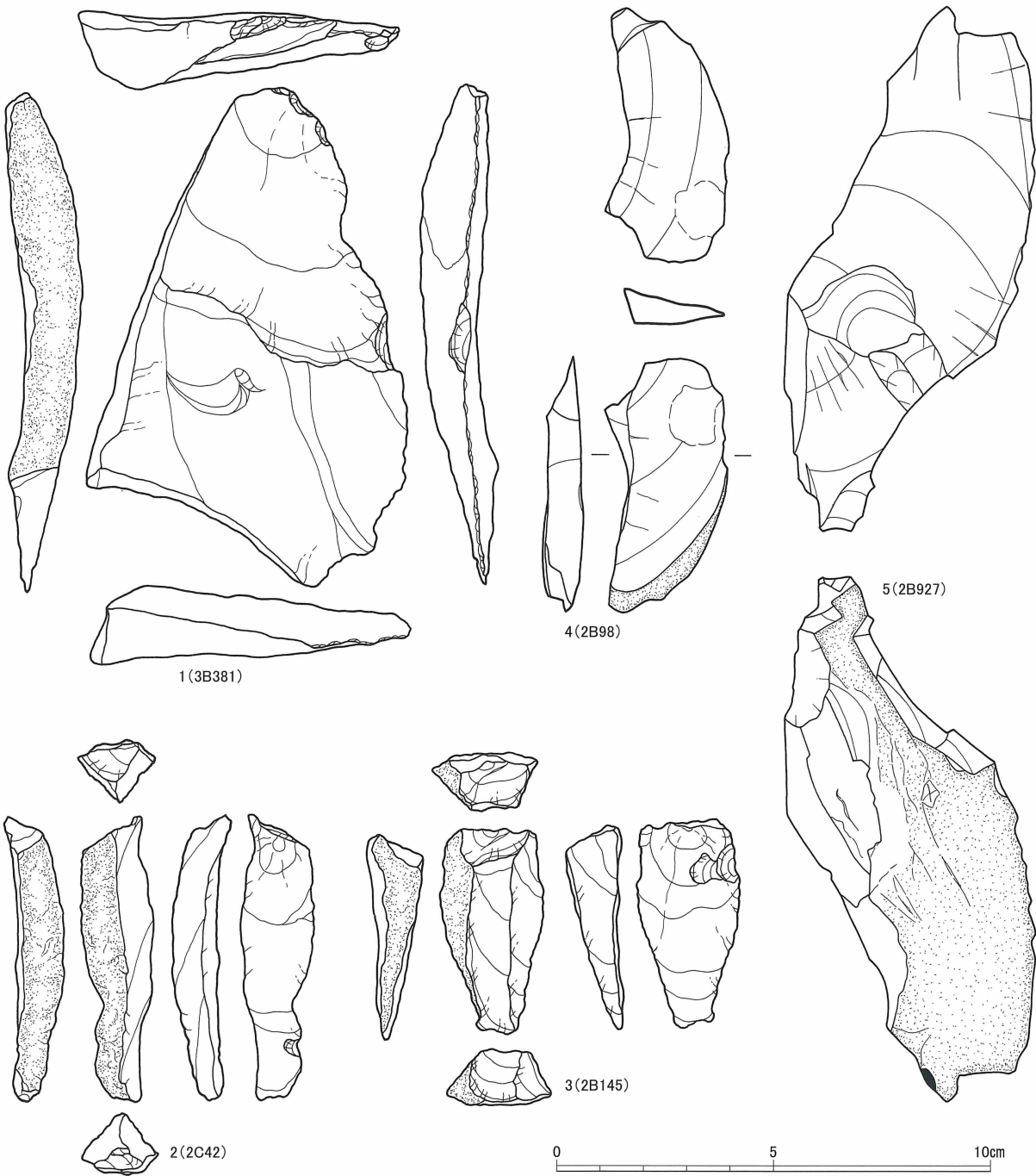
○3B77・3B399・3B415・3C83・3C144はⅢ層から出土した接合例である。

○3B630は2A391・3C120と接合するⅢ層出土の剥片である。

○3B96・3B570・3C142・3C173はⅢ層出土の接合例である。

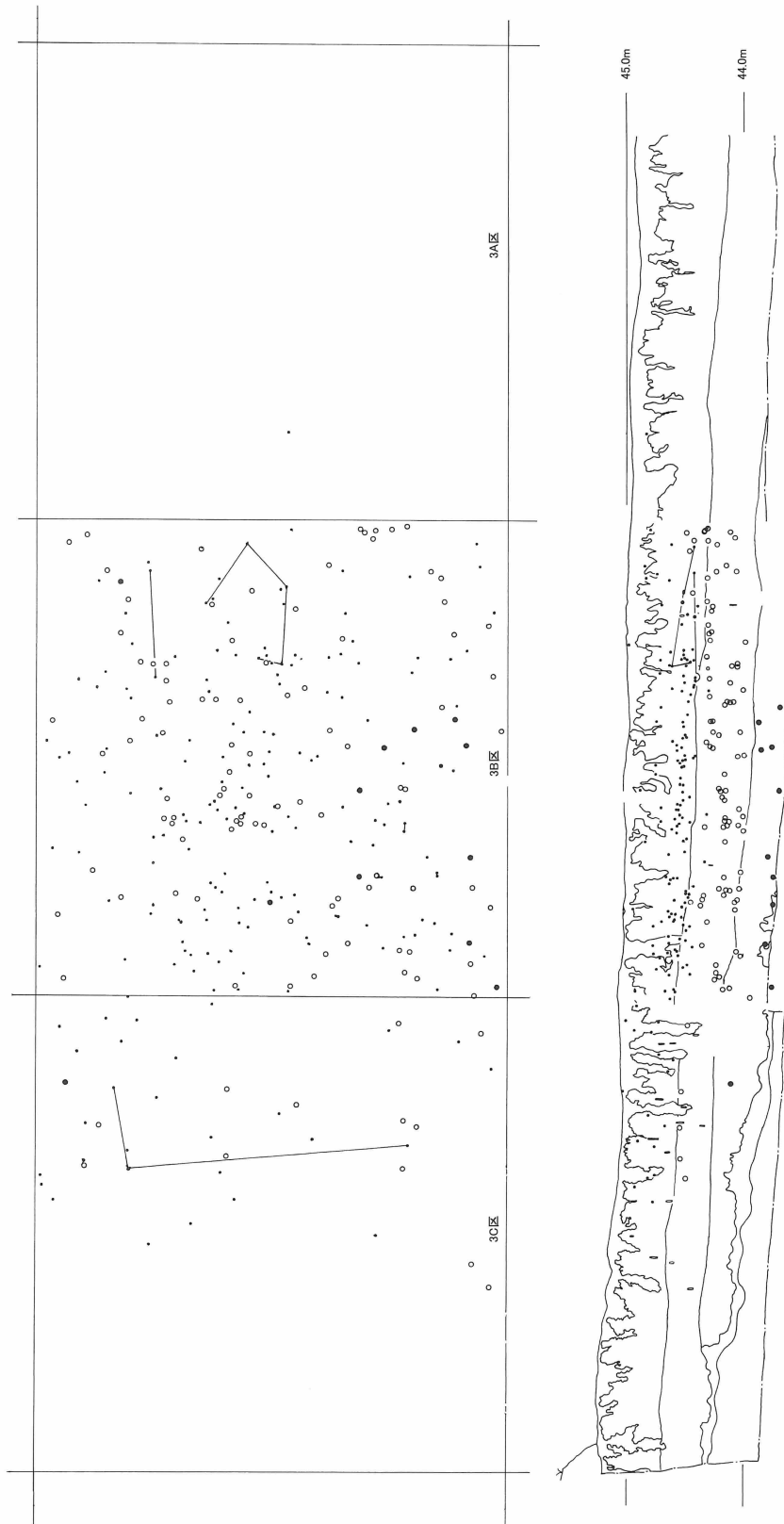
○3B611・3B808・3B841はⅣ層出土の接合例である。

○3B60・3B65・3B90・3B167・3B241・3B245・3B247・3B301・3B354・3C76・3C77・3C80・3C87・
 4B4・4B155はⅢ層から出土した接合例である。
 ○3B384・3C162はⅢ層出土の接合例である。

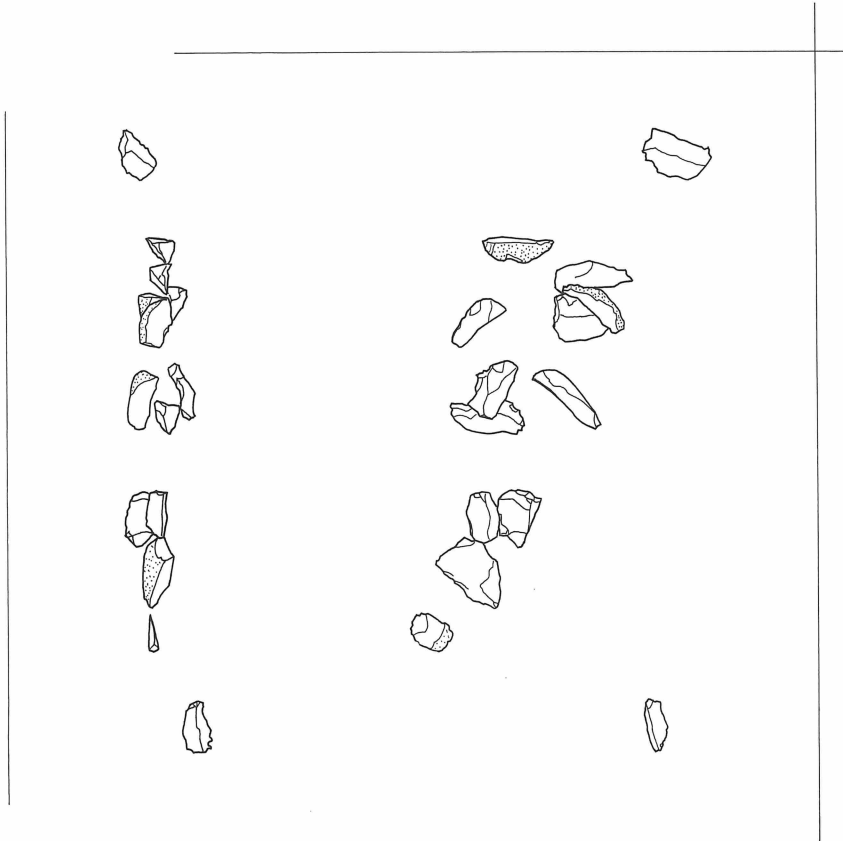


第 100-2 図 2B区Ⅲ・Ⅳ層出土接合資料

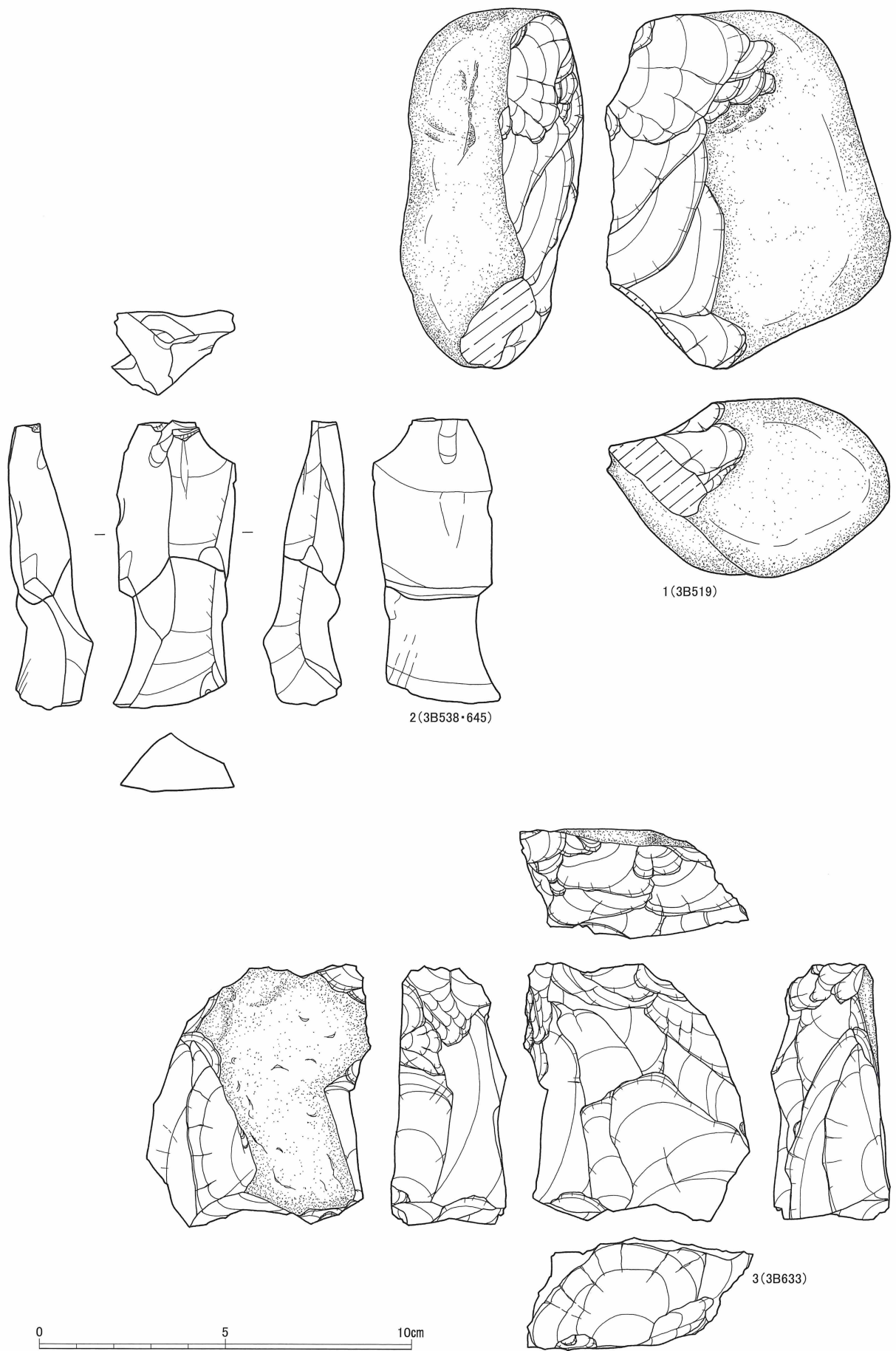
3B747・3B749・3B750・3B754・3B755・3B756・3B757はIV層出土の接合する剥片である。



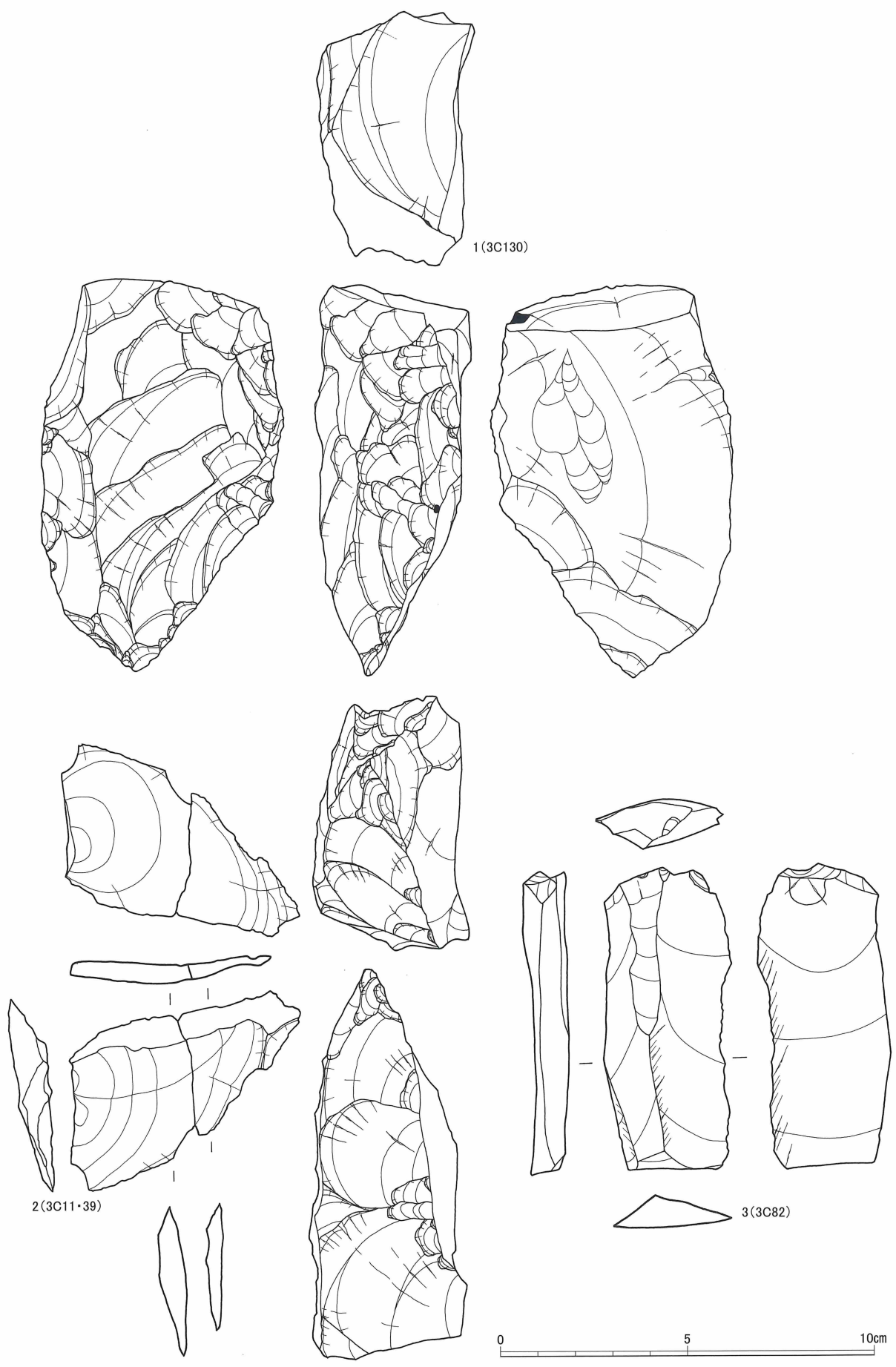
第 104 図 3区石器出土状況



第 104-2 图 3 区石器出土状况



第 105 图 3B区Ⅲ·Ⅳ层出土石器



第 106 图 3C区出土石器

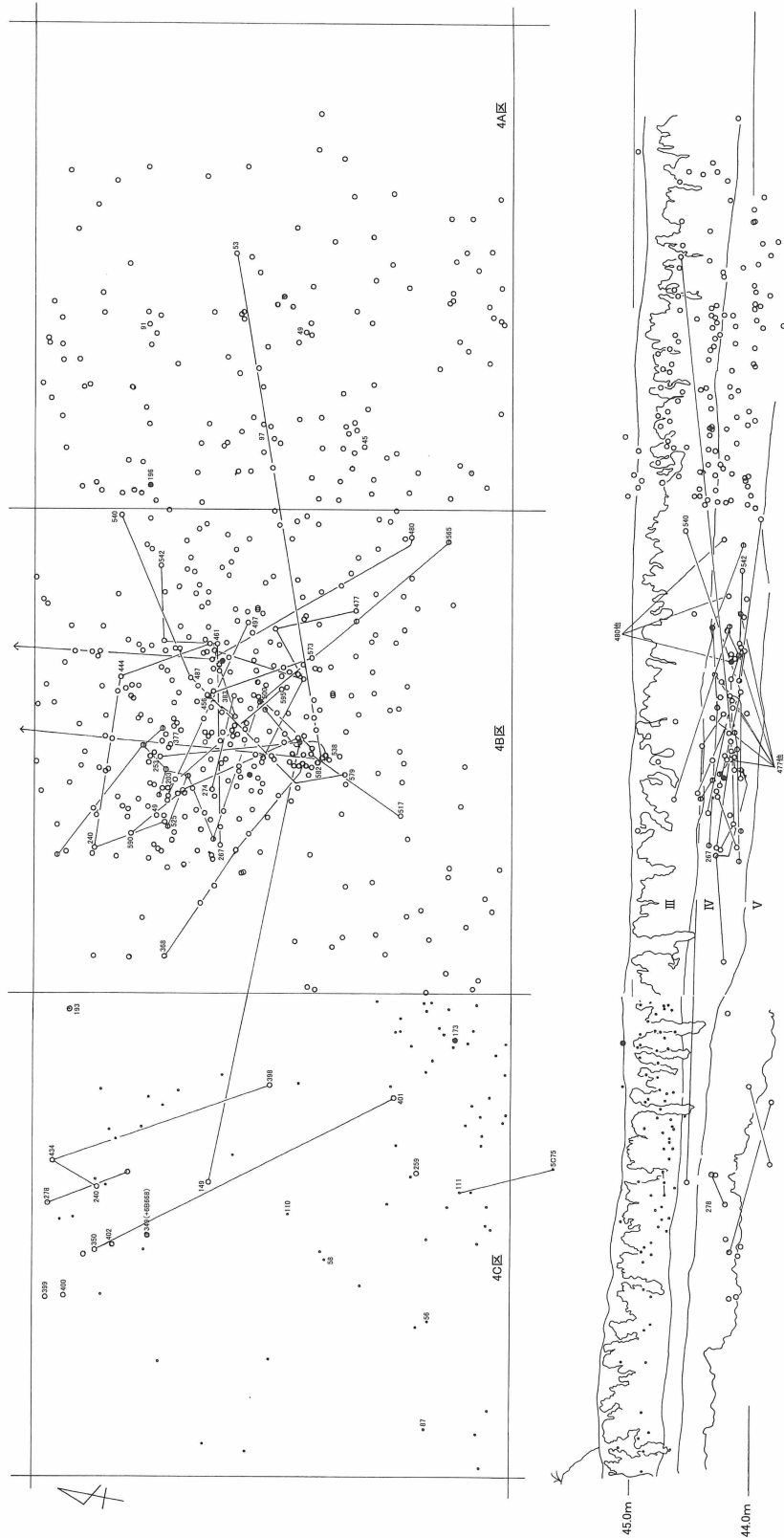
4区の調査

4区はA区東部が少し欠けるだけである。IV層までは完全に掘り下げ、南部と西部の壁際の一部分は岩盤まで掘り下げた。パミスの多いIV層は水平堆積するが、下位のVIIa層の下面は西部で標高44.3m前後、東部で43.9m前後と東側に向かい傾斜している。

石器の分布状態

4区ではB区中央部付近に石器が集中する傾向がみられた。接合する例もここに集まったり、4A区や4B区、3B区の石器と接合するものがある。

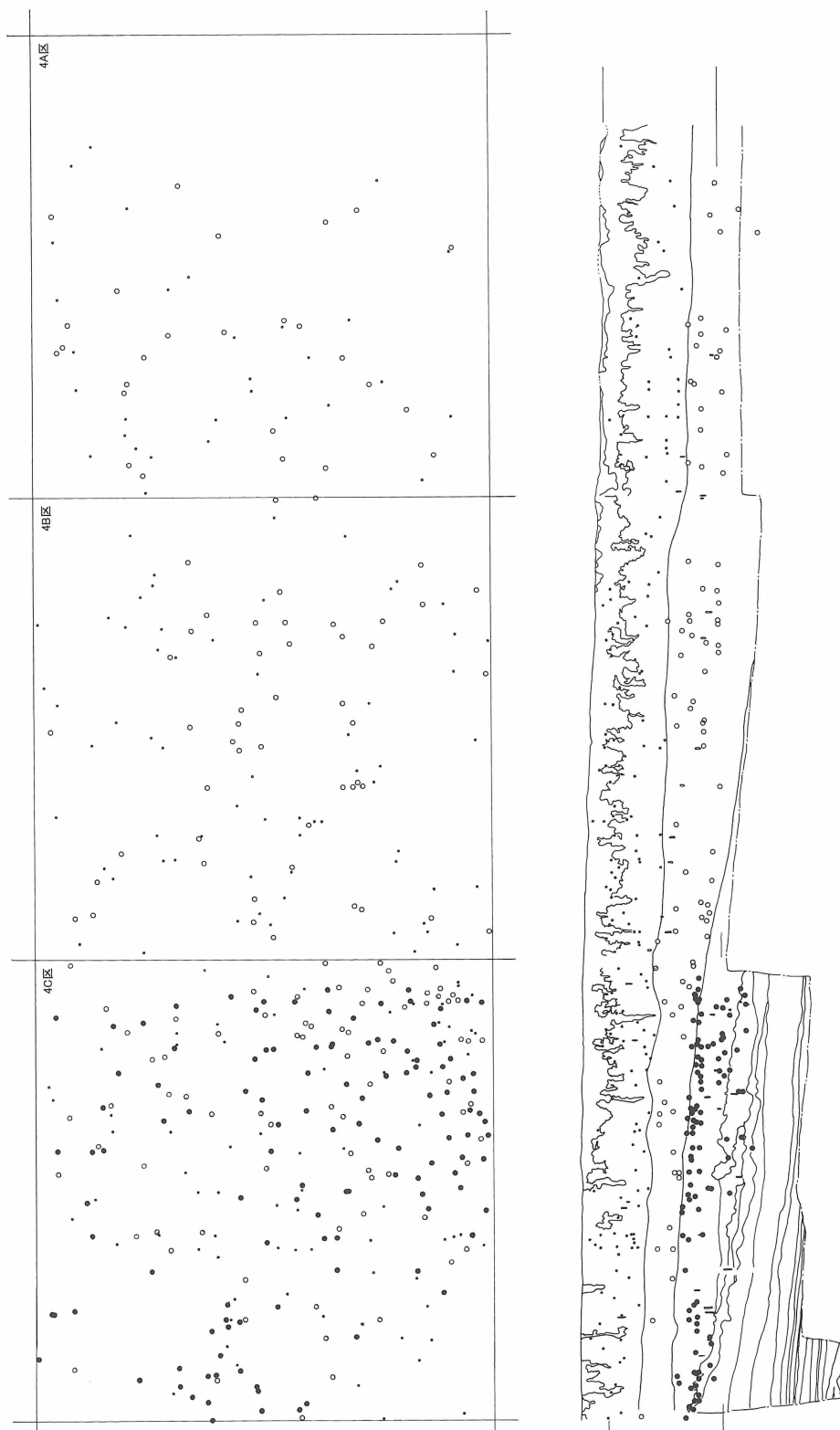
調査区全体としてみると、1～3B区の各区に一箇所ずつ存在し、全体でひとまとまりを構成する石器のまとまりの一つに含まれるようである。南側の5区から6区北部に遺物分布の少ない地域があるので余計に際だつ。



第107図 4区出土石器分布図

礫の分布状態

4区では全体の礫分布は東部のA区・B区でやや少なく、C区に多い傾向がある。特にC区南東部にやや多い。分布図ではⅢ層出土礫を小さい点にし、Ⅳ層に対応する礫を白丸、Ⅴ層以下を黒丸で示した。Ⅴ層以下まで調査したのがC区だけであるため上記の分布傾向が生じたとも言える。割れた礫同士で接合する例はなかった。調査区全体でみると南側の5区に礫分布が少ないので、4区の礫は北部地域のまとまりの一部に見える。



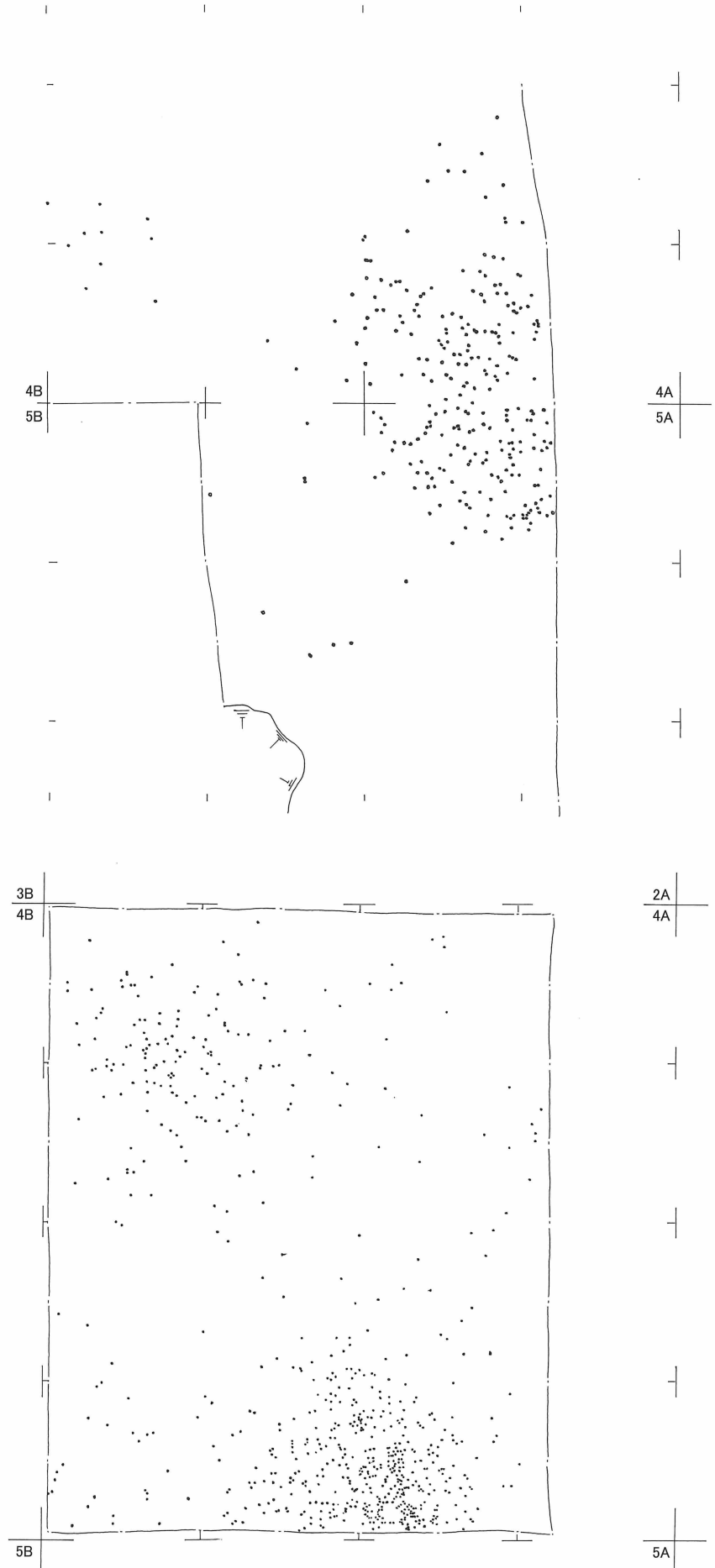
第 108 図 4区出土礫分布図

炭化物の分布状態

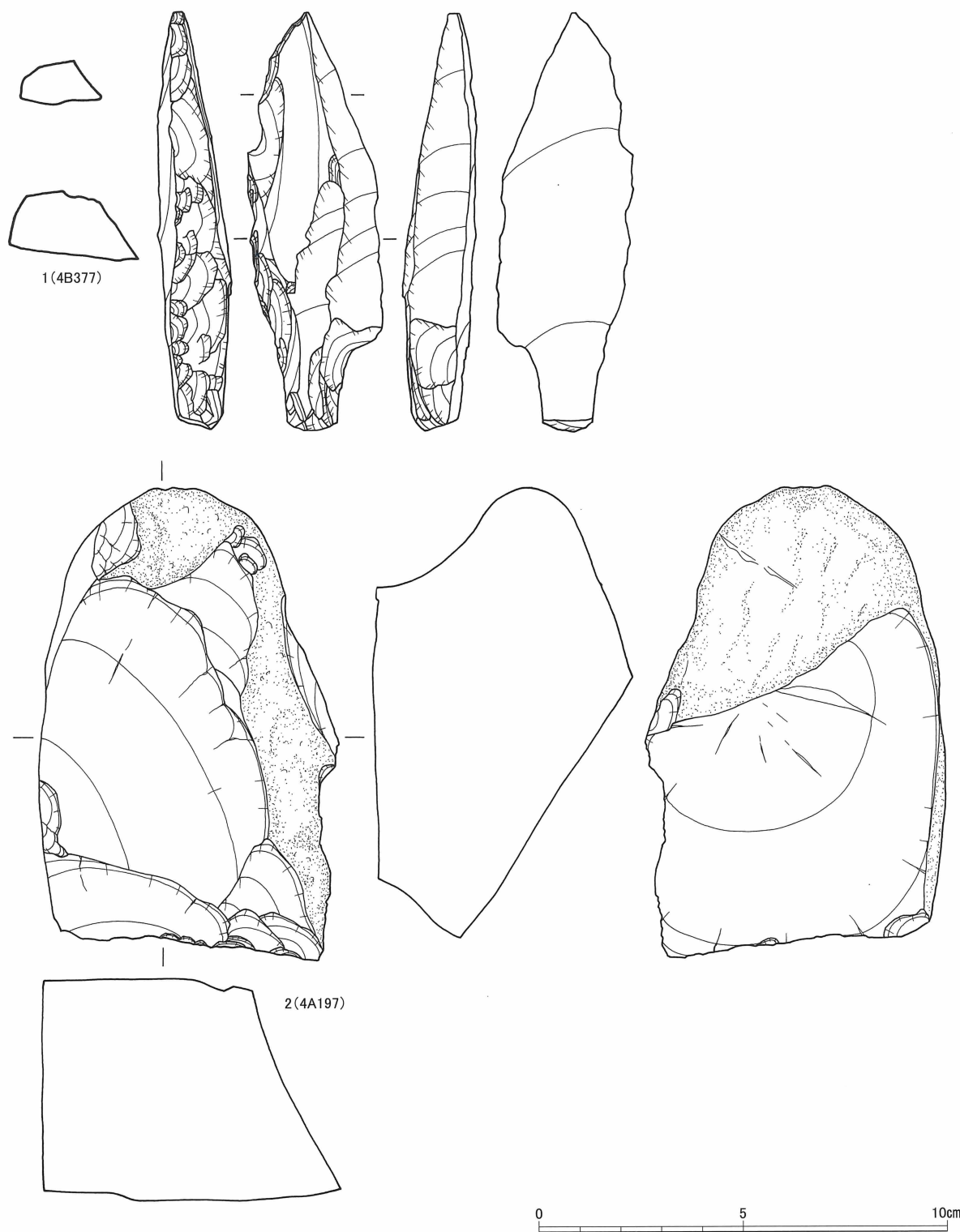
第109図上は4A区と5A区にまたがりⅡ層に分布した炭化物の出土状態である。同様の炭化物分布状態は4A区のⅢ層でもみられた(第109図下)。

第109図下は4A区Ⅲ層の炭化物分布状態である。北西部と南東部に集中する部分がある。これらは標高44.6m前後の面における状態である。

4A区では石器の分布は少ないものの、Ⅲ層中部からは若干数の石器が出土している(第108図)。



第109図 4A・5A区Ⅱ・Ⅲ層炭化物分布図

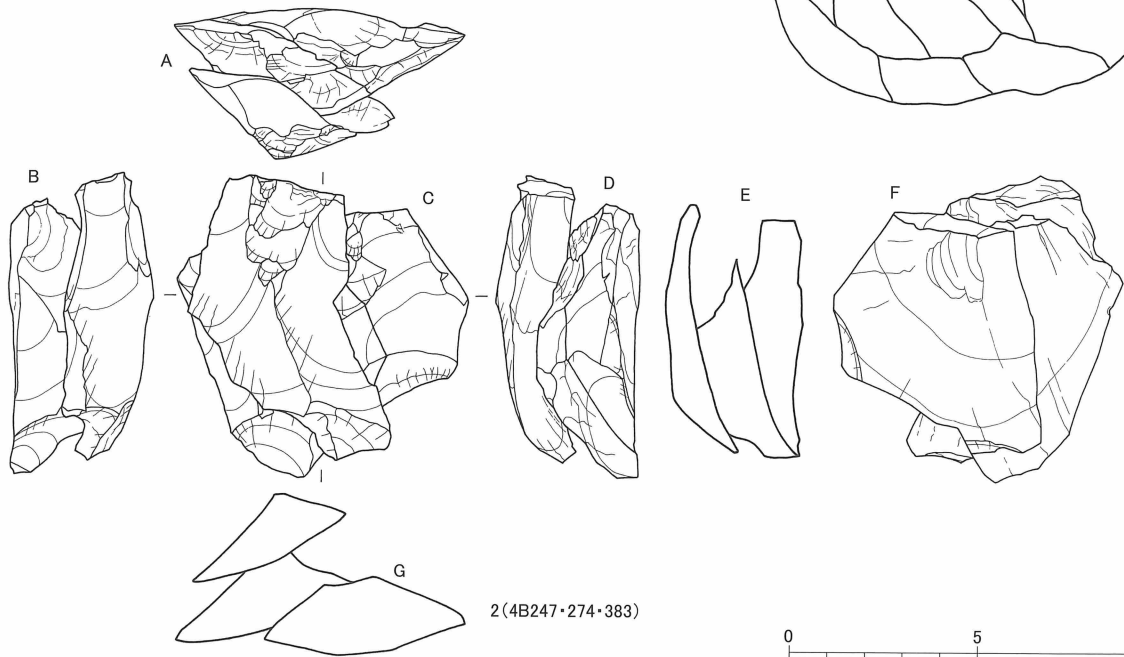
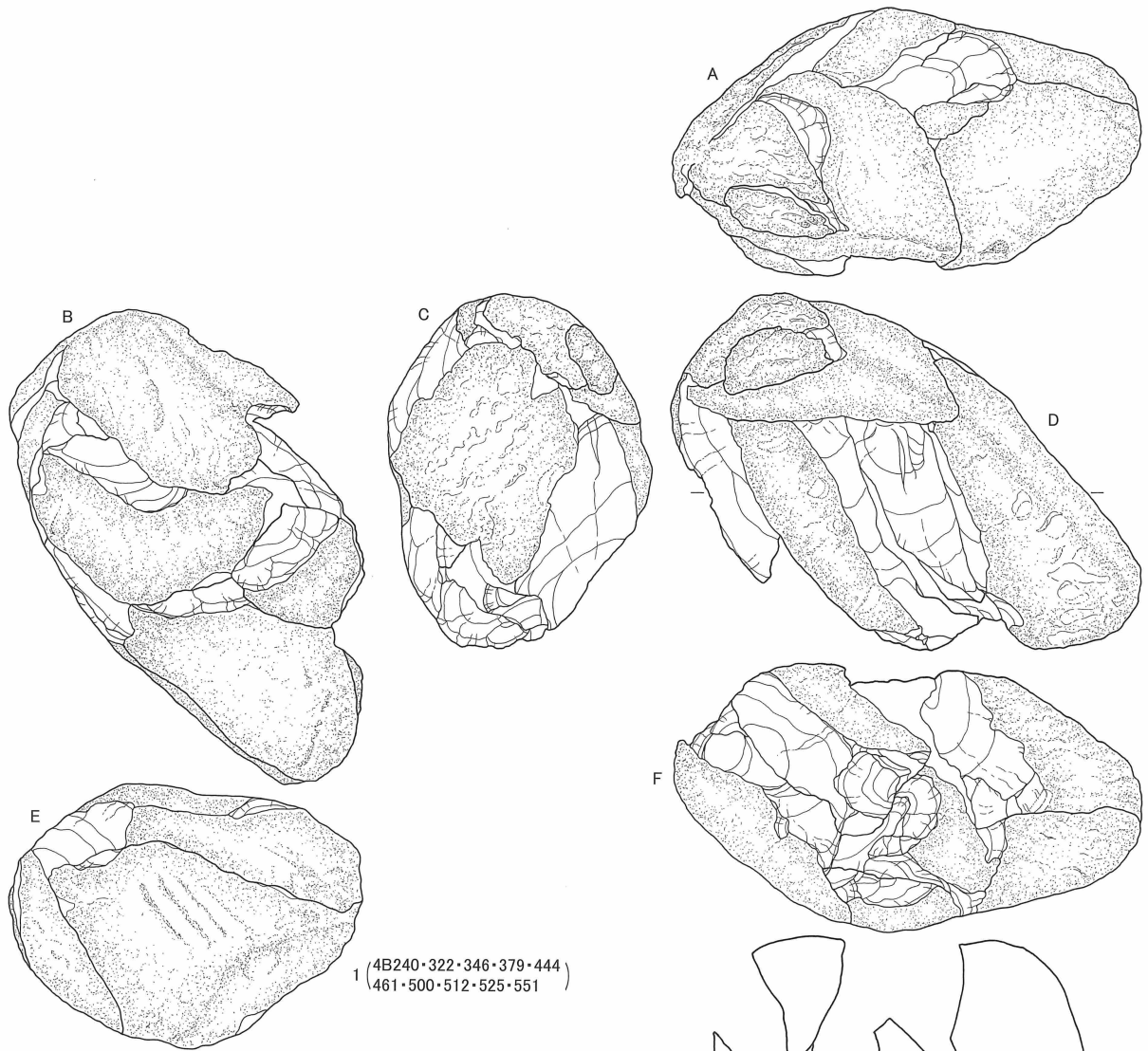


第110図 4A・B区出土石器

4区出土石器

第110図1 (4B377) は4B区のⅢ層から出土した剥片尖頭器である。縦長剥片の打面を両側から剥離を加えて狭め、片側の側辺全体も整形剥離されている。長さ10.2cm・幅3.3cm・厚さ1.8cm・重さ658.9g。

第110図2 (4A197) は礫を打ち剥がし、その剥離面と反対側を大きく剥ぎとり、両者の交わる先端部に刃部を作っている。刃部には刃こぼれがある。長さ11.5cm・幅7.4cm・厚さ6.6cm・重さ658.9gである。



第 111 图 4B区出土石器接合图

第111図 1はIV層から出土した第112・113図・第118図 1の破片の接合状態である。

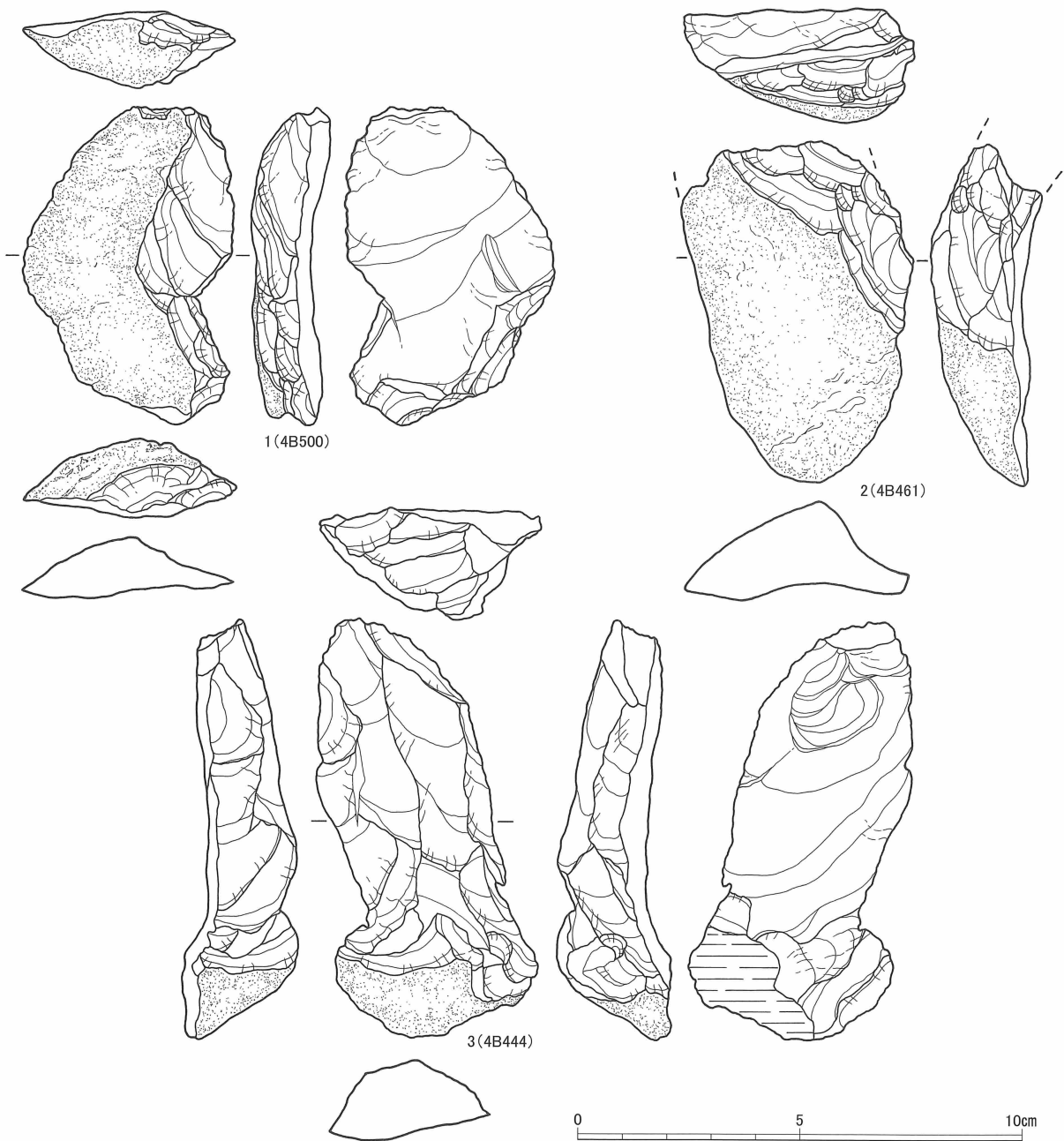
第111図 2は4B区のⅢ層から出土した剥片（第115図1~3）の接合状態図である。接合図で説明する。Eの断面図では左から2（4B274）・3（4B383）・1（4B247）である。第118図 1は外側から4B379・4B346・4B525の個体で、全体の接合図ではA図の左半分に位置する。この大きい剥片を打ち剥いでできた面を打撃し、A図の右方向に向かって剥離を進めている。1は長さ7.9cm・幅6.1cm・厚さ2.4cm・重さ95.3g。

第112図 1（4B500）は長さ7.1cm・幅0.43cm・厚さ1.8cm・重さ4g。

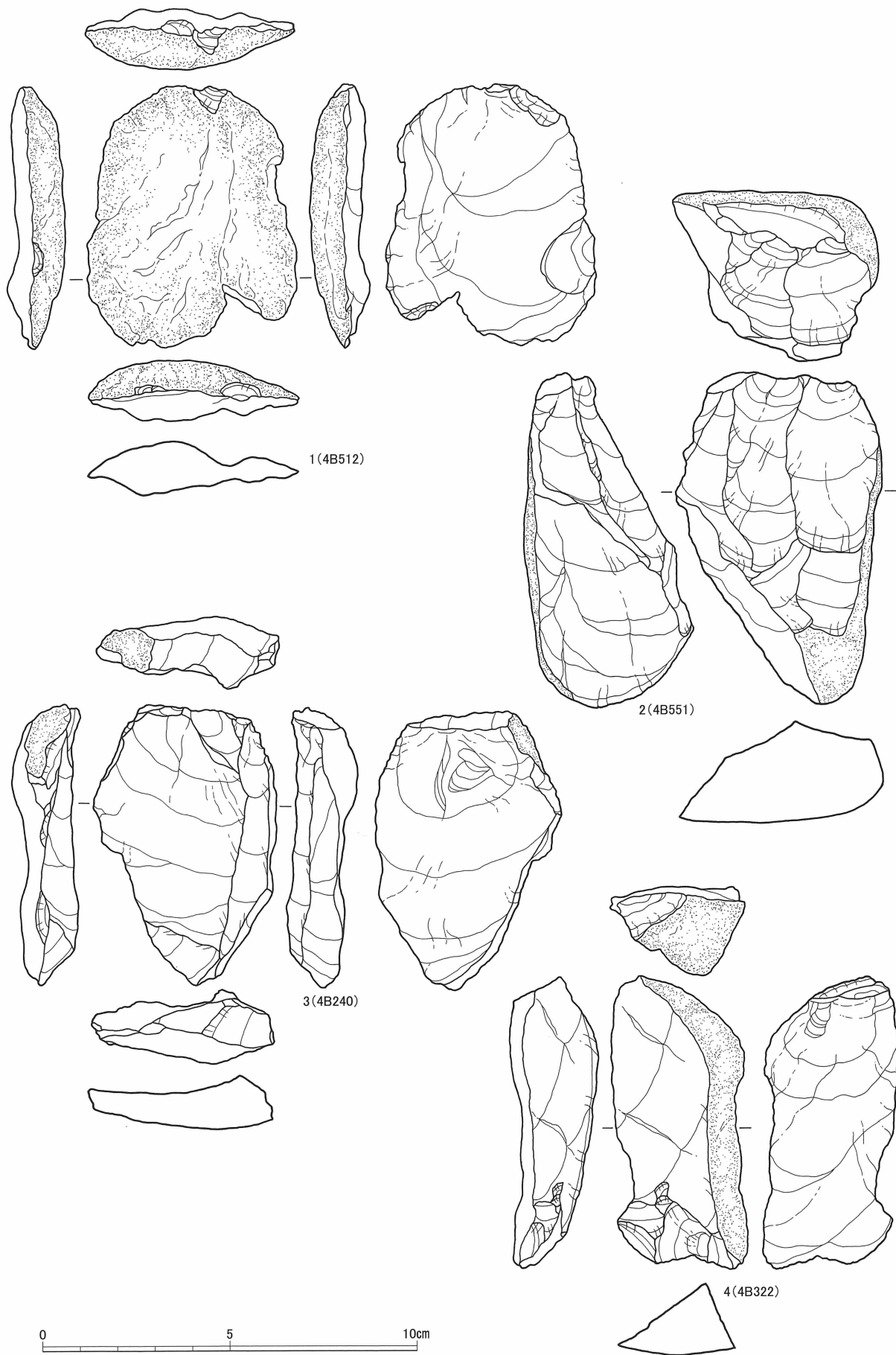
第112図 2（4B461）は長さ7.6cm・幅5.2cm・厚さ2.5cm・重さ92.8g。

第112図 3（4B444）は主要剥離面末端に節理面があり、長さ9.4cm・幅5.0cm・厚さ2.5cm・重さ80.9g。

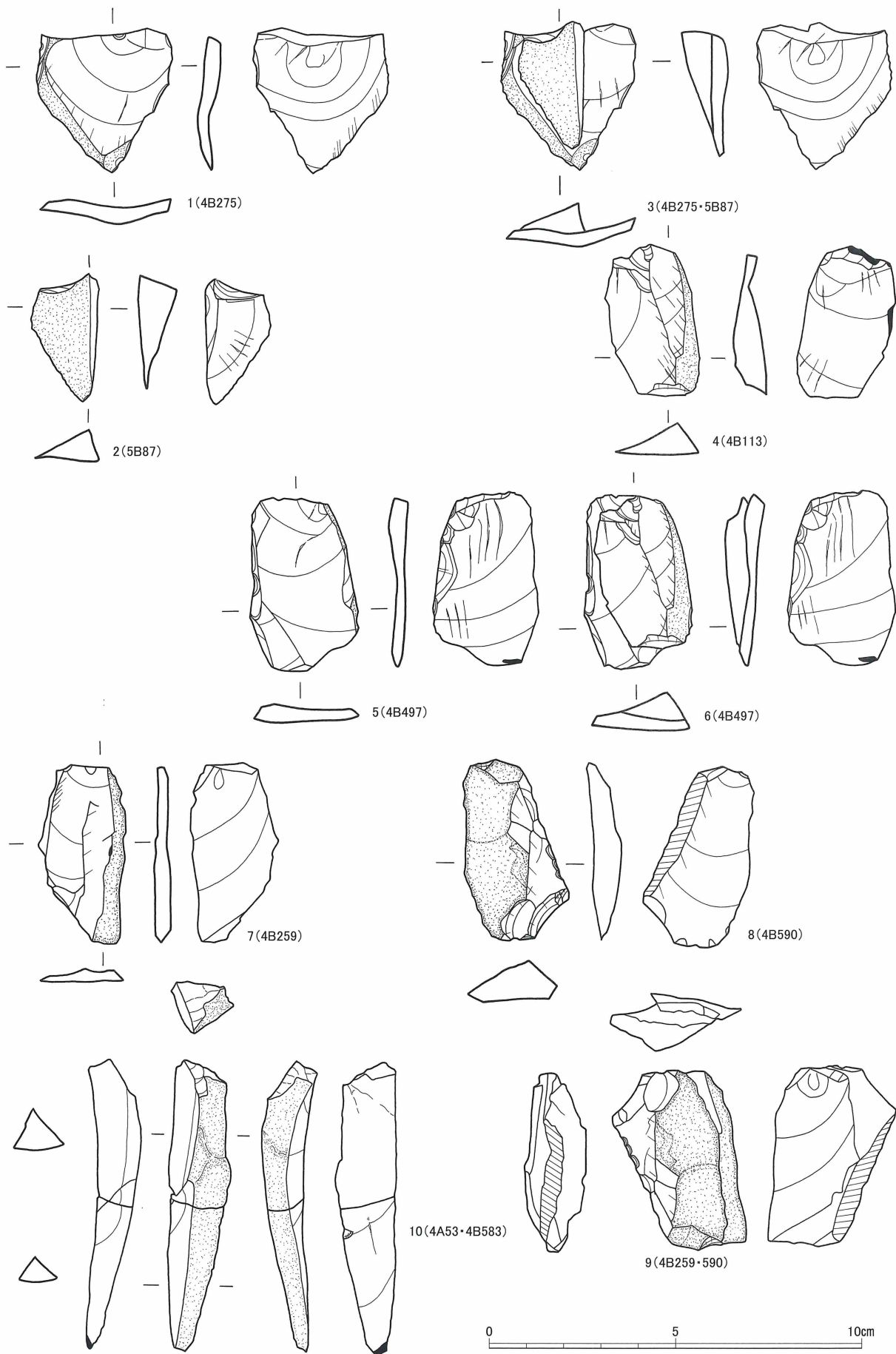
第113図 1（4B513）は長さ6.9cm・幅5.6cm・厚さ1.6cm・重さ54.7g。



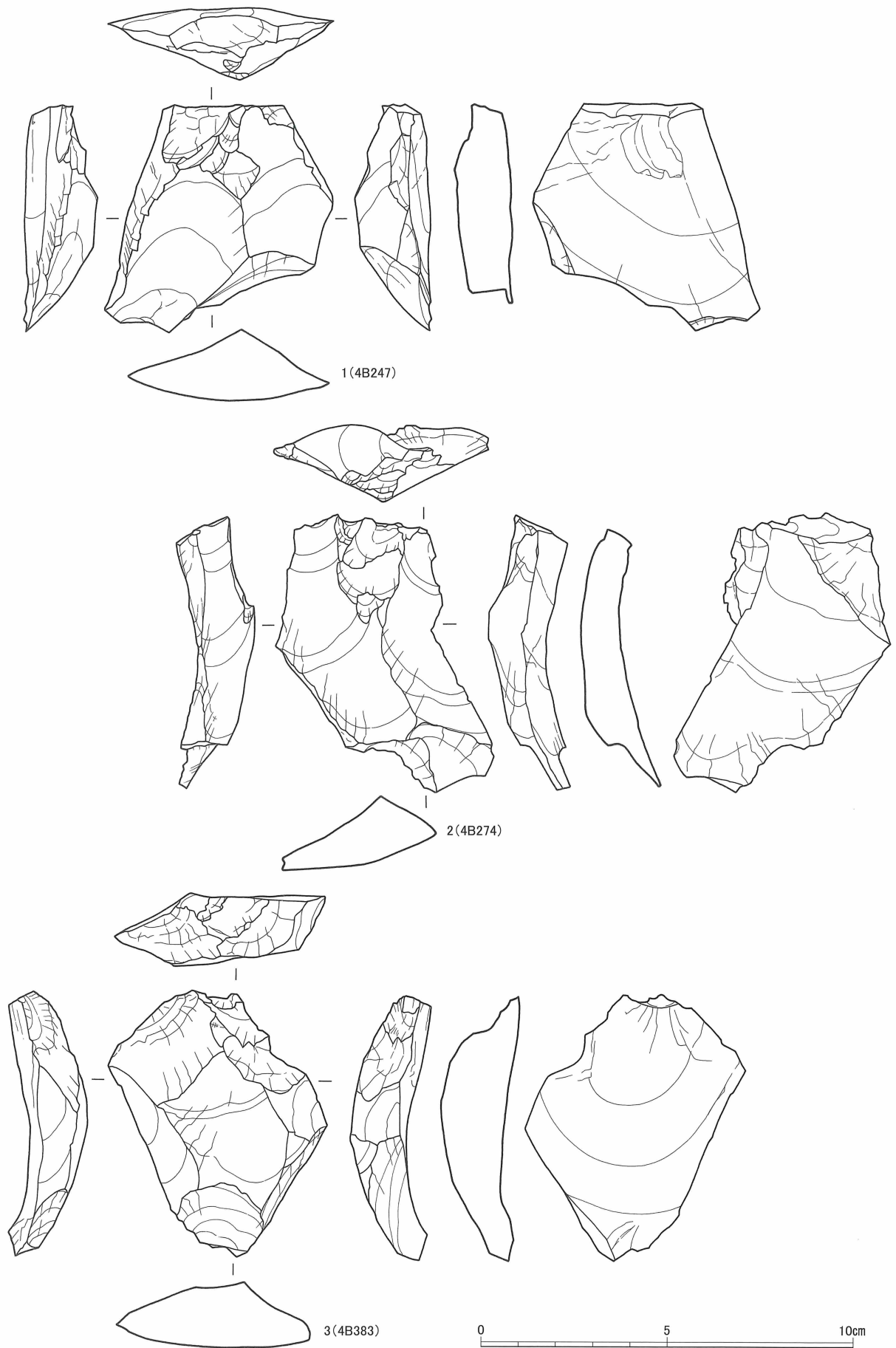
第112図 4B区出土接合資料



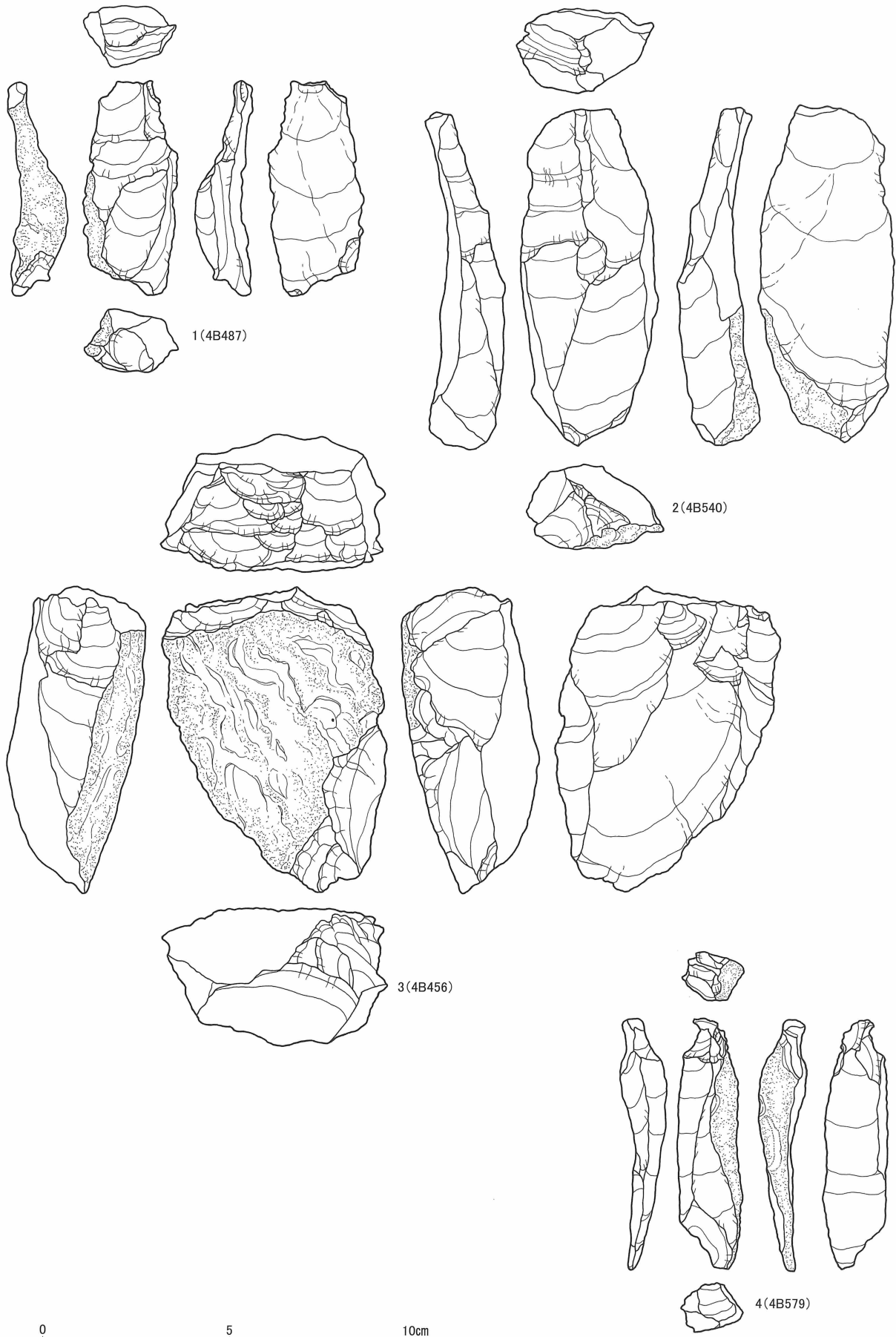
第 113 图 4B区出土接合資料



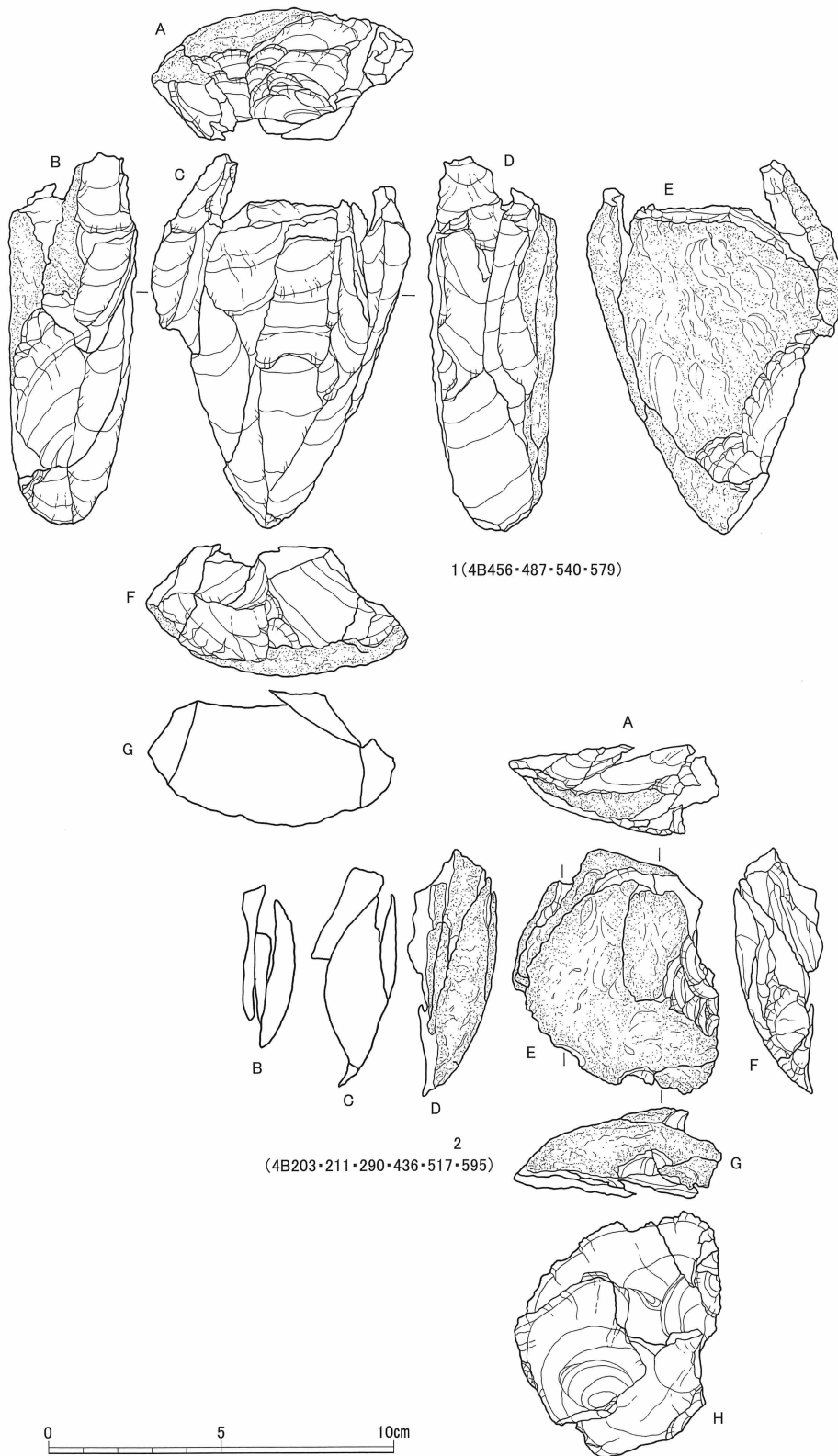
第 114 图 4B区他出土接合資料·石器



第 115 图 4B区出土接合資料



第 116 图 4B区出土接合資料



第117図 4B区出土石器接合図

1の大きい剥離面を利用しなかった薄い剥片、次に左に打点を移動し第112図1を剥離、同じ打面を右に移動しこれも出土しなかった厚手の剥片を得、その右側で第113図4を剥離。次に左にもどって移動し、同じ打面を

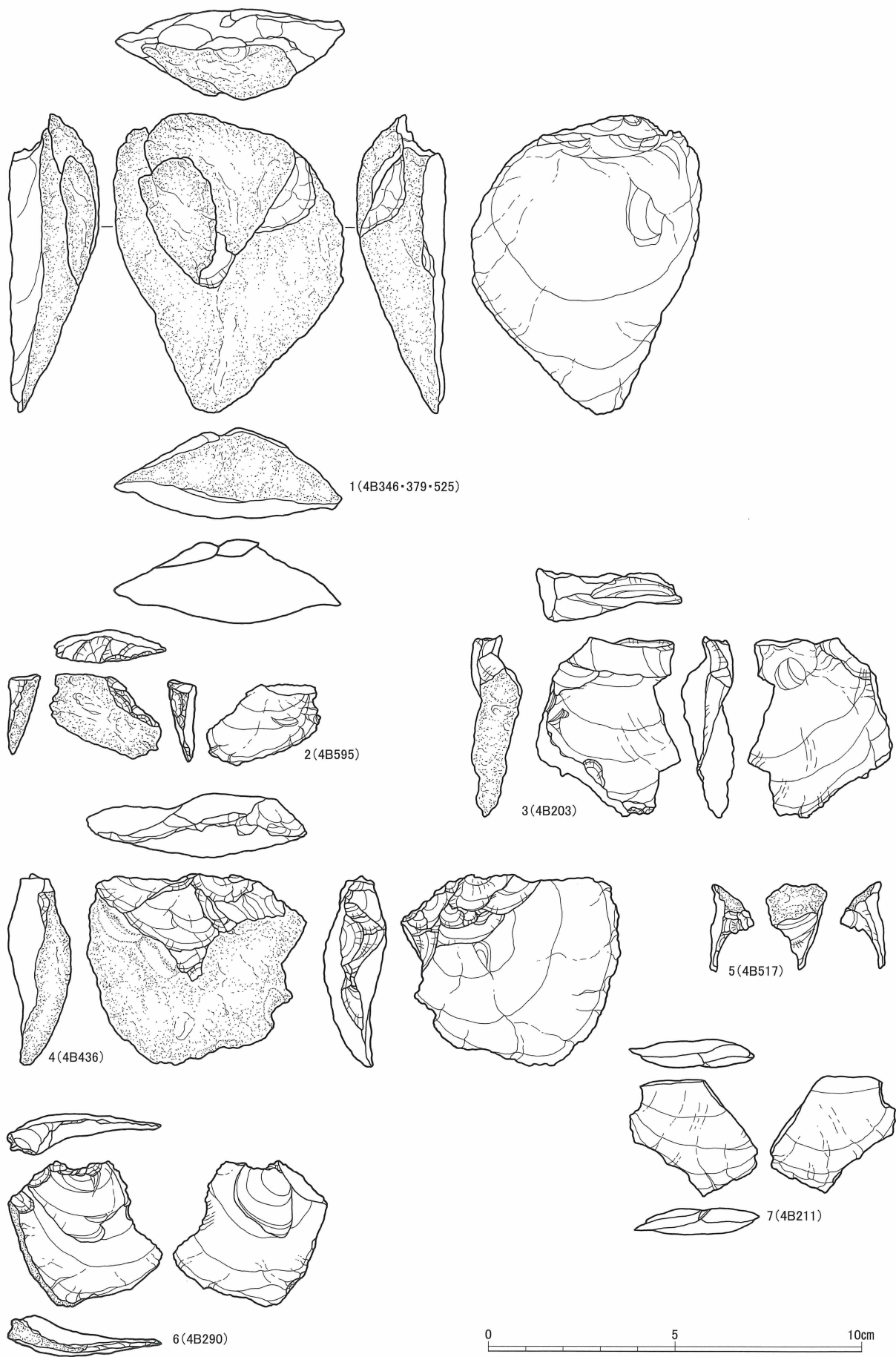
第113図2 (4B551) は剥片生産の最後にのこった石核で、長さ8.8cm・幅5.5cm・厚さ4.5cm・重さ193.4g。

第113図3 (4B240) は長さ7.4cm・幅4.9cm・厚さ1.9cm・重さ56.5g。

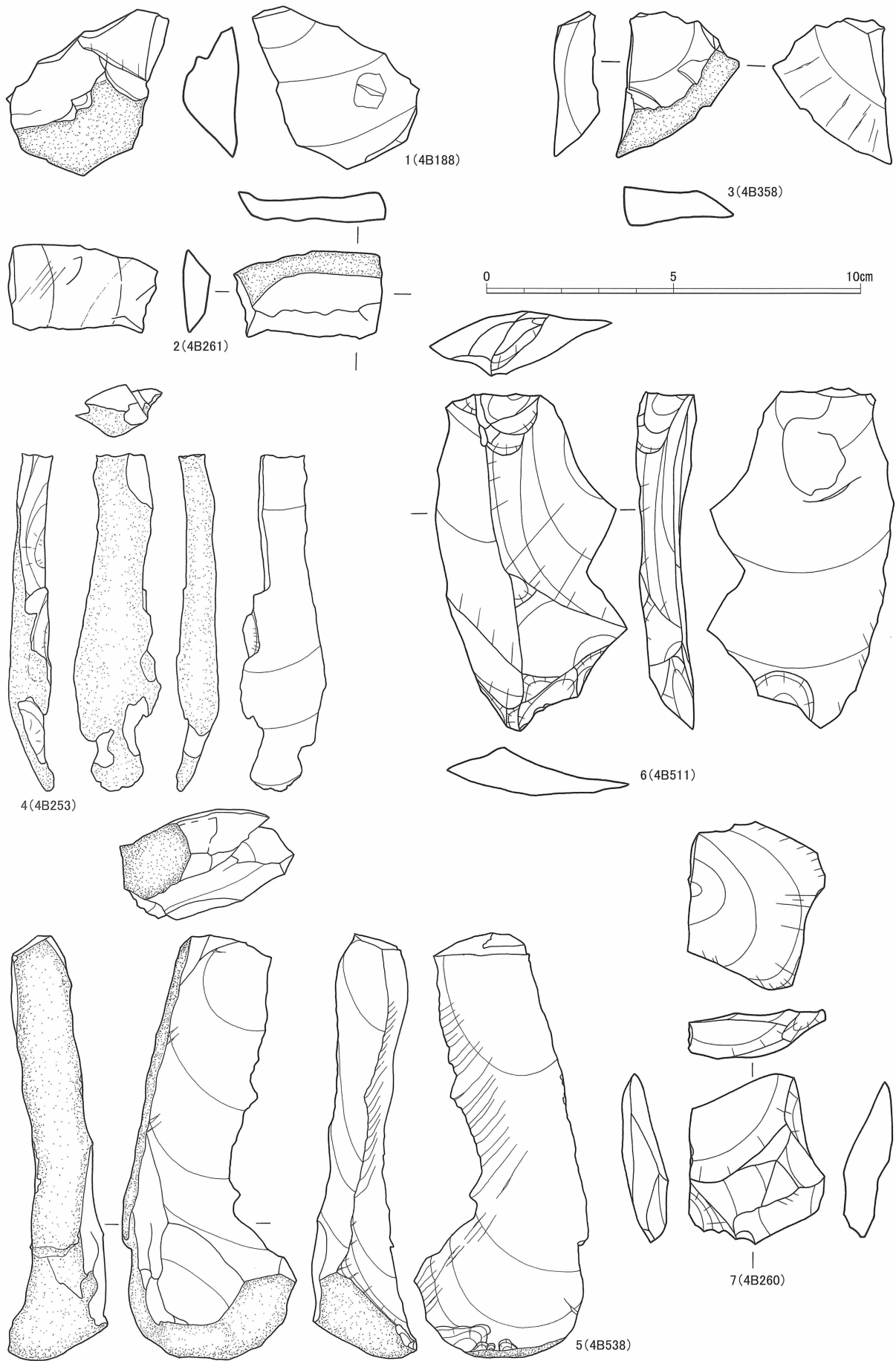
第113図4 (4B322) は長さ7.7cm・幅2.6cm・厚さ2.3cm・重さ54.4g。

第111図の接合図によって剥離過程を説明したい。この資料は接合によって本来の原石の大きさが復元できる。最大の長さは14.0cm、推定した最大幅は8.5cm、推定の最大厚さは7.5cmである。扁平ではない立体的な長い円礫である。

さらに原石に対する最初の一撃は第118図1の突角部にあたる破片である。1は3片が接合しているが、最初の打撃で剥がれたのは接合している小さい2片である。一撃で二つに割れたのである。二番目の打撃は1の剥離で生じた平坦面を打撃してできた第113図1である。これで生じた面を打撃して得たのが第113図1の大きい方の剥片である。ここまでは新たに出来た剥離面を次の打撃面とするように交互に打撃方向を変換している。次の打撃は第113図



第 118 图 4B区出土接合資料



第 119 图 4B区出土接合資料

打ち第112図3の剥片を得ている。同じ打面を利用しさらに剥離を進め、□→第113図3→□→□→□で全てを終えている。

残されたのが第113図2の石核である。結局、出土しなかった剥片の内どれかが石器として二次加工されたか、そのままだったか。

第114図1・2は4B区・5B区のⅢ層から出土した。同図3に接合状況を示した。1は長さ3.7cm・幅3.6cm・厚さ0.7cm・重さ6.4g。2は長さ3.4cm・幅1.8cm・厚さ1.0cm・重さ3.4g。

第114図4・5は4B区のⅢ層から出土した接合資料で6はその接合状態である。

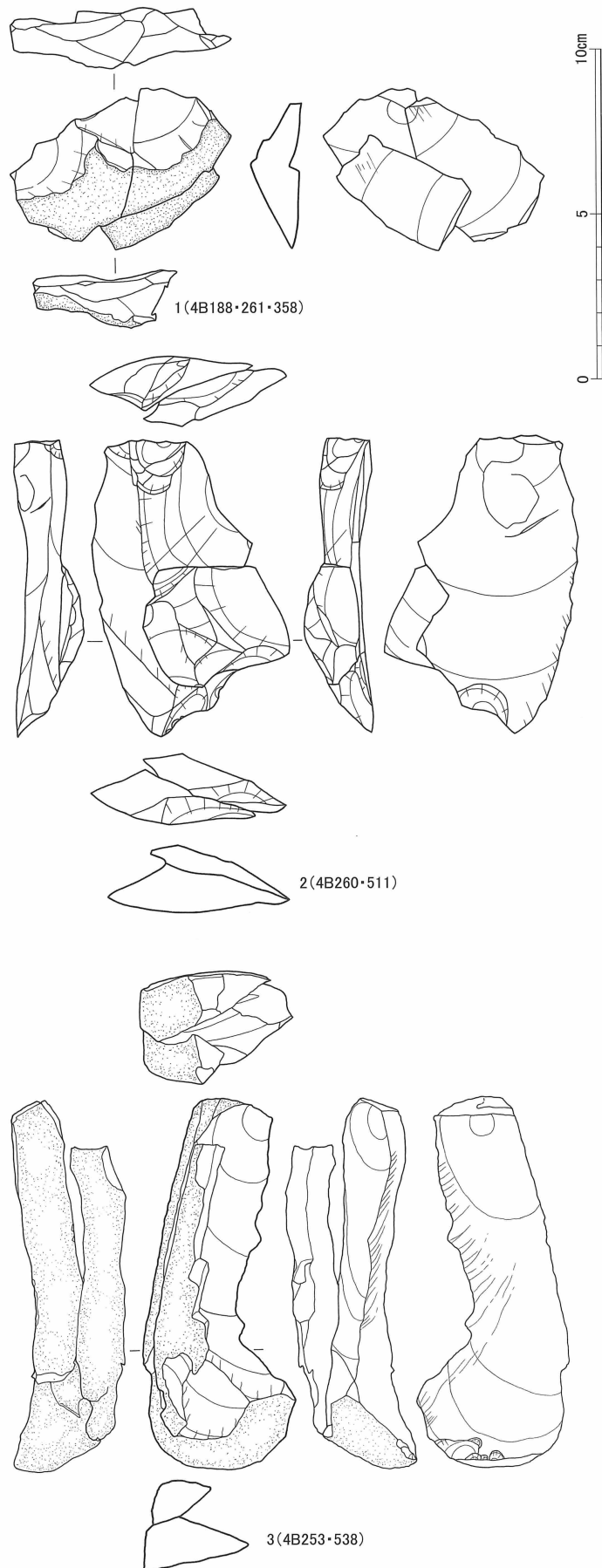
第114図7・8は4B区のⅣ層から出土した接合する剥片である。8が先に剥離され、7は天地逆方向から打ち剥がされている。

第114図10は4A区のⅢ層と4B区Ⅳ層から出土したひとつの剥片の上下である。長さ4.8cm・幅1.6cm・厚さ1.1cm・重さ10.6g

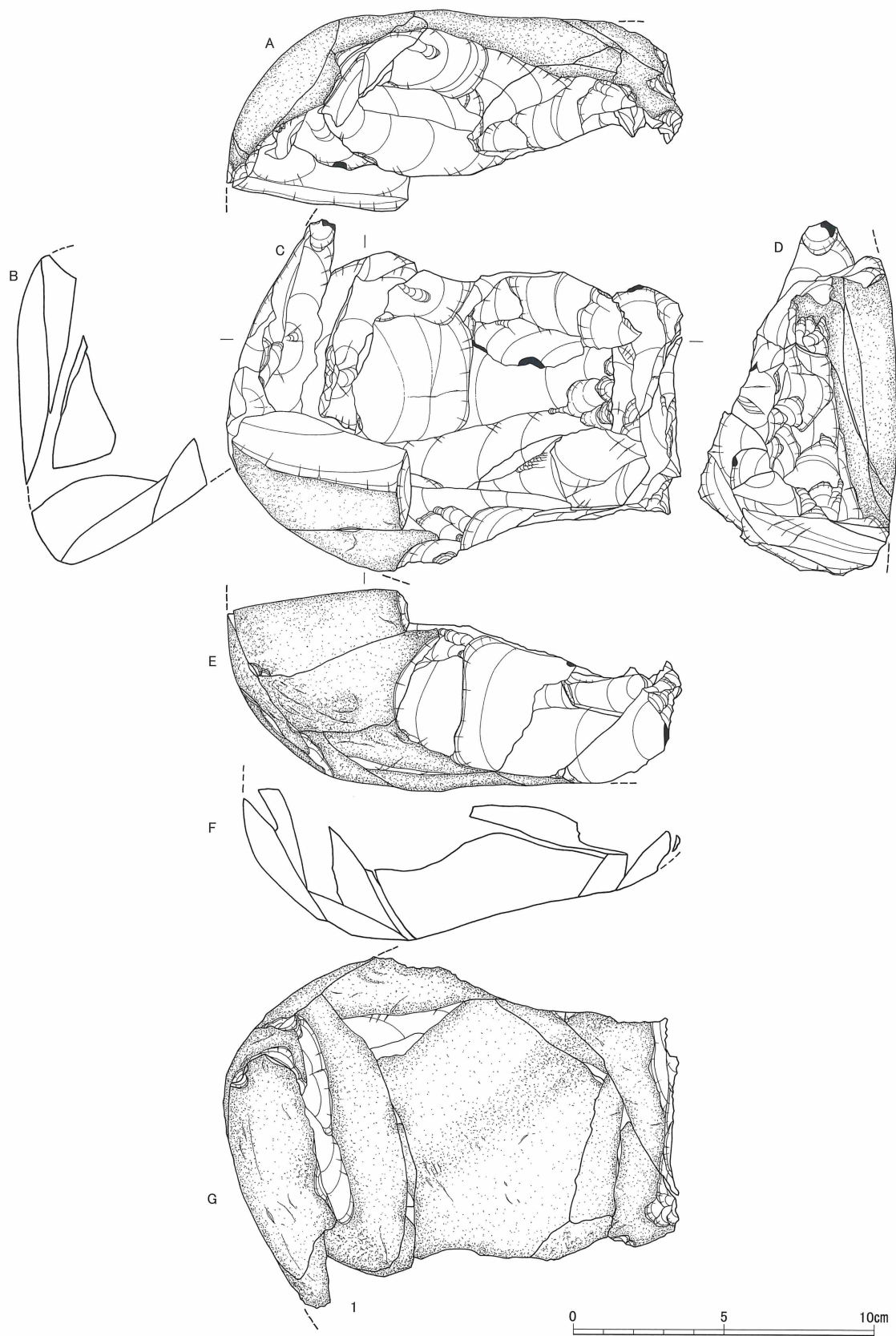
第116図1(4B487)・2(4B540)・3(4B456)は4B区のⅢ層から出土した接合資料で、これらの接合状態が第117図1である。接合図を説明する。断面図Gは下部は左から1・3・4、3の上に接合するのが2である。Eでは右端に1が、左端に4が接合している。接合状態では長さ10.7cm・幅7.4cm・厚さ3.7cm・重さ267.1gである。素材の円礫のごく一部である。B～E図の上部に突出する剥片やC図に見える面の剥離痕跡がすべて上方からである。A図に見える剥離痕跡は打面再生を示している。

第118図2～7は4B区のⅢ層から出土した接合する剥片である。接合状況図(第117図2)を説明する。Bの断面に重なる3個の剥片は左から6(4B290)・7(4B211)・4(4B436)である。同様にCは3(4B203)・4・2(4B595)である。この一群の接合資料で最後に剥離されたのは3であり、これだけ他の破片と異なる方向からの剥離である。

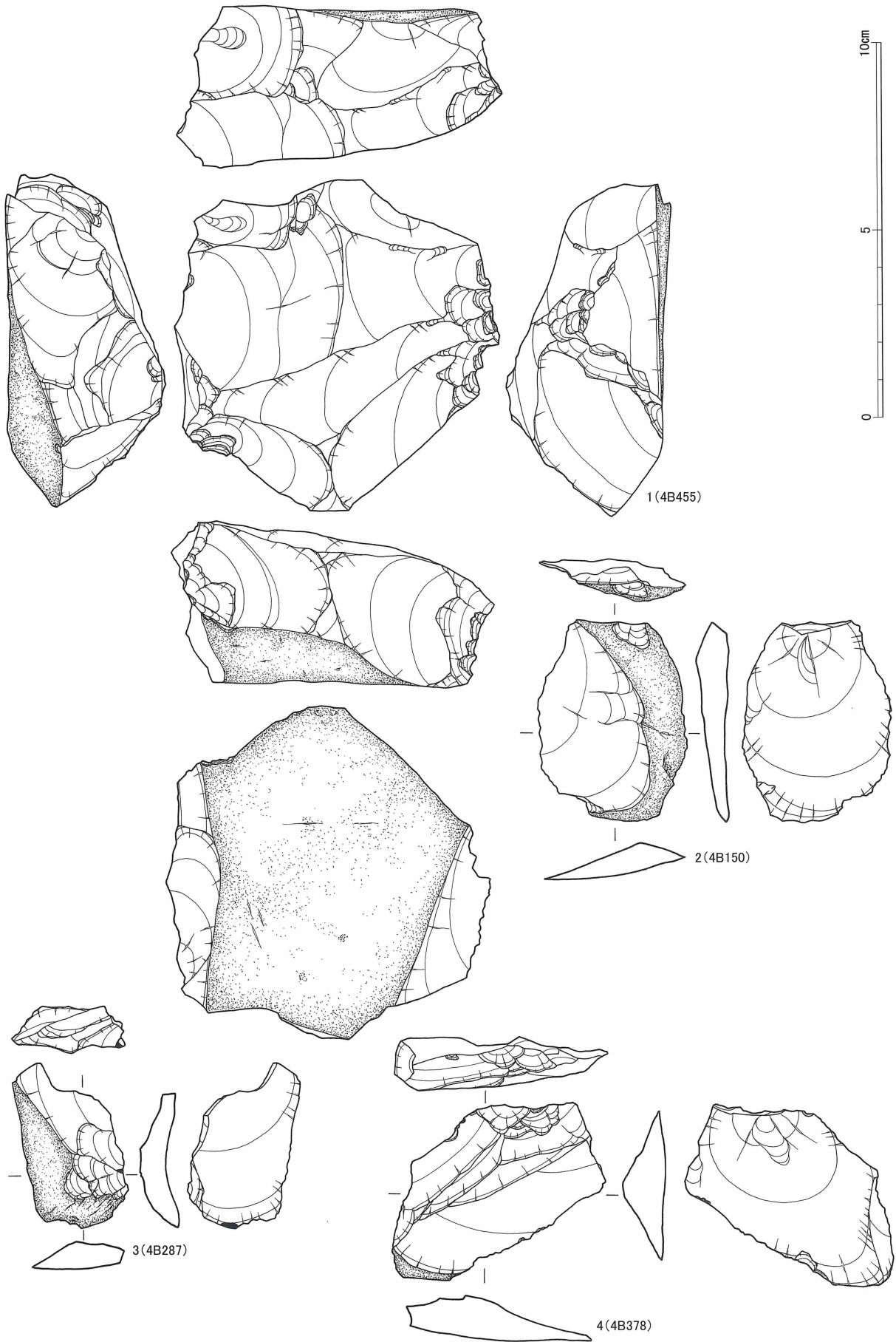
第119図1(4B188)・2(4B261)・3(4B358)は4B区のⅢ層から出土し、第120図1のように接合する。1と3は一度の



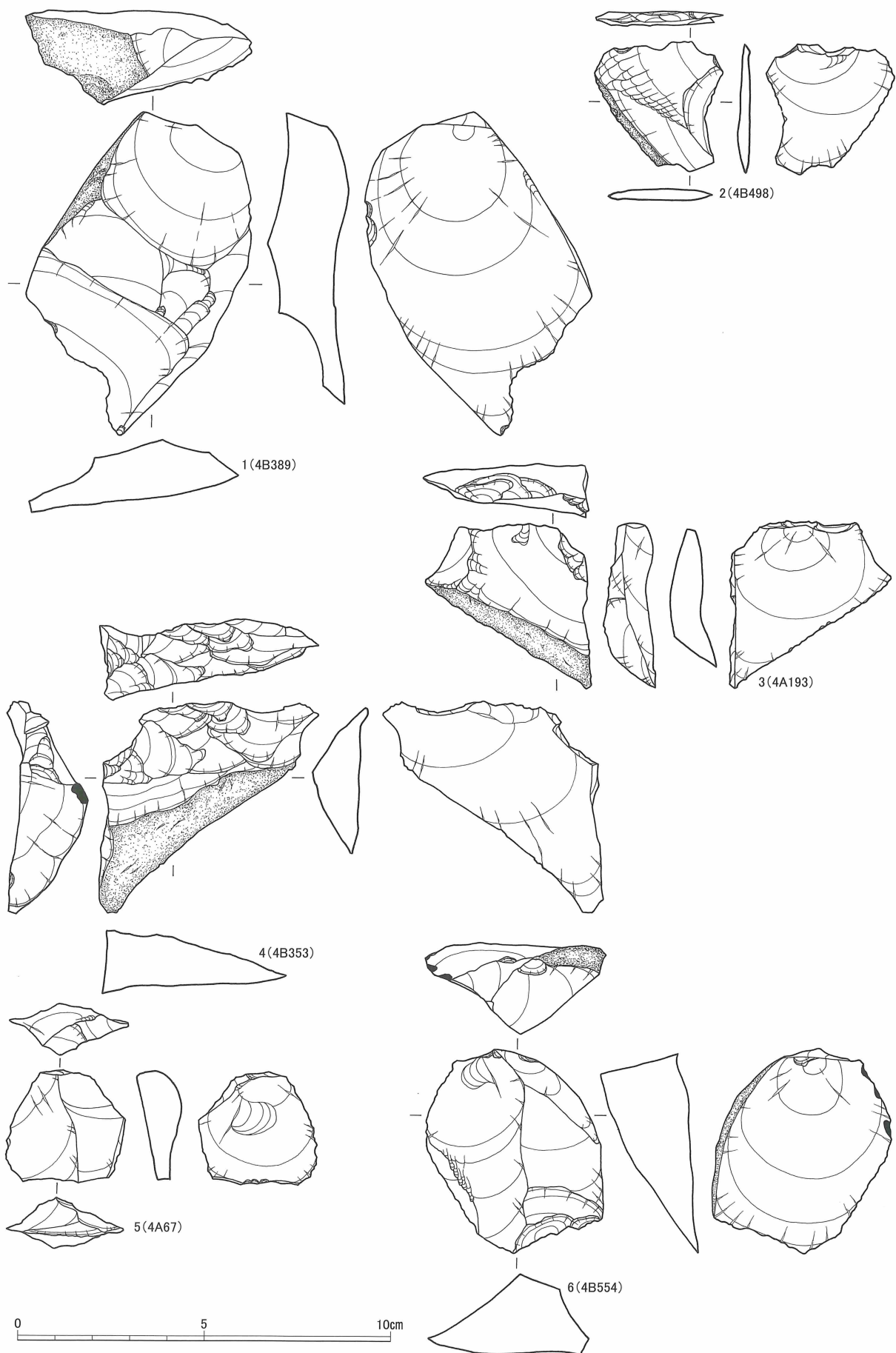
第120図 4B区出土石器接合図



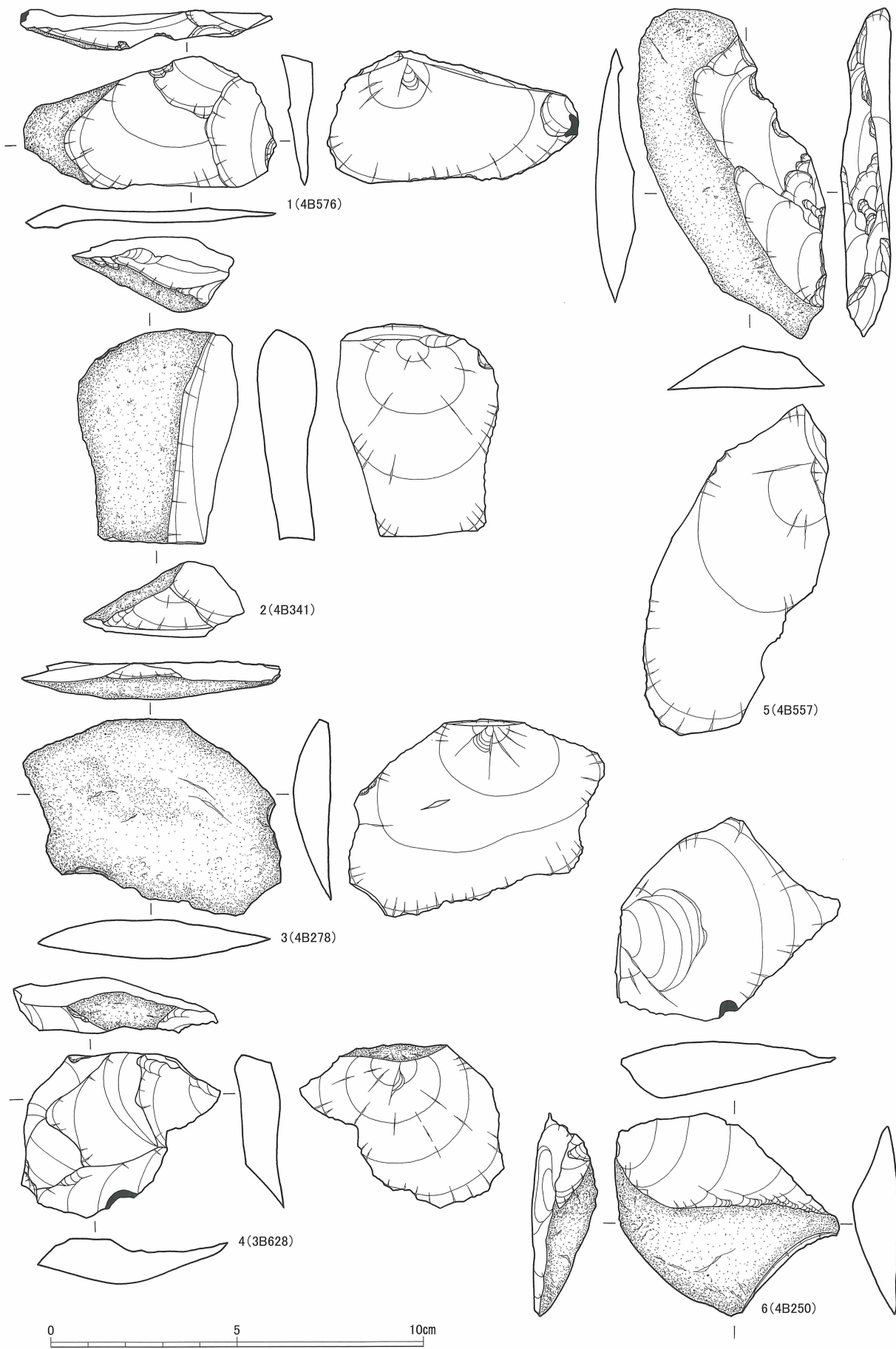
第 121 图 4B区出土接合资料



第 122 图 4B区出土接合資料



第 123 图 4B区出土接合資料



第 124 图 4B区出土接合資料

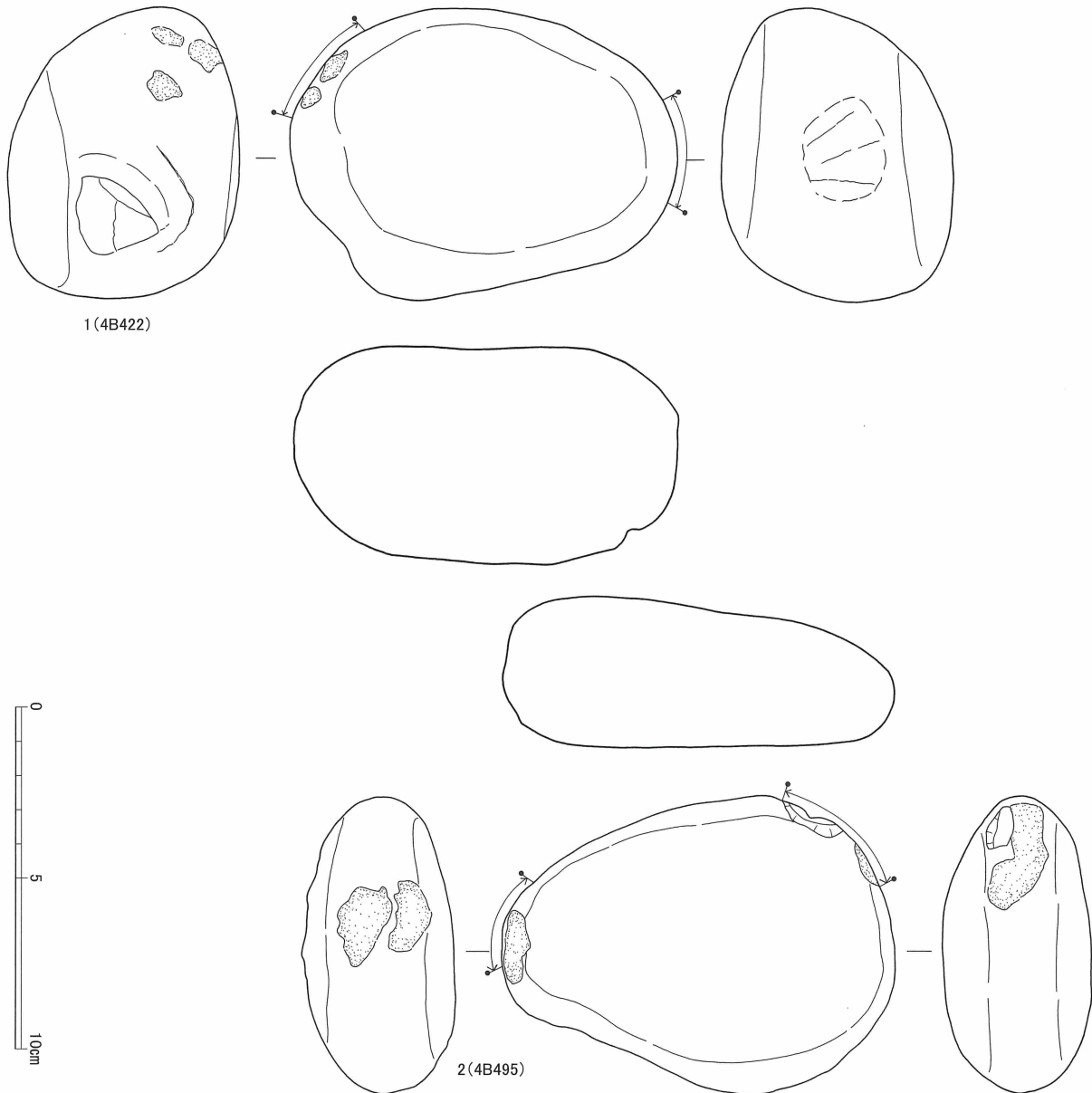
打撃で剥離したもの。2が最後に剥ぎ取られた剥片である。

第119図4(4B253)・5(4B538)は4B区のⅢ層から出土し、接合する。その接合状態図が第120図3である。4は長さ8.9cm・幅2.3cm・厚さ1.1cm・重さ19.4g。5は長さ11.1cm・幅4.6cm・厚さ2.5cm・重さ99.7g。

第119図6(4B511)・7(4B260)は4B区のⅣ層から出土した。第120図2がその接合状態図である。個別図では7の主要剥離面のリングは要修正である。6に残された右上からの剥離は7の剥離痕であり、7は折断している。

第121図は第122～124図の破片の接合状態である。素材となった円礫の1/3ほどが復元でき、表面を剥ぐ過程、背面に自然面をもちながら打面再生を行い剥片剥離を繰り返した状態を示している。

第122図1(4B455)は最後に残った石核で、長さ8.7cm・幅8.9cm・厚さ3.9cm・重さ332.7g。

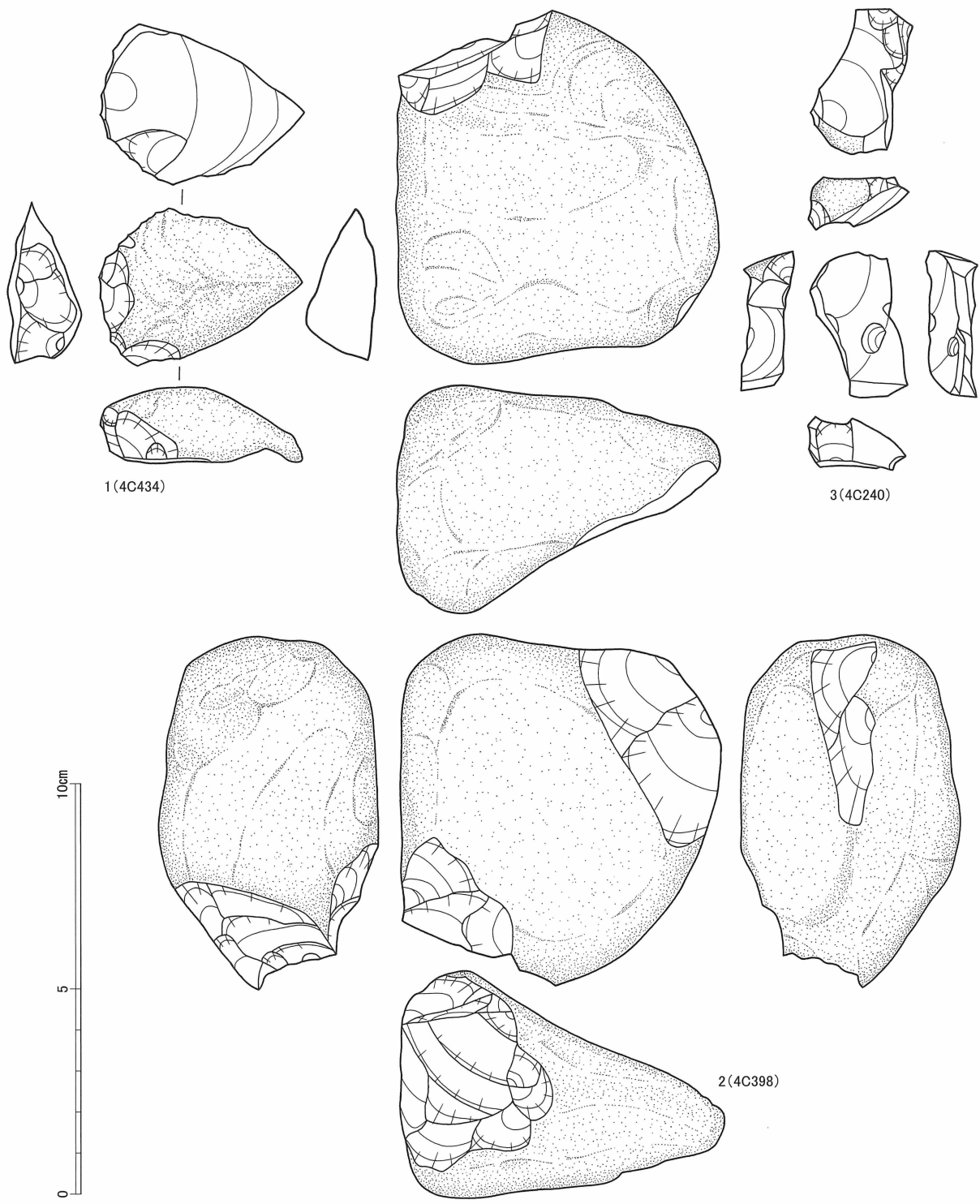


第125図 4B区Ⅲ層出土叩き石

第122図2(4B150)は長さ5.3cm・幅4.0cm・厚さ0.9cm・重さ17.7g。

第122図3(4B287)は長さ4.4cm・幅3.1cm・厚さ0.9cm・重さ11.4g。

第122図4 (4B378) は長さ4.8cm・幅7cm・厚さ1.1cm・重さ25.1g。
 第123図1 (4B389) は長さ6.6cm・幅6.0cm・厚さ2.2cm・重さ76.8g。
 第123図2 (4B498) は長さ3.5cm・幅3.4cm・厚さ0.4cm・重さ3.8g。
 第123図3 (4A193) は長さ5.4cm・幅4.1cm・厚さ1.0cm・重さ18.5g。
 第123図4 (4B353) は長さ5.1cm・幅5.9cm・厚さ1.7cm・重さ31.1g。
 第123図5 (4A67) は縦5.1cm・横3.2cm・厚さ1.2cm・重さ9.1g。
 第123図6 (4B554) は長さ5.5cm・幅4.8cm・厚さ2.2cm・重さ47.0g。



第126図 4B区IV層出土接合資料

第124図1 (4B576) は打点の反対側縁辺部の直線的な部分に長さ4cmほどに刃こぼれがある。さ3.5cm・幅6.8cm・厚さ0.7cm・重さ14.5g。

第124図2 (4B341) は長さ5.7cm・幅4.3cm・厚さ3.7cm・重さ44.4g。

第124図3 (4B278) は長さ5.2cm・幅6.9cm・厚さ1.0cm・重さ32.9g。

第124図4 (3B628) は長さ4.4cm・幅5.5cm・厚さ1.2cm・重さ25.4g。

第124図5 (4B557) は長さ5.0cm・幅8.8cm・厚さ1.2cm・重さ43.3g。打点の反対側の先端周辺から縁辺には長さ10cmほどの範囲に刃こぼれが認められる。刃こぼれのない側には背面側に小剥離が並んである。

第124図6 (4B250) は長さ6.0cm・幅5.4cm・厚さ1.5cm・重さ39.3g。

第121図の剥離過程についてAからGに分けて説明したい。Aの右端には4点の調整要の剥片が接合する。

第123図4→第122図3→□で円礫の端部は一端休止。反対側の端(瓜とt) A図の左)も同様に長軸に対して横方向の剥片生産を行っている。その後、以上の剥離方向と直交する方向からの打撃により第124図2→同6→第124図1を剥離。A図右側でも直交方向の第123図5→再び元の方向から第123図3→第123図6でこちら側は終了。

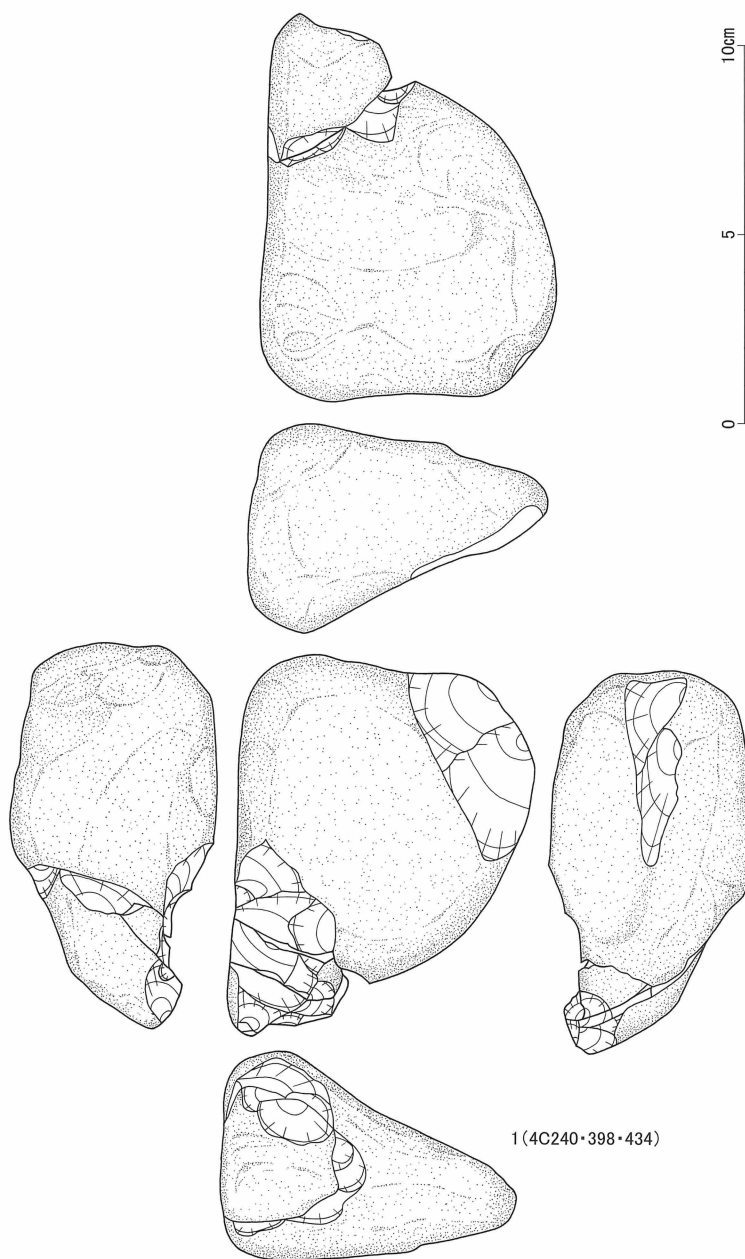
第125図1は4B区Ⅲ層から出土した叩き石である(4B422)。長さ11.2cm・幅8.5cm・厚さ6.3cm・重さ890gで、長軸の両端に叩打痕がある。

第125図2(4B495)は4B区Ⅲ層から出土した叩き石である。幅の狭い端部とその反対側の端の方に叩打痕がある。

第126図1(4C434)・2(4C398)・3(4C240)は4C区Ⅴ層から出土した接合する石器である。第127図に接合状態を示す。接合状態では長さ7.8cm・幅10.1cm・厚さ5.4cm・重さ446.8gである。この円礫は二箇所を打ち割られているが、目的物を得られないとして放棄したのだろうか。

第128図1(4C58)は横長の剥片を素材とした三稜尖頭器である。厚みが減少する方を先端部とすると本品は未完成であろう。規模は長さ6.6cm・幅2.0cm・厚さ1.6cm・重さ15.2gである。

第128図2(4C110)は尖頭器状の石器未製品である。長さ4.9cm・幅2.2cm・厚さ1.3cm・重さ11.8gである。Ⅲ層

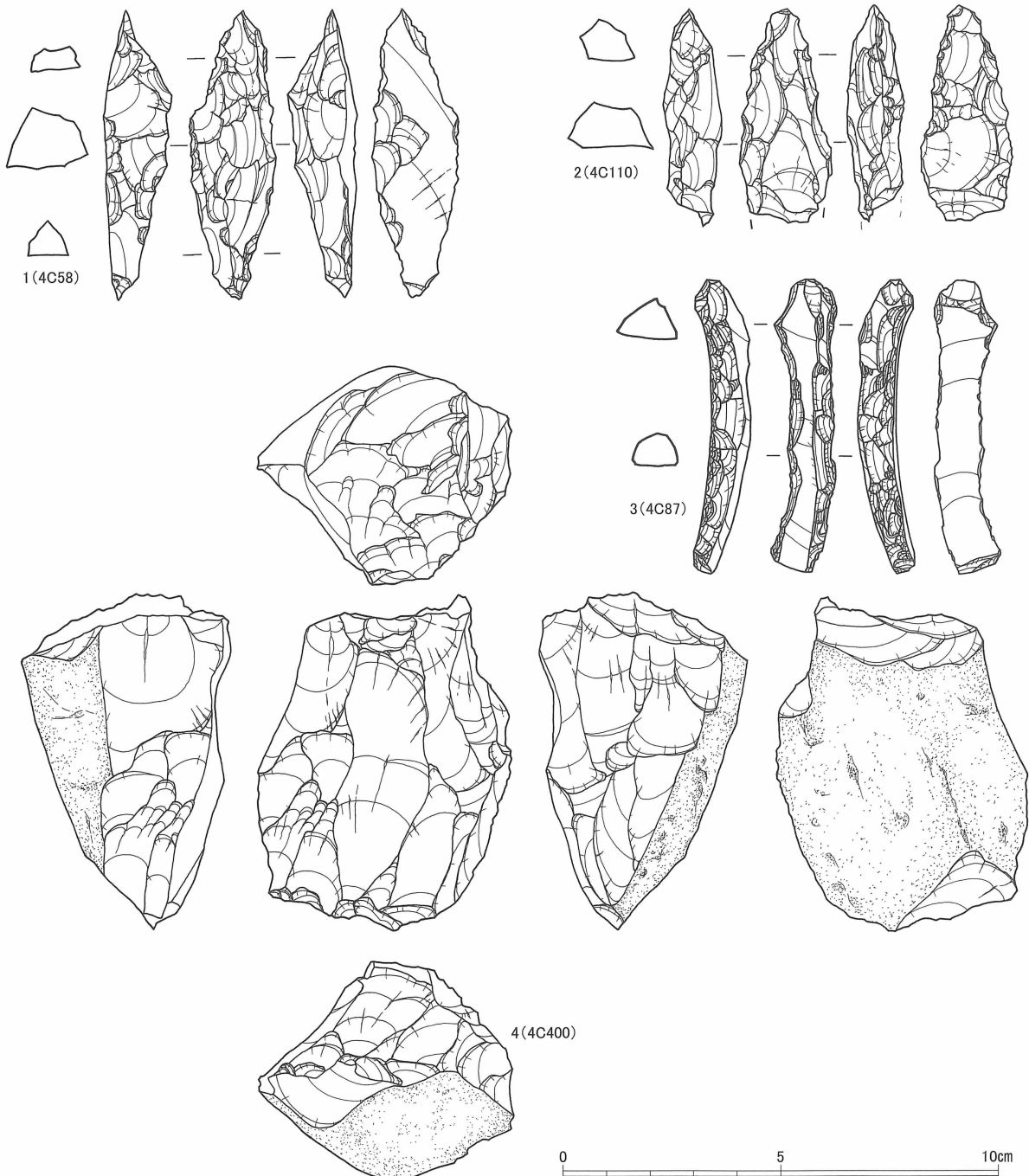


第127図 4B区Ⅴ層出土石器接合図

出土。小型の三稜尖頭器の未製品か。

第128図3 (4C87) は4C区のⅢ層から出土した石器で、縦長剥片の両側辺にナイフ形石器に行うような背つぶし加工をしている。長さd 6.7cm・幅2.1cm・厚さ1.3cm・重さ10.5g。中央部断面での厚さは0.9cm。何かの用途がある石器であろう。

第128図4 (4C400) はⅥ層出土の片側に自然面を残す石核で、上下両方からの剥片剥離作業が行われている。長さ7.7cm・幅5.8cm・厚さ4.8cm・重さ201.3gである。



第128図 4B区Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ層出土石器

遺物実測図を示していない石器接合例がある。

○3C182・4B146・4B202・4B223・4B225・4B257・4B266・4B326・4B350・4B356・4B402・4B424・

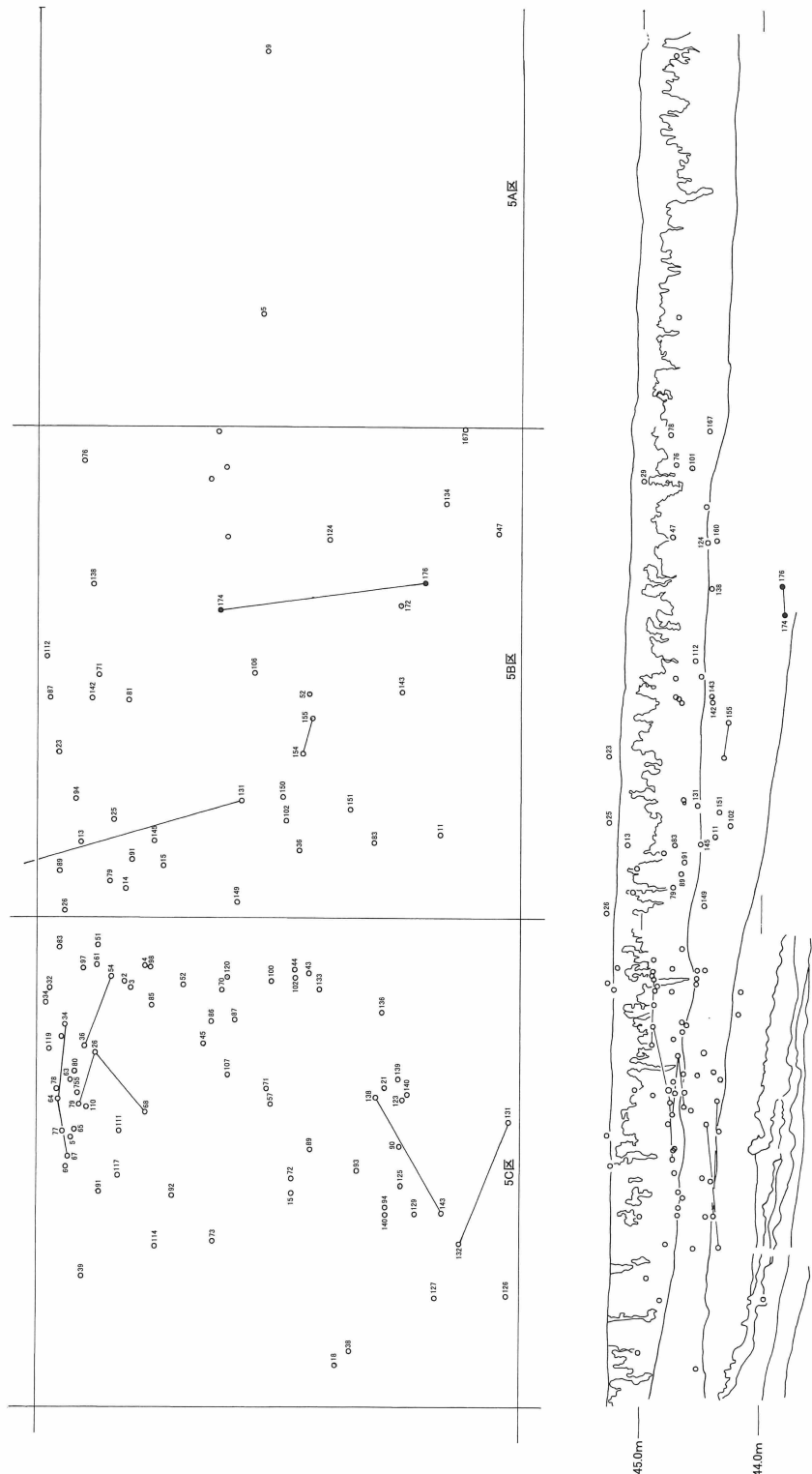
4B446・4B485・4B488・4B565・4B588・4B593である。これらは主にⅢ層下部から出土している。
 ○2A1・4B252・4B276・4B309・4B361・4B431・4B447・4B464・4B494・4B534・4B555はⅣ層から主に出土した接合例である。
 ○4B268・4B368・4B585はⅢ層を中心とした接合例である。
 ○4B321・4B342・4B425・4B469・4B477・4B493はⅢ層の接合例である。
 ○4B298・4B465・4C149はⅢ層の接合例である。
 ○1B624・4B460・4B480はⅢ層の接合例である。
 ○2B739・4B463はⅢ層かⅣ層の接合例である。

5区の調査

5区はA・B・Cの範囲を調査した。層序は西から東に向かい低下する。黒色土であるⅡ層の残り具合がよく、層厚は30cm程度もあった。Ⅲ層は層厚が約50cm前後あり、Ⅳ層はB区では上部でさらに分層した。調査区は標高43.7m付近まで掘り下げたが、西部では水成の粘質土層が数枚現れる状態だったが、斜めに堆積していたので東部ではⅤ層上面付近で終わっている。遺物の出土状況は他の場所に比べると割合に少なかったが、特にA区ではほとんど出土していない。B区・C区を一塊とすると周辺部で遺物が少ない状態だった。

石器の分布状態

大半の石器はⅢ層から出土した。標高44.4m付近から45.3m付近までに満遍なく包含された状態で、ある面で並ぶというような異名認められなかった。5B区の接合した剥片(5B174・5B176)は標高43.83m前後に位置しⅣ層上部に対比できる。5C区では北東部で3例4個が接合



第 129 図 5区出土石器分布図

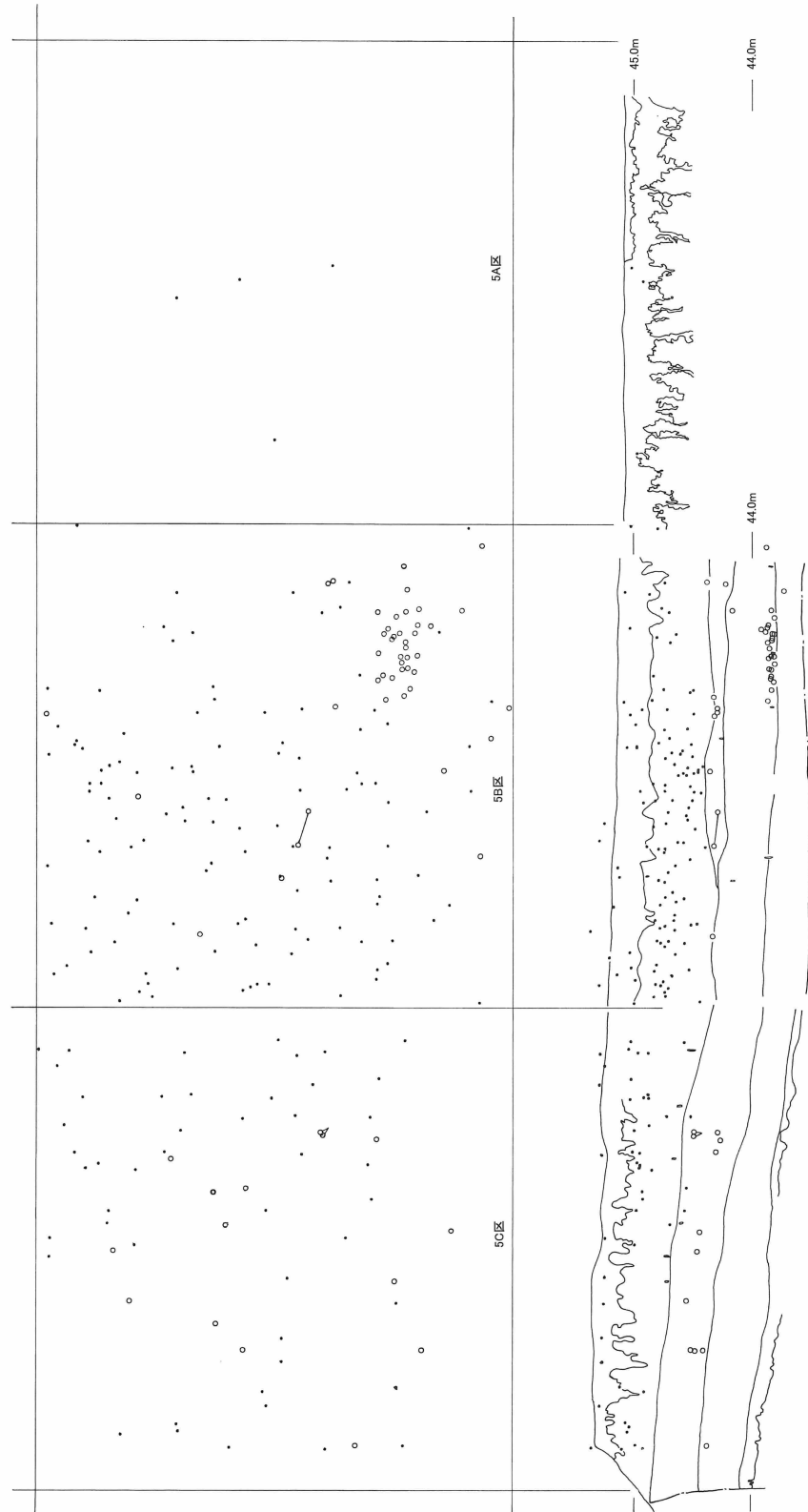
している。5C36と5C54は標高44.9m前後のほぼ同じ高さで接合した。5C68と5C82の接合例は44.7m前後にあり、平面的には付近の5C64と5C34は15cm程度の高低差があった。以上はⅢ層中での接合である。

Ⅳ層での接合は2例ある。5C131と5C132、5C138と5C143は標高44.4m前後から出土し、Ⅳ層上部から中部に対比できる。

礫の分布状態

5C区からはⅡ層・Ⅲ層・Ⅳ層・Ⅳ層下部から礫が出土した。第130図にはⅡ層・Ⅲ層の礫を小さい点で、Ⅳ層の礫を白丸で示した。これらの分布状態はⅡ層・Ⅲ層ではB区全域に、5C区では南部を除いて散漫に分布し、5A区にはほとんど見られなかった。包含層中での高低差は激しい状態であり、ある面にまとまることはなかったが、あえて言えばⅢ層に集中していた。

Ⅳ層からは5B区・5C区に散漫に出土するものがあった一方、Ⅳ層最下部に、高低差10cmほどの中に礫がみられた。これらは5B区の南東部に位置し、東西1.1m×南北0.6mほどの範囲に分布した。

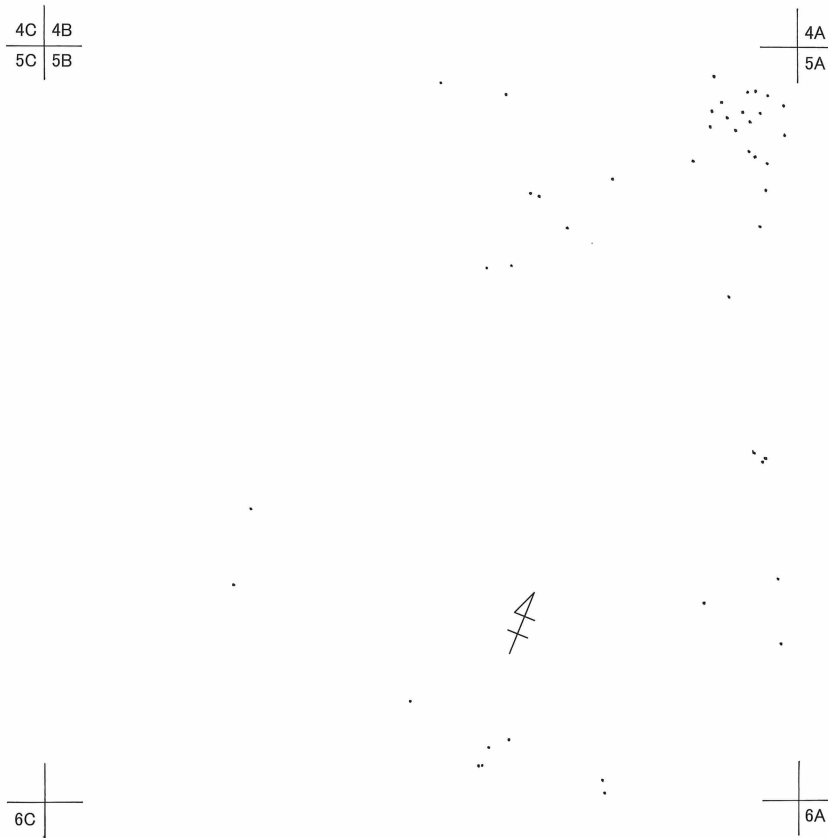


第130図 5区出土礫分布図

炭化物の分布

5B区のⅢ層下部には直径2mm前後の炭化物が分布していた（第131図）。分布していたのは5B区の北東部にやや濃密な場所がある他、5B区の全域に少量、東部にやや多く分布していた。

この付近では4A区南西部から5A区の北西部のⅡ層で濃密な分布があったし、それと重なる場所でも分布していた。6B区南西部のⅣ層上面にも分布していた。これらと位置・含まれていた層序を比べると5B区Ⅲ層下部の炭化物分布は重複しないので、別のものということになる。但しある水平な一面を切って観察した結果であり、これが全てというわけではない。この直上にも直下にも当然炭化物の分布は続いていたはずである。



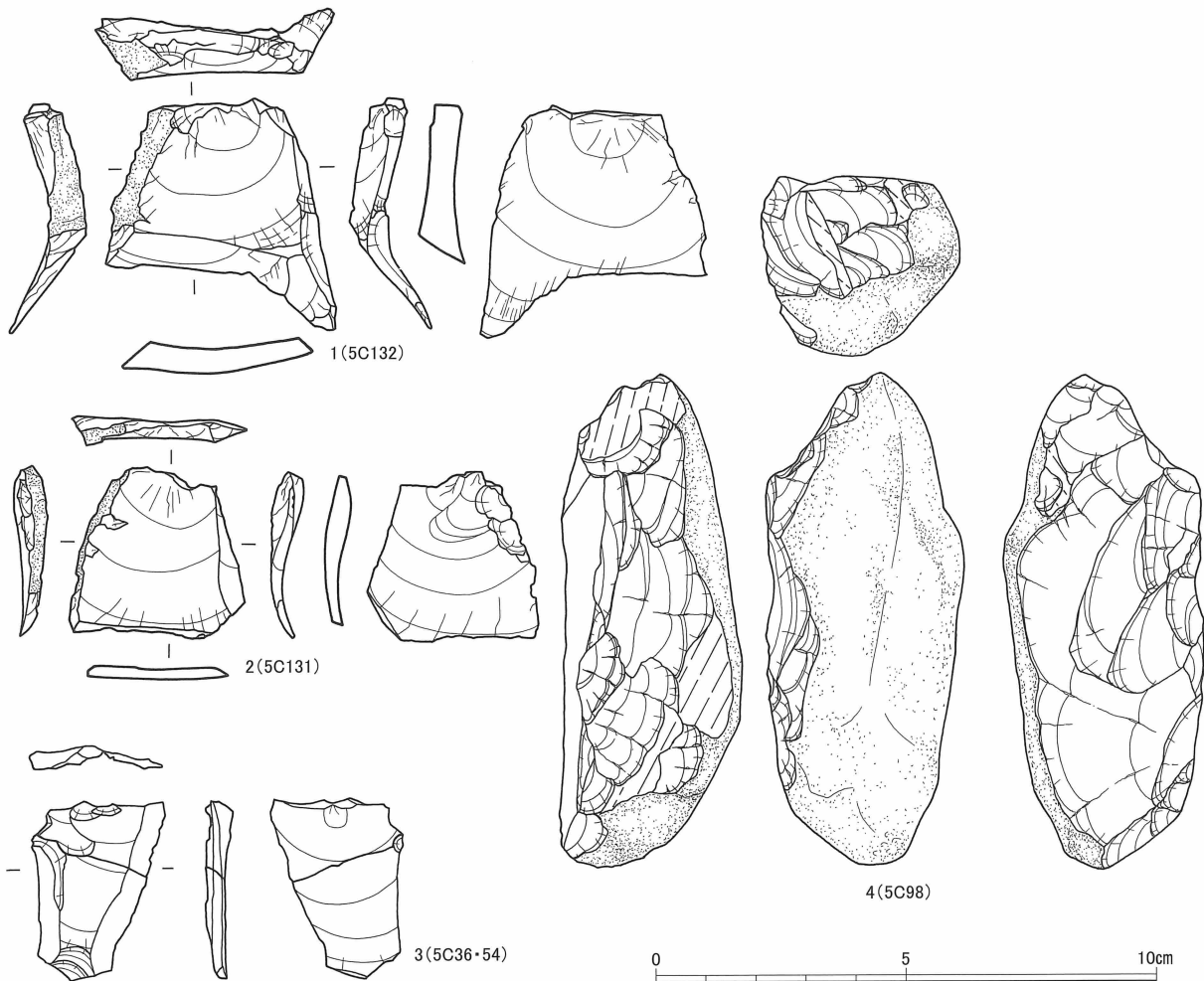
第 131 図 5B区Ⅲ層下部の炭化物分布状態

5区出土石器

第132図 1 (5C132) ・ 2 (5C131) は5C区のⅢ層から平面的に1.7mほど離れた場所から出土した接合資料である。その接合状態を第136図4に示した。二つの剥離は1→2の順に行われている。その際、打面調整が行われたようで新しい方の2の打面は1に比べ微妙な段差が生じている。1は長さ4.6cm・幅4.6cm・厚さ1.3cm・重さ14.3g。2は長さ3.4cm・幅3.5cm・厚さ0.7cm・重さ5.8g。2点とも表裏の剥離方向が一方向である。短い縦長剥片状ともいう形状である。

第132図 3 (5C36・5C54) は5C区ⅢのⅢ層から出土した中程で折れ、接合した接合資料である。半分に折れた剥片の上部が5C54、下部が5C36である。

第132図 4 (5C98) は小型の円礫を利用した石核である。長軸の片側から剥離している。図中の斜線部は節理面である。長さ3.0cm・幅9.8cm・厚さ3.6cm・重さ189.8gである。



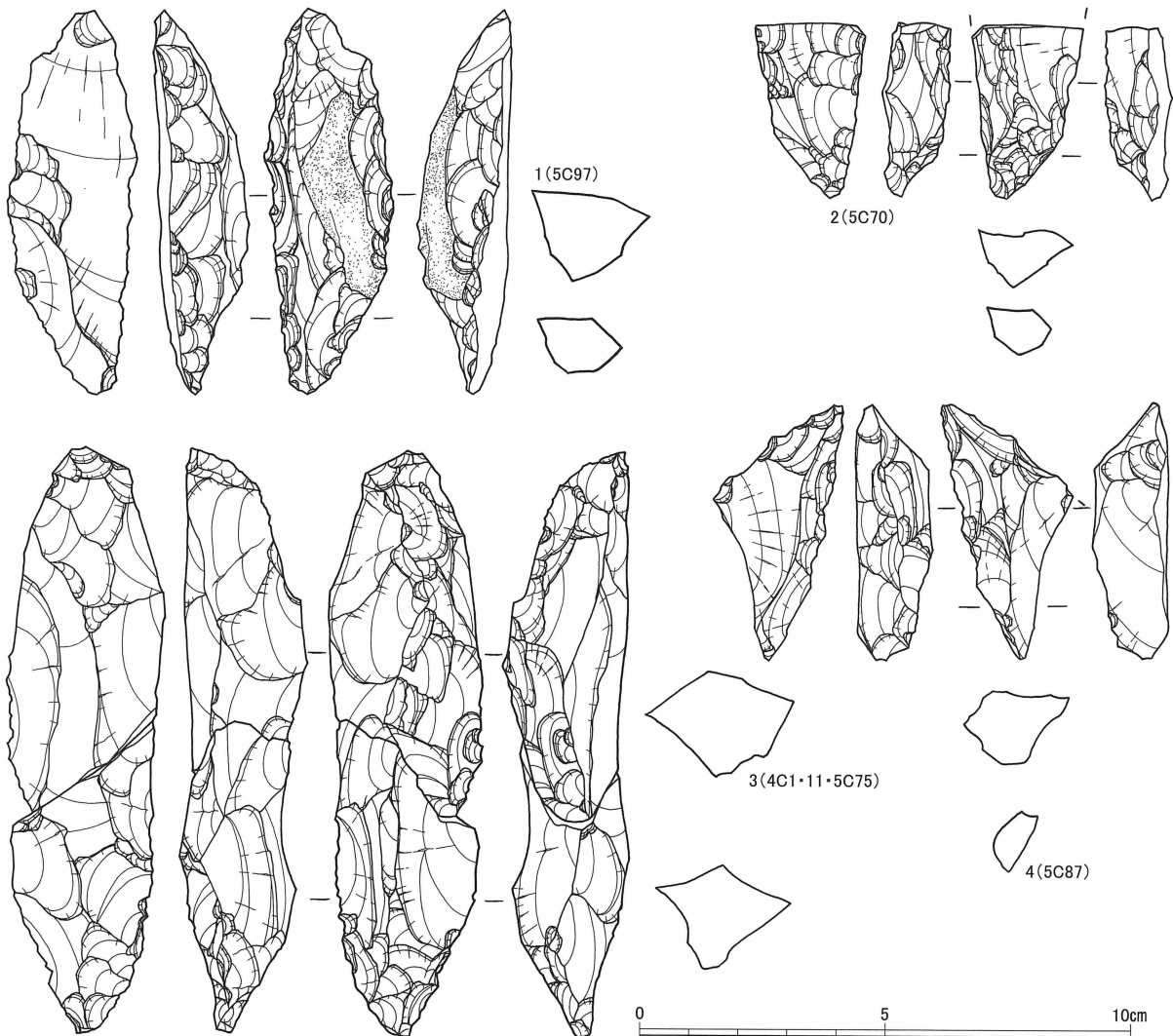
第132図 5C区出土石器

第133図 1 (5C97) は縦長剥片を素材とした三稜尖頭器の未製品である。主要剥離面の反対側、背面には自然面が残る。二次加工は主要剥離面側からだけ行われた段階で、外形は完成形に至っていない。長さ9.8cm・幅2.6cm・厚さ1.8cm・重さ35.8gである。

第133図 2 (5C70) は三稜尖頭器の片端である。素材は横長の剥片でその主要剥離面は尖頭器の側面になっているらしい。長さ3.0cm・幅2.3cm・厚さ1.4cm・重さ9.6gである。

第133図3 (4C111・5C75) は三稜尖頭器の未製品段階で半分に折れたものである。4C空と5C区に分かれ80cmほど離れた場所で出土した。素材の剥片は縦長で、細長く中央部に縦方向に残る。図上部の破片は二つに折れた後も二次加工が加えられている。長さ11.8cm・幅3.2cm・厚さ2.7cm・重さ82.9gである。

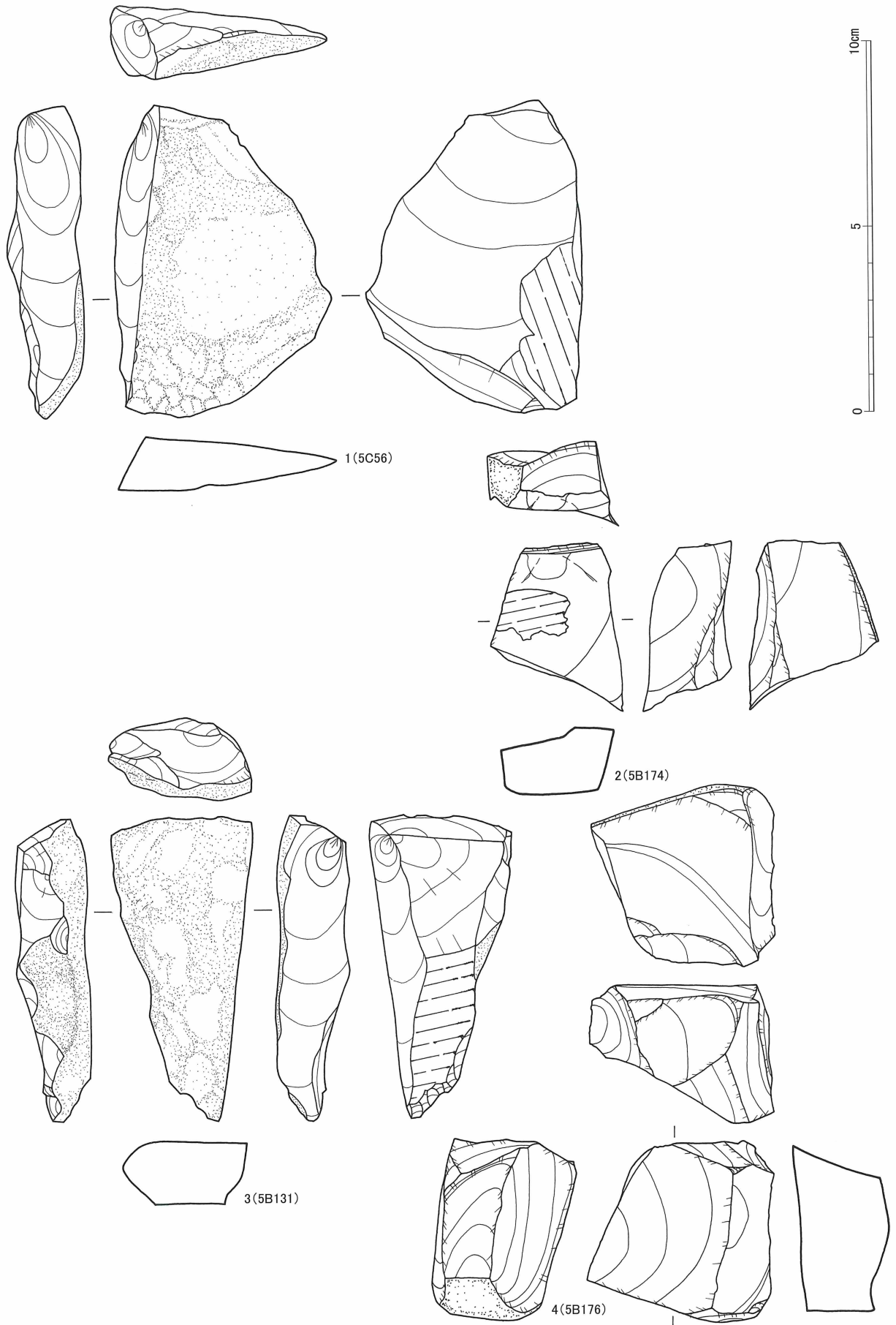
第133図4 (5C87) は三稜尖頭器の一部である。横長の剥片を素材にしている。長軸は長さ5.1cm・幅2.9cm・厚さ1.6cm・重さ14.2gである。



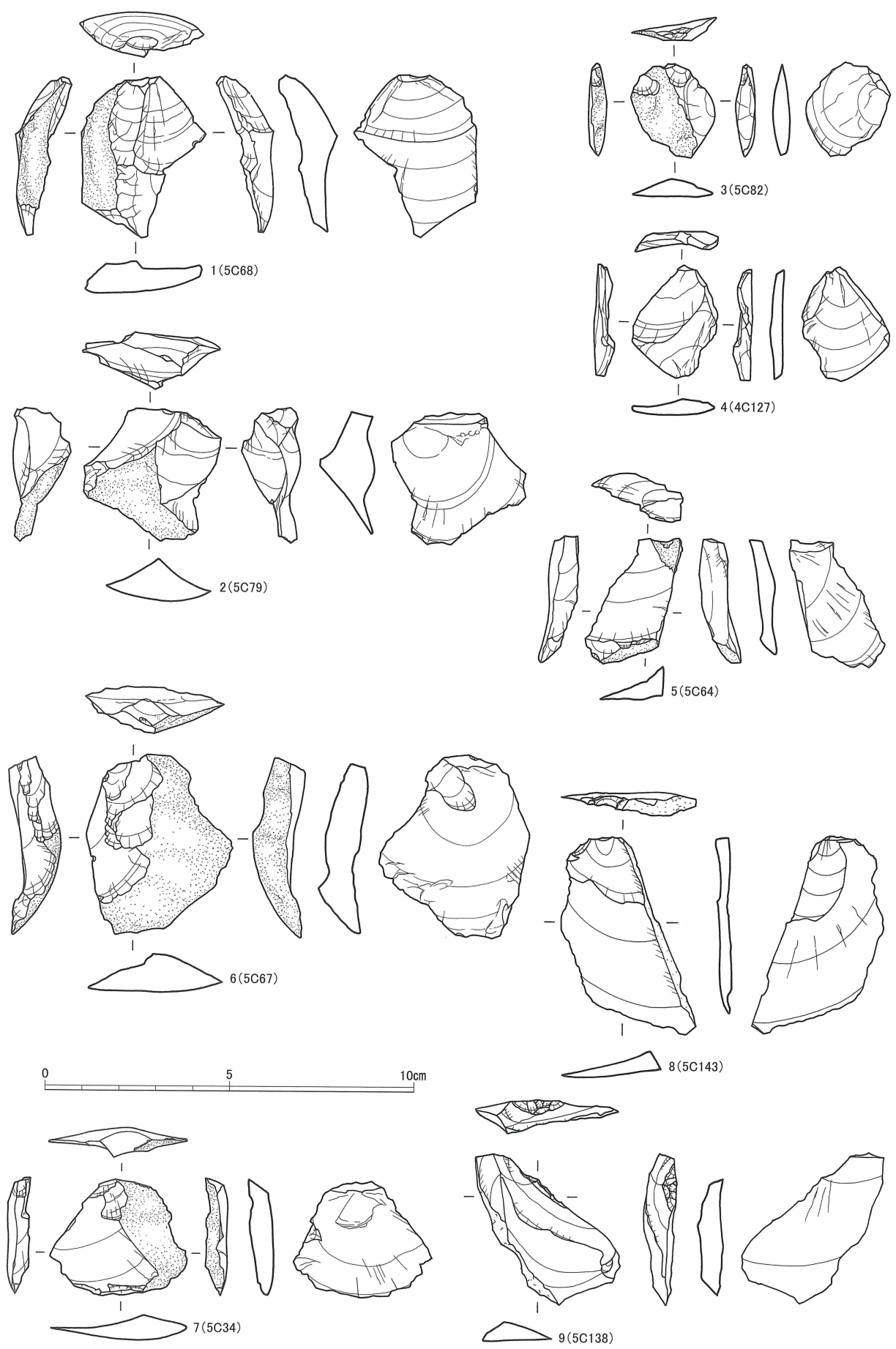
第133図 5C区出土石器

第134図1 (3C56) は3C区Ⅲ層、3 (5B131) は5B区のⅢ層から出土した剥片で、一度の打撃で二つに割れたものである。接合状態では長さ8.5cm・幅8.5cm・厚さ2.1cm・重さ150.3g。

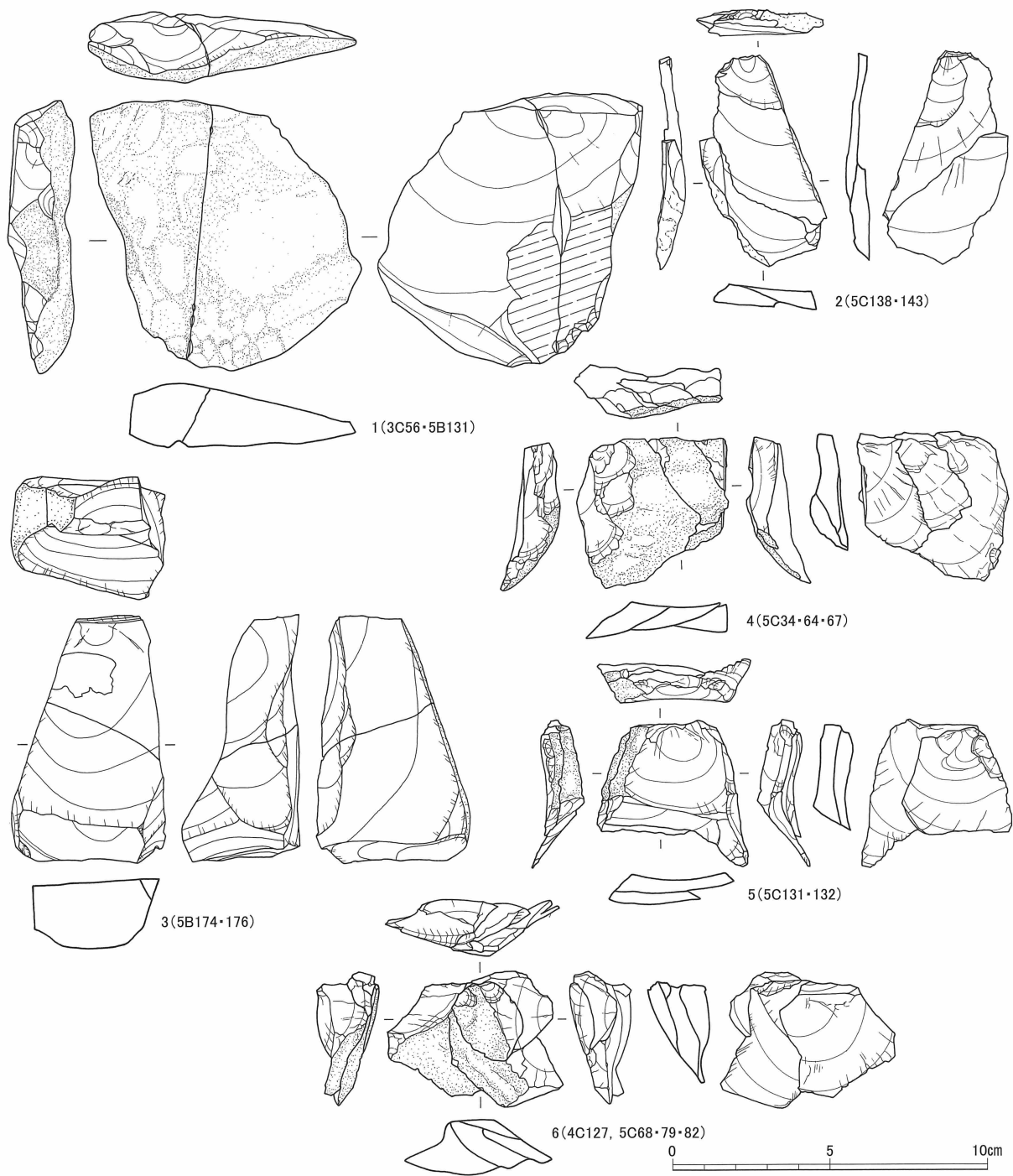
第134図2 (5B174)・4 (5B176) は5B区のⅣ層から出土した剥片である。ひとつの剥片が折断したものである。接合状態で長さ7.8cm・幅4.8cm・厚さ4.8cm・重さ148.5gである。



第 134 图 5B区出土接合資料



第 135 图 5C区出土接合資料



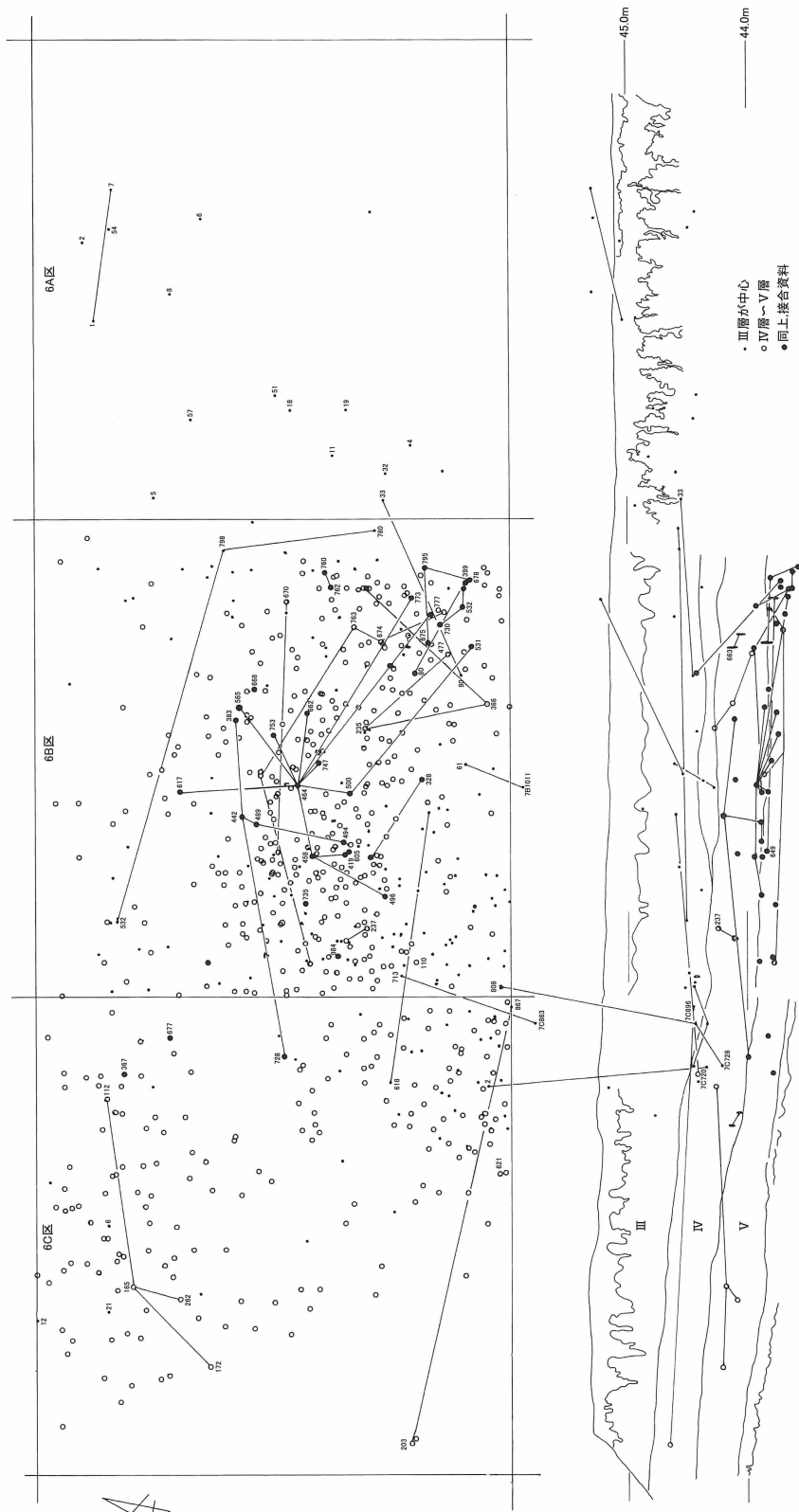
第136図 5B・5C区出土石器接合図

第135図1～4右は5C区のⅢ層から出土した接合する剥片である。その接合状態を第136図6に示すように3(5C82)→4(4C127)→1(5C68)→2(5C79)の順である。そのうち4は他とは直交する方向から打撃剥離されている。

第135図5(5C64)・6(5C67)・7(5C34)は5C区のⅢ層から出土し、接合する剥片である。その接合状態を第136図4に示すように円礫の外皮から7→6→5の順に剥離されている。これらの打撃面は共通の一面を利用している。接合状態で長さ4.7cm・幅4.8cm・厚さ1.3cm・重さ30.2g

第135図8 (5C143)・9 (5C138) は5C区のⅢ層から出土した。第136図2に接合状態を示す。先に8が剥離され、打撃面が2.5cmほど下がった段階に9が剥離されている。8は長さ4.8cm・幅2.7cm・厚さ0.4cm・重さ6.6g。9は長さ3.1cm・幅.72cm・厚さ0.9cm・重さ7.5g。

5B区等から出土した接合資料で遺物実測図を示さなかったのは以下のものである。
 ○5B172・7B307・7B518・7C775・7C938のうちと5B1727C938ははⅣ層、他の3点はⅢ層から出土した。
 ○5C1・5C35・5C115はⅡ層・Ⅲ層から出土した。
 ○5C120・6B180・6B386・6B390・6B463・6B547・6B604・6B651・6B664・6B689・6B736・6B740・6B741のうち、Ⅲ層出土は5C120・6B180、Ⅳ層出土は6B390・6B547・6B689で他はⅤ層出土。



第137図 6区出土石器分布図